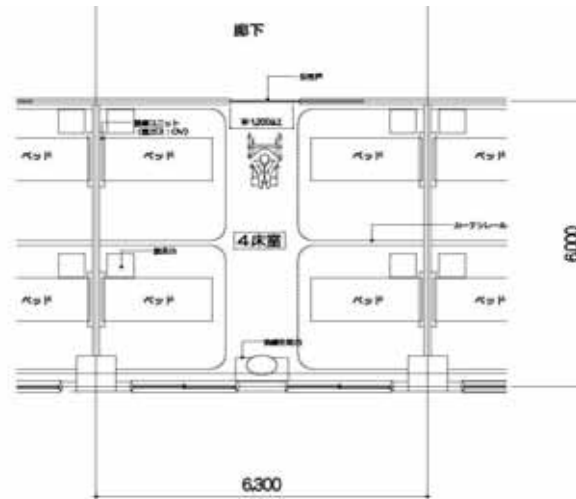


諸室No.	01-01-01	種別	病棟	部門	一般病棟	
室名	4床室				室数	10
面積	37.8	m ²	以上	標準寸法	6.3 m x 6 m	
用途	入院居室					
平均在室人数	8	人	最大在室人数	16	人	
隣接すべき室名						
近接すべき室名	男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレ					
内装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。					

特記事項

各ベッドサイドには、車椅子、点滴台が一時保管できるスペースを確保すること。
 各ベッドごとにキュービクルカーテンを設けること。なお、設置に当たっては自殺防止対策を講じること。
 各ベッドには使用していないときに壁面に収納できる医療パネルを設置すること。
 各ベッドには調光可能な読書灯を設置すること。
 照明器具は直接光源が目に入らないように配慮すること。
 夜間のベッド足元廻りに照明を設置すること。
 出入口はベッドの出入りが容易に行なえる開口を確保すること。
 各病室間の間仕切りは遮音壁とし、隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。
 ベッド搬送時に壁面等が破損しないように配慮すること。
 照明等のスイッチは入口の近くに設置すること。
 空調の吹き出しがベッドに直接当たらないように工夫すること。
 扉は額付きとすること。ただし、夜間廊下の光が中に入らないように配慮すること。
 各ベッドにコートが掛けられ、キャスターバッグが収納できる造り付け更衣ロッカーを設置すること。

レイアウト



諸室No.	01-01-02	種 別	病棟	部 門	一般病棟
室 名	個室			室 数	10
面 積	18.9	m ²	以上	標準寸法	3.15 m x 6 m
用 途	入院居室				
平均在室人数	2	人	最大在室人数	5	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>重症個室2床と有料個室2床はスタッフステーションの近くに配置し、有料個室2床は病棟の奥側に配置すること。</p> <p>病室の窓側にトイレ付きユニットシャワーを設置すること。</p> <p>トイレ付きユニットシャワーは介助者が介助可能な広さとすること。</p> <p>使用していないときは壁面に収納できる医療パネルを設置すること。</p> <p>調光可能な読書灯を設置すること。</p> <p>照明器具は直接光源が目に入らないように配慮すること。</p> <p>夜間のベッド足元廻りに照明を設置すること。</p> <p>出入口はベッドの出入が容易に行なえる開口を確保すること。</p> <p>各病室間の間仕切りは遮音壁とし、隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>ベッド搬送時に壁面等が破損しないように配慮すること。</p> <p>重症個室2床及び病棟の奥に配置する有料個室2床にITV設備を設置し、スタッフステーションで確認できること。</p> <p>扉は額付きとすること。ただし、夜間廊下の光が中に入らないように配慮すること。</p> <p>有料個室には洗面化粧台、重症個室には手洗い器を設置すること。</p> <p>照明等のスイッチは入口の近くに設置すること。</p> <p>空調の吹き出しがベッドに直接当たらないように工夫すること。</p> <p>コートが掛けられ、キャスターバッグが収納できる造り付け更衣ロッカーを設置すること。</p>				

諸室No.	01-01-03	種 別	病棟	部 門	一般病棟
室 名	ダイルーム			室 数	1(2病棟当たり)
面 積	56	m ²	以上	標準寸法	m x m
用 途	患者の食事や談話に使用する、 家族の面会やレクリエーションを行う				
平均在室人数	15	人	最大在室人数	46	人
隣接すべき室名	配膳室				
近接すべき室名					
内 装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>車椅子対応の公衆電話ボックスを設置するスペースを確保すること。</p> <p>自動販売機及びゴミ容器を設置すること。</p> <p>使用していないときは壁面に収納できる医療ガスのアウトレットを設置すること。</p> <p>患者のアメニティに配慮したインテリアとすること。</p> <p>4人がけテーブル(アジャスター式、木調)()・椅子()4セットを設置すること。</p> <p>ITV設備を設置し、スタッフステーションで確認できること。</p>				

諸室No.	01-01-04	種別	病棟	部門	一般病棟	
室名	シャワー室			室数	2	
面積	6 m ²	程度	標準寸法	m × m		
用途	入院患者が利用するシャワー					
平均在室人数	2 人	最大在室人数	3 人			
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	<p>1病棟に2か所ユニットシャワーを設置すること。 シャワー室及び脱衣室を設置すること。 シャワー室は介助者が介助可能なスペースを確保すること。 脱衣室は車椅子が入れるスペースを確保すること。 シャワー室は車椅子が入れる大きさとすること。 脱衣室は床暖房とすること。 脱衣室に掃除用具入れを設置すること。 脱衣室には適宜手摺りを設置すること。</p>					

諸室No.	01-01-05	種別	病棟	部門	一般病棟	
室名	面談室			室数	2	
面積	9 m ²	程度	標準寸法	m × m		
用途	患者及び家族への面談及び治療方法等の説明を行う					
平均在室人数	4 人	最大在室人数	6 人			
隣接すべき室名						
近接すべき室名	スタッフステーション					
内装						
特記事項	<p>間仕切は遮音壁とし、会話が外に聞こえることのないように配慮すること。 扉は、曇りガラスの窓などにより室内が確認できるようにすること。 4人がけテーブル(木目調)()・椅子(肘付き・木目調)()1セットを設置すること。</p>					

諸室No.	01-01-06	種 別	病棟	部 門	一般病棟		
室 名	配膳室			室 数	1(2病棟当たり)		
面 積	18 m ²	程 度	標準寸法	m × m			
用 途	配膳や給湯を行う						
平均在室人数	2	人	最大在室人数	4	人		
隣接すべき室名	デイルーム						
近接すべき室名	給食用エレベーター、スタッフステーション						
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>配膳車を収納できるスペースを確保すること。</p> <p>デイルームとの間に扉を設置すること。</p> <p>貯湯式電気温水器を設置すること。</p> <p>延食用の鍵付きの棚を設置すること。</p>						

諸室No.	01-01-07	種 別	病棟	部 門	一般病棟		
室 名	男子トイレ			室 数	1		
面 積	19 m ²	程 度	標準寸法	m × m			
用 途	患者用男子トイレ						
平均在室人数	3	人	最大在室人数	6	人		
隣接すべき室名	作業室						
近接すべき室名	4床室						
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>ブースは点滴スタンドを持って入れるスペースを確保すること。</p> <p>ブースは介助者が介助可能な広さとすること。</p> <p>用具等の収納スペース(1m²程度)を確保すること。</p> <p>通路までは車椅子が入れる広さを確保すること。</p> <p>大便器3据、小便器3据及び手洗い2器を設置すること。</p> <p>小便器、手洗いは各1か所ずつ手すりを設けること。</p> <p>大便器は全て手すりを設けること。</p> <p>適宜、清掃に必要な掃除流しを設けること。</p> <p>6病棟のうち1病棟は女性専用病棟とするので、女子トイレとすること。</p> <p>出入口は病室の入り口に対面しないようにすること。</p>						

諸室No.	01-01-08	種別	病棟	部門	一般病棟
室名	女子トイレ	室数	1		
面積	20 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用途	患者用女子トイレ				
平均在室人数	2	人	最大在室人数	4	人
隣接すべき室名	作業室				
近接すべき室名	4床室				
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>ブースは点滴スタンドを持って入れるスペースを確保すること。</p> <p>ブースは介助者が介助可能な広さとする。</p> <p>用具等の収納スペース（1m²程度）を確保すること。</p> <p>通路までは車椅子が入れる広さを確保すること。</p> <p>大便器4据及び手洗い2器を設置すること。</p> <p>手洗いは1か所手すりを設けること。</p> <p>大便器は全て手すりを設けること。</p> <p>適宜、清掃に必要な掃除流しを設けること。</p> <p>出入口は病室の入り口に対面しないようにすること。</p>				

諸室No.	01-01-09	種別	病棟	部門	一般病棟
室名	多目的トイレ	室数	1		
面積	6 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用途	車椅子利用者等の使用するトイレ				
平均在室人数	1	人	最大在室人数	3	人
隣接すべき室名	作業室				
近接すべき室名	4床室				
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>オストメイト対応とすること。</p> <p>患者が浣腸を行うための収納式多目的シート（ベッド）を設けること。</p> <p>汚物流しを設けること。</p> <p>自動ドアとすること。</p> <p>右麻痺の患者と左麻痺の患者が利用できるものとする。</p> <p>車椅子対応とすること。</p>				

諸室No.	01-01-10	種別	病棟	部門	一般病棟	
室名	洗面コーナー			室数	1	
面積	適宜 m ²	標準寸法	m x m			
用途	患者が洗面を行う					
平均在室人数	2	人	最大在室人数	4	人	
隣接すべき室名						
近接すべき室名	洗髪コーナー、コインランドリー					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	病室に対する水音等を配慮した位置に配置すること。					

諸室No.	01-01-11	種別	病棟	部門	一般病棟	
室名	洗髪コーナー			室数	1	
面積	適宜 m ²	標準寸法	m x m			
用途						
平均在室人数	1	人	最大在室人数	2	人	
隣接すべき室名						
近接すべき室名	洗面コーナー					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	患者が仰向けで使用できる洗髪チェアを設置するスペースを確保すること。					

諸室No.	01-01-12	種別	病棟	部門	一般病棟
室名	コインランドリー			室数	1
面積	4 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用途	患者が衣類等の洗濯を行う				
平均在室人数	-	人	最大在室人数	-	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名	洗面コーナー				
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>病室に対する騒音等を配慮した位置に配置すること。 洗濯機と乾燥機を1台以上設置すること。 洗剤の自販機を設置すること。</p>				

諸室No.	01-01-13	種別	病棟	部門	一般病棟
室名	スタッフステーション			室数	1
面積	75 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用途	看護師、医師等が病棟に係る業務を行う				
平均在室人数	6	人	最大在室人数	25	人
隣接すべき室名	処置室				
近接すべき室名	休憩室、面談室、器材庫、配膳室、職員用トイレ				
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>すべての病室に目が届きやすい位置に配置すること。 同じフロアのスタッフステーションとはSSリンクにより接続すること。 科長が執務を行うスペースを適宜確保し、パーティションにて仕切ること。 車椅子も利用できるオープンタイプの受付カウンターを設置すること。 作業カウンターを設置すること。 手洗いを2か所設置すること。 収納棚を適宜設置すること。 インターホンを設置し、エレベーターホールと会話ができるようにすること。</p>				

諸室No.	01-01-14	種別	病棟	部門	一般病棟
室名	休憩室			室数	1
面積	18 m ² 以上	標準寸法	m x m		
用途	スタッフが休憩及び食事を行う				
平均在室人数	7 人	最大在室人数	12 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	スタッフステーション				
内装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	私物を収納する個人用ロッカー12人用3台分を設置できるスペースを確保すること。				

諸室No.	01-01-15	種別	病棟	部門	一般病棟
室名	処置室			室数	1
面積	38 m ² 程度	標準寸法	m x m		
用途	入院患者の処置及び診療の準備を行う				
平均在室人数	3 人	最大在室人数	7 人		
隣接すべき室名	スタッフステーション				
近接すべき室名					
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>スタッフステーションから直接往来できる位置に配置すること。</p> <p>ベッド対応での処置が可能なスペースを確保すること。</p> <p>処置ベッドを設置するスペースを確保すること。</p> <p>6病棟のうち1病棟は婦人科専用内診台、1病棟は耳鼻科ユニット及び診察椅子を設置するスペースを確保すること。</p> <p>貯湯式電気温水器を設置すること。</p> <p>流し台は用途別に2か所設置すること。</p> <p>収納棚を適宜設置すること。</p> <p>製氷機を設置できるようにすること。</p>				

諸室No.	01-01-16	種 別	病棟	部 門	一般病棟		
室 名	作業室				室 数	1	
面 積	12	m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	汚物処理や便器等の洗浄、消毒、保管等を行う						
平均在室人数	2		人	最大在室人数	5		
隣接すべき室名	男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレ						
近接すべき室名							
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>廊下、男女トイレから直接入れるようにすること。</p> <p>便座保温器の設置スペースを設けること。</p> <p>ポータブルトイレ、トイレトーパー等を収納するための棚を設置すること。</p> <p>自動尿測定装置()1台を設置すること。</p>						

諸室No.	01-01-17	種 別	病棟	部 門	一般病棟		
室 名	器材庫				室 数	1(2病棟当たり)	
面 積	24	m ²	以 上	標準寸法	m × m		
用 途	器材を保管する						
平均在室人数	2		人	最大在室人数	4		
隣接すべき室名							
近接すべき室名	スタッフステーション						
内 装							
特記事項	<p>器材を十分収納できるスペースを確保すること。</p> <p>物流業務で使用するスペースは別途確保すること。</p> <p>収納棚を適宜設置すること。</p>						

諸室No.	01-01-18	種別	病棟	部門	一般病棟		
室名	職員用トイレ			室数	1(2病棟当たり)		
面積	9	m ²	程度	標準寸法	m × m		
用途	職員用のトイレ						
平均在室人数	1	人	最大在室人数	3	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名	スタッフステーション						
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>大便器及び手洗いを備えた男子用個室トイレを1室設置すること。</p> <p>大便器及び手洗いを備えた女子用個室トイレを2室設置すること。</p>						

諸室No.	01-01-19	種別	病棟	部門	一般病棟		
室名	カンファレンスルーム			室数	1(2病棟当たり)		
面積	19	m ²	程度	標準寸法	m × m		
用途	会議、カンファレンス、打合せ等を行う						
平均在室人数	10	人	最大在室人数	15	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項							

諸室No.	01-01-20	種 別	病棟	部 門	一般病棟		
室 名	リネン庫			室 数	1(2病棟当たり)		
面 積	9	m ²	程度	標準寸法	m × m		
用 途	リネン等のベッド寝具類を保管する						
平均在室人数	-		人	最大在室人数	-		
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内 装							
特記事項	収納棚を設置すること。						

諸室No.	01-01-21	種 別	病棟	部 門	一般病棟		
室 名	汚物保管室			室 数	1(2病棟当たり)		
面 積	12	m ²	程度	標準寸法	m × m		
用 途	使用済みリネン、ゴミ、使用済み器材を一時保管する						
平均在室人数	2		人	最大在室人数	3		
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項							

諸室No.	01-01-22	種 別	病棟	部 門	一般病棟		
室 名	特別個室				室 数	1(6病棟当たり)	
面 積	37.8	m ²	以上	標準寸法	6.3	m x	6 m
用 途	入院居室						
平均在室人数	2		人	最大在室人数	5 人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内 装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>一般病棟全体で1室、6階の病棟奥側に配置すること。</p> <p>ミニキッチンを設置すること。</p> <p>ユニットバス、トイレを設置すること。また、介助者が介助可能な広さとすること。</p> <p>使用していないときは壁面に収納できる医療パネルを設置すること。</p> <p>調光可能な読書灯を設置すること。</p> <p>照明器具は直接光源が目に入らないように配慮すること。</p> <p>夜間のベッド足元廻りに照明を設置すること。</p> <p>出入口はベッドの出入が容易に行なえる開口を確保すること。</p> <p>各病室間の間仕切は遮音壁とし、隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>ベッド搬送時に壁面等が破損しないように配慮すること。</p> <p>扉は額付きとすること。ただし、夜間廊下の光が中に入らないように配慮すること。</p> <p>照明等のスイッチは入口の近くに設置すること。</p> <p>空調の吹き出しがベッドに直接当たらないように工夫すること。</p> <p>コートが掛けられ、キャスターバッグが収納できる造り付け更衣ロッカーを設置すること。</p>						

諸室No.	01-02-01	種 別	病棟	部 門	無菌病棟	
室 名	4床室				室 数	4
面 積	37.8	m ²	以上	標準寸法	6.3	m x 6 m
用 途	入院居室					
平均在室人数	8	人	最大在室人数	16	人	
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内 装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。					
特記事項	<p>レイアウトは一般病棟4床室を参照すること。</p> <p>各ベッドサイドには、車椅子、点滴台が一時保管できるスペースを確保すること。</p> <p>各ベッドにキュービクルカーテンを設けること。なお、設置に当たっては自殺防止対策を講じること。</p> <p>各ベッドには使用していないときに壁面に収納できる医療パネルを設置すること。</p> <p>各ベッドには調光可能な読書灯を設置すること。</p> <p>照明器具は直接光源が目に入らないように配慮すること。</p> <p>夜間のベッド足元廻りに照明を設置すること。</p> <p>出入口はベッドの出入が容易に行なえる開口を確保すること。</p> <p>各病室間の間仕切りは遮音壁とし、隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>ベッド搬送時に壁面等が破損しないように配慮すること。</p> <p>照明等のスイッチは入口の近くに設置すること。</p> <p>空調の吹き出しがベッドに直接当たらないように工夫すること。</p> <p>扉は額付きとすること。ただし、夜間廊下の光が中に入らないように配慮すること。</p> <p>滅菌水手洗い装置を設置し、非常用電源と接続すること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>各ベッドにコートが掛けられ、キャスターバッグが収納できる造り付け更衣ロッカーを設置すること。</p>					

諸室No.	01-02-02	種 別	病棟	部 門	無菌病棟	
室 名	重症無菌個室				室 数	2
面 積	18.9	m ²	以上	標準寸法	3.15	m x 6 m
用 途	入院居室					
平均在室人数	2	人	最大在室人数	5	人	
隣接すべき室名						
近接すべき室名	スタッフステーション					
内 装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。					
特記事項	<p>ユニットシャワー及びトイレは介助者が介助可能な広さとすること。</p> <p>病室の窓側にトイレ付きユニットシャワーを設置すること。</p> <p>使用していないときは壁面に収納できる医療パネルを設置すること。</p> <p>調光可能な読書灯を設置すること。</p> <p>照明器具は直接光源が目に入らないように配慮すること。</p> <p>夜間のベッド足元廻りに照明を設置すること。</p> <p>出入口はベッドの出入が容易に行なえる開口を確保すること。</p> <p>各病室間の間仕切りは遮音壁とし、隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>ベッド搬送時に壁面等が破損しないように配慮すること。</p> <p>扉は額付きとすること。ただし、夜間廊下の光が中に入らないように配慮すること。</p> <p>滅菌水手洗い装置を設置し、非常用電源と接続すること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>照明等のスイッチは入口の近くに設置すること。</p> <p>空調の吹き出しがベッドに直接当たらないように工夫すること。</p> <p>ITV設備を設置し、スタッフステーションで確認できること。</p> <p>コートが掛けられ、キャスターバッグが収納できる造り付け更衣ロッカーを設置すること。</p> <p>各室のトイレには自動尿測定装置()1台を設け、非常用電源と接続すること。</p>					

諸室No.	01-02-03	種 別	病棟	部 門	無菌病棟
室 名	一般無菌個室			室 数	10
面 積	18.9 m ²	以上	標準寸法	3.15 m ×	6 m
用 途	入院居室				
平均在室人数	2	人	最大在室人数	5	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>ユニットシャワー及びトイレは介助者が介助可能な広さとすること。</p> <p>2室はクラス1000とし、クラス100無菌個室に隣接させ、将来、クラス100に変更可能な配置とすること。</p> <p>なお、これらの4室（クラス100無菌個室2室、クラス1,000無菌個室2室）については扉でエリアを区切り、エリア内の廊下に滅菌水手洗い装置1台（非常用電源対応）、コートが掛けられ、キャスターバッグが収納できる造り付け更衣ロッカーを4室分設置すること。</p> <p>病室の窓側にトイレ付きユニットシャワーを設置すること。</p> <p>使用していないときは壁面に収納できる医療パネルを設置すること。</p> <p>調光可能な読書灯を設置すること。</p> <p>照明器具は直接光源が目に入らないように配慮すること。</p> <p>夜間のベッド足元廻りに照明を設置すること。</p> <p>出入口はベッドの出入が容易に行なえる開口を確保すること。</p> <p>各病室間の間仕切りは遮音壁とし、隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>ベッド搬送時に壁面等が破損しないように配慮すること。</p> <p>扉は額付きとすること。ただし、夜間廊下の光が中に入らないように配慮すること。</p> <p>滅菌水手洗い装置を設置し、非常用電源と接続すること。</p> <p>8室はクラス10,000、2室はクラス1,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>照明等のスイッチは入口の近くに設置すること。</p> <p>空調の吹き出しがベッドに直接当たらないように工夫すること。</p> <p>コートが掛けられ、キャスターバッグが収納できる造り付け更衣ロッカーを設置すること。</p> <p>各室のトイレには自動尿測定装置（ ）1台を設け、非常用電源と接続すること。</p>				

諸室No.	01-02-04	種 別	病棟	部 門	無菌病棟
室 名	クラス100無菌個室			室 数	2
面 積	18.9 m ²	以上	標準寸法	3.15 m ×	6 m
用 途	骨髄移植や大量化学療法実施時の入院居室				
平均在室人数	1	人	最大在室人数	3	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>垂直層流式の無菌ユニットを設置すること。</p> <p>クラス100のクリーン度を確保すること。</p> <p>病棟の一番奥に設置すること。</p> <p>トイレ付きユニットシャワーを設置すること。</p> <p>ユニットシャワー及びトイレは介助者が介助可能な広さとすること。</p> <p>使用していないときは壁面に収納できる医療パネルを設置すること。</p> <p>調光可能な読書灯を設置すること。</p> <p>照明器具は直接光源が目に入らないように配慮すること。</p> <p>夜間のベッド足元廻りに照明を設置すること。</p> <p>出入口はベッドの出入が容易に行なえる開口を確保すること。</p> <p>各病室間の間仕切りは遮音壁とし、隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>ベッド搬送時に壁面等が破損しないように配慮すること。</p> <p>扉は額付とすること。ただし、夜間廊下の光が中に入らないように配慮すること。</p> <p>滅菌水手洗い装置を設置し、非常用電源と接続すること。</p> <p>ITV設備を設置し、スタッフステーションで確認できること。</p> <p>照明等のスイッチは入口の近くに設置すること。</p> <p>各室のトイレには自動尿測定装置（ ）1台を設け、非常用電源と接続すること。</p>				

諸室No.	01-02-05	種別	病棟	部門	無菌病棟
室名	デイルーム			室数	1
面積	40 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用途	患者の食事や談話に使用する、家族の面会やレクリエーションを行う				
平均在室人数	10	人	最大在室人数	20	人
隣接すべき室名	配膳室				
近接すべき室名					
内装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>車椅子対応の公衆電話ボックスを設置するスペースを確保すること。</p> <p>自動販売機及びゴミ容器を設置すること。</p> <p>使用していないときは壁面に収納できる医療ガスのアウトレットを設置すること。</p> <p>患者のアメニティに配慮したインテリアとすること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>4人がけテーブル(アジャスター式、木調)()・椅子()4セットを設置すること。</p>				

諸室No.	01-02-06	種別	病棟	部門	無菌病棟
室名	シャワー室			室数	1
面積	6 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用途	入院患者が利用するシャワー				
平均在室人数	2	人	最大在室人数	3	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>シャワー室及び脱衣室を設置すること。</p> <p>シャワー室は介助者が介助可能なスペースを確保すること。</p> <p>脱衣室は車椅子が入れるスペースを確保すること。</p> <p>シャワー室は車椅子が入れる大きさとすること。</p> <p>脱衣室は床暖房とすること。</p> <p>脱衣室に掃除用具入れを設置すること。</p> <p>脱衣室には適宜手摺りを設置すること。</p>				

諸室No.	01-02-07	種 別	病棟	部 門	無菌病棟
室 名	普通浴室			室 数	1
面 積	9 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途					
平均在室人数	2	人	最大在室人数	3	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	<p>耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。</p>				
特記事項	<p>脱衣室を設置すること。 介助者が介助可能なスペースを確保すること。 脱衣室は車椅子が入れるスペースを確保すること。 ストレッチャーのまま浴室に入れる構造とすること。 脱衣室は床暖房とすること。 適宜手摺りを設置すること。</p>				

諸室No.	01-02-08	種 別	病棟	部 門	無菌病棟
室 名	面談室			室 数	2
面 積	9 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	患者及び家族への面談及び治療方法等の説明を行う				
平均在室人数	4	人	最大在室人数	6	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名	スタッフステーション				
内 装	埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>間仕切は遮音壁とし、会話が外に聞こえることのないように配慮すること。 クラス10,000のクリーン度を確保すること。 扉は、曇りガラスの窓などにより室内が確認できるようにすること。 4人がけテーブル(木目調) () ・椅子(肘付き・木目調) () 1セットを設置すること。</p>				

諸室No.	01-02-09	種別	病棟	部門	無菌病棟
室名	配膳室			室数	1
面積	15 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	配膳や給湯を行う、患者が自分の洗い物を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	2 人		
隣接すべき室名	デイルーム				
近接すべき室名					
内装	<p>耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。</p>				
特記事項	<p>配膳車を収納できるスペースを確保すること。 デイルームとの間に扉を設置すること。 貯湯式電気温水器を設けること。 延食用の鍵付きの棚を設置すること。 クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p>				

諸室No.	01-02-10	種別	病棟	部門	無菌病棟
室名	男子トイレ			室数	1
面積	16 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途					
平均在室人数	1 人	最大在室人数	3 人		
隣接すべき室名	作業室				
近接すべき室名					
内装	<p>耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。</p>				
特記事項	<p>ブースは点滴スタンドを持って入れるスペースを確保すること。 ブースは介助者が介助可能な広さとすること。 用具等の収納スペース（1 m²程度）を確保すること。 通路までは車椅子が入れる広さを確保すること。 大便器2据、小便器2据及び手洗い2器を設置すること。 小便器、手洗いは各1か所ずつ手すりを設けること。 大便器は全て手すりを設けること。 適宜、清掃に必要な掃除流しを設けること。 出入口は病室の入り口に対面しないようにすること。</p>				

諸室No.	01-02-11	種 別	病棟	部 門	無菌病棟
室 名	女子トイレ			室 数	1
面 積	16 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途					
平均在室人数	1 人	最大在室人数	2 人		
隣接すべき室名	作業室				
近接すべき室名					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>ブースは点滴スタンドを持って入れるスペースを確保すること。</p> <p>ブースは介助者が介助可能な広さとすること。</p> <p>用具等の収納スペース（1m程度）を確保すること。</p> <p>通路までは車椅子が入れる広さを確保すること。</p> <p>大便器3据及び手洗い2器を設置すること。</p> <p>手洗いは手すりを設けること。</p> <p>大便器は全て手すりを設けること。</p> <p>適宜、清掃に必要な掃除流しを設けること。</p> <p>出入口は病室の入り口に対面しないようにすること。</p>				

諸室No.	01-02-12	種 別	病棟	部 門	無菌病棟
室 名	洗面コーナー			室 数	1
面 積	適宜 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途					
平均在室人数	2 人	最大在室人数	3 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	コインランドリー、洗髪コーナー				
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>病室に対する水音等を配慮した位置に配置すること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p>				

諸室No.	01-02-13	種 別	病棟	部 門	無菌病棟	
室 名	コインランドリー				室 数	1
面 積	4 m ²	程 度	標準寸法	m x m		
用 途	患者が衣類等の洗濯を行う					
平均在室人数	1 人	最大在室人数	3 人			
隣接すべき室名						
近接すべき室名	洗面コーナー					
内 装	<p>耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。</p> <p>埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。</p>					
特記事項	<p>病室に対する騒音等を配慮した位置に配置すること。</p> <p>洗濯機と乾燥機を1台ずつ設置すること。</p> <p>洗剤の自販機を設置すること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p>					

諸室No.	01-02-14	種 別	病棟	部 門	無菌病棟	
室 名	スタッフステーション				室 数	1
面 積	75 m ²	程 度	標準寸法	m x m		
用 途	看護師、医師等が病棟に係る業務を行う					
平均在室人数	10 人	最大在室人数	20 人			
隣接すべき室名	処置室					
近接すべき室名	重症無菌個室、面談室、休憩室、職員用トイレ、器材庫、リネン庫					
内 装	<p>がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。</p> <p>埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。</p>					
特記事項	<p>すべての病室に目が届きやすい位置に配置すること。</p> <p>科長が執務を行うスペースを適宜確保し、パーティションにて仕切ること。</p> <p>車椅子も利用できるオープンタイプの受付カウンターを設置すること。</p> <p>作業カウンターを設置すること。</p> <p>手洗いを2か所設置すること。</p> <p>収納棚を適宜設置すること。</p> <p>滅菌水手洗い装置を設置し、非常用電源と接続すること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>インターホンを設置し、エレベーターホール及び無菌病棟入口と会話ができるようにすること。</p>					

諸室No.	01-02-15	種別	病棟	部門	無菌病棟
室名	休憩室			室数	1
面積	18 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	スタッフの休憩及び食事を行う				
平均在室人数	6	人	最大在室人数	12	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名	スタッフステーション				
内装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	私物を収納する個人用ロッカー12人用3台分を設置できるスペースを確保すること。 クラス10,000のクリーン度を確保すること。				

諸室No.	01-02-16	種別	病棟	部門	無菌病棟
室名	処置室			室数	1
面積	38 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	入院患者の処置及び診療の準備を行う				
平均在室人数	3	人	最大在室人数	7	人
隣接すべき室名	スタッフステーション				
近接すべき室名					
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	スタッフステーションから直接往来できる位置に配置すること。 ベッド対応での処置が可能なスペースを確保すること。 処置ベッドを設置するスペースを確保すること。 貯湯式電気温水器を設置すること。 流し台は用途別に2か所設置すること。 収納棚を適宜設置すること。 クラス10,000のクリーン度を確保すること。 製氷機を設置できるようにすること。 クリーンベンチを1台設置できる構造にすること。				

諸室No.	01-02-17	種別	病棟	部門	無菌病棟
室名	作業室			室数	1
面積	12 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	汚物処理や便器等の洗浄、消毒、保管等を行う				
平均在室人数	2 人	最大在室人数	5 人		
隣接すべき室名	男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレ				
近接すべき室名					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	廊下、男女トイレから直接入れるようにすること。 便座保温器の設置スペースを設けること。 ポータブルトイレ、トイレトーパー等を収納するための棚を設置すること。 自動尿測定装置() 1台を設置すること。				

諸室No.	01-02-18	種別	病棟	部門	無菌病棟
室名	汚物保管室			室数	1
面積	9 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	使用済みのリネンや廃棄物を一時保管する				
平均在室人数	- 人	最大在室人数	- 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項					

諸室No.	01-02-19	種別	病棟	部門	無菌病棟
室名	器材庫			室数	1
面積	24 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	器材を保管する				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	2 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	スタッフステーション				
内装	埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>器材を十分収納できるスペースを確保すること。</p> <p>物流業務で使用するスペースは別途確保すること。</p> <p>ポータブルX線装置を収納するスペースを確保すること。</p> <p>輸液ポンプ30台を充電できるコンセントを設置すること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>収納棚を適宜設置すること。</p>				

諸室No.	01-02-20	種別	病棟	部門	無菌病棟
室名	リネン庫			室数	1
面積	9 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	リネン等のベッド寝具類を保管する				
平均在室人数	2 人	最大在室人数	2 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	スタッフステーション				
内装	埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>収納棚を設置すること。</p>				

諸室No.	01-02-21	種別	病棟	部門	無菌病棟
室名	カンファレンスルーム			室数	1
面積	18 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	会議、カンファレンス、研修生の打合せ等を行う				
平均在室人数	18 人	最大在室人数	12 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	クラス10,000のクリーン度を確保すること。				

諸室No.	01-02-22	種別	病棟	部門	無菌病棟
室名	トレーニングスペース			室数	1
面積	18 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	運動器具を設置し、患者の体力を維持する				
平均在室人数	人	最大在室人数	6 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	クラス10,000のクリーン度を確保すること。 歩行器とトレッドミルを各2台設置するスペースを確保すること。				

諸室No.	01-02-23	種別	病棟	部門	無菌病棟
室名	更衣室			室数	1
面積	9 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	医師が入棟時ガウンを交換する				
平均在室人数	2	人	最大在室人数	3	人
隣接すべき室名	(無菌病棟前室)				
近接すべき室名					
内装	埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>前室から更衣室を経由して病棟に入れる位置とすること。</p> <p>巾90cmのロッカーを2台設置できるスペースを確保すること。</p> <p>前室にガウン掛けを設置すること。</p>				

諸室No.	01-02-25	種別	病棟	部門	無菌病棟
室名	多目的トイレ			室数	1
面積	6 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	車椅子利用者等の使用するトイレ				
平均在室人数	1	人	最大在室人数	3	人
隣接すべき室名	作業室				
近接すべき室名					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>オストメイト対応とすること。</p> <p>患者が浣腸を行うための収納式多目的シート(ベッド)を設けること。</p> <p>汚物流しを設けること。</p> <p>自動ドアとすること。</p> <p>右麻痺の患者と左麻痺の患者が利用できるものとすること。</p> <p>車椅子対応とすること。</p>				

諸室No.	01-02-26	種別	病棟	部門	無菌病棟
室名	洗髪コーナー			室数	1
面積	適宜	m ²	標準寸法	m x	m
用途					
平均在室人数	1	人	最大在室人数	2	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名	洗面コーナー				
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>患者が仰向けで使用できる洗髪チェアを設置するスペースを確保すること。 クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p>				

諸室No.	01-02-27	種別	病棟	部門	無菌病棟
室名	職員用トイレ			室数	1
面積	6	m ²	程度	標準寸法	m x m
用途	職員用のトイレ				
平均在室人数	1	人	最大在室人数	3	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名	スタッフステーション				
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>大便器及び手洗いを備えた男子用個室トイレを1室設置すること。 大便器及び手洗いを備えた女子用個室トイレを1室設置すること。</p>				

諸室No.	01-03-01	種 別	病棟	部 門	緩和ケア病棟
室 名	有料個室			室 数	10
面 積	18.9	m ²	以上	標準寸法	3.15 m x 6 m
用 途	入院居室				
平均在室人数	2	人	最大在室人数	5	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>病室の窓側にトイレ付きユニットシャワーを設置すること。 トイレ付きユニットシャワーは介助者が介助可能な広さとすること。 使用していないときは壁面に収納できる医療パネルを設置すること。 調光可能な読書灯を設置すること。 照明器具は直接光源が目に入らないように配慮すること。 夜間のベッド足元廻りに照明を設置すること。 出入口はベッドの出入が容易に行なえる開口を確保すること。 各病室間の間仕切りは遮音壁とし、隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。 ベッド搬送時に壁面等が破損しないように配慮すること。 扉は額付きとすること。ただし、夜間廊下の光が中に入らないように配慮すること。 照明等のスイッチは入口の近くに設置すること。 空調の吹き出しがベッドに直接当たらないように工夫すること。 コートが掛けられ、キャスターバッグが収納できる造り付け更衣ロッカーを設置すること。</p>				

諸室No.	01-03-02	種 別	病棟	部 門	緩和ケア病棟
室 名	無料個室			室 数	10
面 積	14	m ²	程度	標準寸法	m x m
用 途	入院居室				
平均在室人数	2	人	最大在室人数	5	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>シャワーは設置しないこと。 介助者が介助可能な広さのトイレを設置すること 使用していないときは壁面に収納できる医療パネルを設置すること。 調光可能な読書灯を設置すること。 照明器具は直接光源が目に入らないように配慮すること。 夜間のベッド足元廻りに照明を設置すること。 出入口はベッドの出入が容易に行なえる開口を確保すること。 各病室間の間仕切りは遮音壁とし、隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。 ベッド搬送時に壁面等が破損しないように配慮すること。 扉は額付きとすること。ただし、夜間廊下の光が中に入らないように配慮すること。 照明等のスイッチは入口の近くに設置すること。 空調の吹き出しがベッドに直接当たらないように工夫すること。 コートが掛けられ、キャスターバッグが収納できる造り付け更衣ロッカーを設置すること。</p>				

諸室No.	01-03-03	種別	病棟	部門	緩和ケア病棟
室名	介護浴室			室数	1
面積	26 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	患者が寝た状態で入浴できる浴室				
平均在室人数	2 人	最大在室人数	3 人		
隣接すべき室名	普通浴室				
近接すべき室名					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>一般病棟の患者も利用することを考慮した配置とすること。</p> <p>脱衣室は設置しないこと。</p> <p>カーテンを設置するなど、扉を開けたまま使用しても廊下から浴室が直接見えない構造とすること。</p> <p>浴槽にベッドを横付けにしたときに、浴槽とベッドの周囲でスタッフが作業できるスペースを確保すること。</p> <p>モップが洗える掃除流しを設置すること。</p> <p>適宜手摺りを設置すること。</p>				

諸室No.	01-03-04	種別	病棟	部門	緩和ケア病棟
室名	普通浴室			室数	2
面積	9 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	患者が利用する浴室				
平均在室人数	2 人	最大在室人数	3 人		
隣接すべき室名	介護浴室				
近接すべき室名					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>ユニットバス及び脱衣室を設置すること。</p> <p>脱衣室までは車椅子が入れる構造とすること。</p> <p>適宜手摺りを設置すること。</p> <p>脱衣室は床暖房とすること。</p> <p>介助者が介助できるスペースを確保すること。</p>				

諸室No.	01-03-05	種別	病棟	部門	緩和ケア病棟
室名	家族控室			室数	2
面積	18 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用途	家族用の控室				
平均在室人数	3	人	最大在室人数	5	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>和室と洋室を1室ずつ設置すること。</p> <p>患者が家族と一緒に過ごすのに適した環境を整備すること。</p> <p>収納を設置すること。</p> <p>洋室は下足は行わない構造とすること。</p> <p>使用していないときに壁面に収納できる医療パネルを設置すること。</p> <p>扉は、曇りガラスの窓などにより室内が確認できるようにすること。</p>				

諸室No.	01-03-06	種別	病棟	部門	緩和ケア病棟
室名	面談室			室数	1
面積	9 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用途	患者、家族に治療方法等の説明を行う				
平均在室人数	4	人	最大在室人数	6	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名	スタッフステーション				
内装					
特記事項	<p>間仕切は遮音壁とし、会話が外に聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>扉は、曇りガラスの窓などにより室内が確認できるようにすること。</p> <p>4人がけテーブル(木目調) () ・椅子(肘付き・木目調) () 1セットを設置すること。</p>				

諸室No.	01-03-07	種別	病棟	部門	緩和ケア病棟
室名	談話室			室数	1
面積	21 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	患者、家族及び面会者等が談話する				
平均在室人数	4 人	最大在室人数	8 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>コ-ナ-ではなく部屋とすること。 使用していないときに壁面に収納できる医療パネルを設置すること。 扉は、曇りガラスの窓などにより室内が確認できるようにすること。</p>				

諸室No.	01-03-08	種別	病棟	部門	緩和ケア病棟
室名	ボランティア控室			室数	1
面積	18 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	ボランティアの控室				
平均在室人数	5 人	最大在室人数	10 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装					
特記事項					

諸室No.	01-03-09	種 別	病棟	部 門	緩和ケア病棟
室 名	デイルーム			室 数	1
面 積	60 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用 途	患者の食事や談話に使用する 家族の面会やレクリエーションを行う				
平均在室人数	20 人	最大在室人数	40	人	
隣接すべき室名					
近接すべき室名	配膳室、キッチン				
内 装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>車椅子対応の公衆電話ボックスを設置するスペースを確保すること。</p> <p>自動販売機及びゴミ容器を設置すること。</p> <p>使用していないときは壁面に収納できる医療ガスのアウトレットを2か所以上設置すること。</p> <p>患者のアメニティに配慮したインテリアとすること。</p> <p>庭園に通じる出入口は車イス及びストレッチャーの出入りが容易に行える構造とすること。</p> <p>出入口はベッドの出入りが容易に行なえる開口を確保すること。</p> <p>ITV設備を設置し、スタッフステーションで確認できること。</p> <p>4人がけテーブル(アジャスター式、木調)()・椅子()4セットを設置すること。</p>				

諸室No.	01-03-10	種 別	病棟	部 門	緩和ケア病棟
室 名	配膳室			室 数	1
面 積	10 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用 途	配膳や給湯を行う				
平均在室人数	2 人	最大在室人数	4	人	
隣接すべき室名	キッチン				
近接すべき室名	デイルーム				
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>キッチンとの往来が容易にできるように配置すること。</p> <p>配膳車を収納できるスペースを確保すること。</p> <p>貯湯式電気温水器を設置すること。</p>				

諸室No.	01-03-11	種別	病棟	部門	緩和ケア病棟
室名	キッチン			室数	1
面積	12 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	患者および家族が簡単な調理を行う				
平均在室人数	3 人	最大在室人数	4 人		
隣接すべき室名	配膳室				
近接すべき室名	デイルーム				
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>電磁調理器付きのシステムキッチンを設置すること。</p> <p>出入口をデイルーム側と配膳室側の2か所に設置すること。</p> <p>食器が収納できる棚を設置すること。</p>				

諸室No.	01-03-12	種別	病棟	部門	緩和ケア病棟
室名	コインランドリー			室数	1
面積	4 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	患者が衣類等の洗濯を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	2 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>病室に対する騒音等を配慮した位置に配置すること。</p> <p>洗濯機と乾燥機を1台ずつ設置すること。</p> <p>洗剤の自販機を設置すること。</p>				

諸室No.	01-03-13	種別	病棟	部門	緩和ケア病棟
室名	面会者用トイレ			室数	1
面積	8 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	家族及び面会者等が利用するトイレ				
平均在室人数	1	人	最大在室人数	2	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	大便器及び手洗いを備えた、車椅子対応の個室トイレを2室設置すること。				

諸室No.	01-03-14	種別	病棟	部門	緩和ケア病棟
室名	スタッフステーション			室数	1
面積	75 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	看護師、医師等が病棟に係る業務を行う				
平均在室人数	8	人	最大在室人数	15	人
隣接すべき室名	処置室				
近接すべき室名	休憩室、面談室、器材庫、職員用トイレ				
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>すべての病室に目が届きやすい位置に配置すること。</p> <p>科長が執務を行うスペースを適宜確保し、パーティションにて仕切ること。</p> <p>車椅子も利用できるオープンタイプの受付カウンターを設置すること。</p> <p>作業カウンターを設置すること。</p> <p>手洗いを2か所設置すること。</p> <p>収納棚を適宜設置すること。</p> <p>インターホンを設置し、エレベーターホールと会話ができるようにすること。</p>				

諸室No.	01-03-15	種 別	病棟	部 門	緩和ケア病棟
室 名	処置室			室 数	1
面 積	20 m ² 以上	標準寸法	m x m		
用 途	入院患者の処置及び診療の準備を行う				
平均在室人数	3 人	最大在室人数	6 人		
隣接すべき室名	スタッフステーション				
近接すべき室名					
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>スタッフステーションから直接往来できる位置に配置すること。</p> <p>ベッド対応での処置が可能なスペースを確保すること。</p> <p>処置ベッドを設置するスペースを確保すること。</p> <p>貯湯式電気温水器を設置すること。</p> <p>流し台は用途別に2か所設置すること。</p> <p>収納棚を適宜設置すること。</p> <p>製氷機を設置できるようにすること。</p>				

諸室No.	01-03-16	種 別	病棟	部 門	緩和ケア病棟
室 名	作業室			室 数	1
面 積	12 m ² 程度	標準寸法	m x m		
用 途	汚物処理や便器等の洗浄、消毒、保管等を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	3 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>入口を複数にするなど、どの病室からもアクセスしやすいように配慮すること。</p> <p>便座保温器設置スペースを設けること。</p> <p>ポータブルトイレ、トイレトーパー等を収納するための棚を設置すること。</p>				

諸室No.	01-03-17	種別	病棟	部門	緩和ケア病棟
室名	カンファレンスルーム			室数	1
面積	16 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用途	会議、カンファレンス、打合せ等を行う				
平均在室人数	3	人	最大在室人数	10	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項					

諸室No.	01-03-18	種別	病棟	部門	緩和ケア病棟
室名	休憩室			室数	1
面積	18 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用途	スタッフが休憩及び食事を行う				
平均在室人数	6	人	最大在室人数	12	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名	スタッフステーション				
内装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	私物を収納する個人用ロッカー12人用2台分を設置できるスペースを確保すること。				

諸室No.	01-03-19	種 別	病棟	部 門	緩和ケア病棟	
室 名	器材庫				室 数	1
面 積	24	m ²	以上	標準寸法	m x	m
用 途	器材を保管する					
平均在室人数	1	人	最大在室人数	5	人	
隣接すべき室名						
近接すべき室名	スタッフステーション					
内 装						
特記事項	<p>器材を十分収納できるスペースを確保すること。 物流業務で使用するスペースは別途確保すること。 収納棚を適宜設置すること。</p>					

諸室No.	01-03-20	種 別	病棟	部 門	緩和ケア病棟	
室 名	職員用トイレ				室 数	1
面 積	6	m ²	程度	標準寸法	m x	m
用 途	職員用のトイレ					
平均在室人数	1	人	最大在室人数	2	人	
隣接すべき室名						
近接すべき室名	スタッフステーション					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	<p>大便器及び手洗いを備えた男子用個室トイレを1室設置すること。 大便器及び手洗いを備えた女子用個室トイレを1室設置すること。</p>					

諸室No.	01-03-21	種別	病棟	部門	緩和ケア病棟
室名	リネン庫			室数	1
面積	9 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	リネン等のベッド寝具類を保管する				
平均在室人数	人		最大在室人数	人	
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装					
特記事項	収納棚を設置すること。				

諸室No.	01-03-22	種別	病棟	部門	緩和ケア病棟
室名	汚物保管室			室数	1
面積	9 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	使用済みリネン、ゴミ、使用済み器材を一時保管する				
平均在室人数	0 人		最大在室人数	3 人	
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項					

諸室No.	01-03-23	種 別	病棟	部 門	緩和ケア病棟
室 名	洗髪コーナー			室 数	1
面 積	適宜	m ²	標準寸法	m x m	
用 途					
平均在室人数	1	人	最大在室人数	2	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	患者が仰向けで使用できる洗髪チェアを設置するスペースを確保すること。				

諸室No.	01-04-01	種 別	病棟	部 門	ICU・HCU病棟		
室 名	ICU個室					室 数	5
面 積	24 m ² 以上	標準寸法	4 m x 6 m				
用 途	人工呼吸器及び血液透析等の管理を要する患者を観察する病室						
平均在室人数	4 人	最大在室人数	8 人				
隣接すべき室名							
近接すべき室名	スタッフステーション、ICU当直室、作業室						
内 装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。						
特記事項	<p>各病室間の壁に0.9m x 1.8mのブラインド内蔵の窓を設置すること。</p> <p>各病室間の間仕切りは遮音壁とし、隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>ベッド搬送時に壁面等が破損しないように配慮すること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>スタッフステーションから直接視認できる位置に配置すること。</p> <p>扉の巾は1.5m以上とし、できる限り大きくすること</p> <p>扉は額付きとし、手前にカーテンを設置すること</p> <p>照明等のスイッチは入口の近くに設置すること。</p> <p>空調の吹き出しがベッドに直接当たらないように工夫すること。</p> <p>照明器具は直接光源が目に入らないように配慮すること。</p> <p>夜間のベッド足元廻りに照明を設置すること。</p> <p>医療ガスは各ベッドに、O(4)、V(4)、A(2)を設置すること。</p> <p>コートが掛けられ、キャスターバッグが収納できる造り付け更衣ロッカーを設置すること。</p> <p>ITV設備を設置し、ICU・HCUスタッフステーションで確認できること。</p> <p>各室に天井懸架式ビームシステム(トローリー付き)()一式を設置すること。</p> <p>各室にシーリングレールシステム()一式を設置すること。</p>						

諸室No.	01-04-02	種 別	病棟	部 門	ICU・HCU病棟		
室 名	ICU個室(陰陽圧室)					室 数	1
面 積	24 m ² 以上	標準寸法	4 m x 6 m				
用 途	人工呼吸器及び血液透析等の管理を要する感染症、易感染患者を観察する病室						
平均在室人数	4 人	最大在室人数	6 8 人				
隣接すべき室名							
近接すべき室名	スタッフステーション、ICU当直室、作業室						
内 装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。						
特記事項	<p>病棟の一番奥に配置すること。</p> <p>各病室間の壁に0.9m x 1.8mのブラインド内蔵の窓を設置すること。</p> <p>陰陽圧の切り替え制御が行えるようにすること。</p> <p>各病室間の間仕切りは遮音壁とし、隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>ベッド搬送時に壁面等が破損しないように配慮すること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>スタッフステーションから直接視認できる位置に配置すること。</p> <p>扉の巾は1.5m以上とし、できる限り大きくすること</p> <p>扉は額付とし、手前にカーテンを設置すること</p> <p>照明等のスイッチは入口の近くに設置すること。</p> <p>空調の吹き出しがベッドに直接当たらないように工夫すること。</p> <p>照明器具は直接光源が目に入らないように配慮すること。</p> <p>夜間のベッド足元廻りに照明を設置すること。</p> <p>医療ガスは各ベッドに、O(4)、V(4)、A(2)を設置すること。</p> <p>コートが掛けられ、キャスターバッグが収納できる造り付け更衣ロッカーを設置すること。</p> <p>ITV設備を設置し、ICU・HCUスタッフステーションで確認できること。</p> <p>天井懸架式ビームシステム(トローリー付き)()一式を設置すること。</p> <p>シーリングレールシステム()一式を設置すること。</p>						

諸室No.	01-04-03	種別	病棟	部門	ICU・HCU病棟		
室名	HCU4床室				室数	3	
面積	56	m ² 以上	標準寸法	9	m x	6	m
用途	術後1泊する患者を経過観察する病室						
平均在室人数	7	人	最大在室人数	9	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名	スタッフステーション、ICU当直室、作業室						
内装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。						
特記事項	<p>各ベッドごとにキュービクルカーテンを設けること。なお、設置に当たっては自殺防止対策を講じること。</p> <p>照明器具は直接光源が目に入らないように配慮すること。</p> <p>夜間のベッド足元廻りに照明を設置すること。</p> <p>扉の巾は1.5m以上とし、できる限り大きくすること。</p> <p>各病室間の間仕切りは遮音壁とし、隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>ベッド搬送時に壁面等が破損しないように配慮すること。</p> <p>照明等のスイッチは入口の近くに設置すること。</p> <p>空調の吹き出しがベッドに直接当たらないように工夫すること。</p> <p>扉は額付きとすること。ただし、夜間廊下の光が中に入らないように配慮すること。</p> <p>スタッフステーションから直接視認できる位置に配置すること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>医療ガスは各ベッドに、O(2)、V(2)、A(1)を設置すること。</p> <p>各ベッドにコートが掛けられ、キャスターバッグが収納できる造り付け更衣ロッカーを設置すること。</p> <p>ITV設備を設置し、ICU・HCUスタッフステーションで確認できること。</p> <p>各ベッドにウォールケアユニット()一式を設置すること。</p> <p>各ベッドにシーリングレールシステム()一式を設置すること。</p>						

諸室No.	01-04-04	種別	病棟	部門	ICU・HCU病棟		
室名	HCU個室				室数	5	
面積	18.9	m ² 以上	標準寸法	3.15	m x	6	m
用途	術後連泊する患者を経過観察する病室						
平均在室人数	4	人	最大在室人数	6	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名	スタッフステーション、ICU当直室、作業室						
内装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。						
特記事項	<p>各病室間の間仕切りは遮音壁とし、隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>各病室間の壁に0.9m x 1.8mのブラインド内蔵の窓を設置すること。</p> <p>照明器具は直接光源が目に入らないように配慮すること。</p> <p>夜間のベッド足元廻りに照明を設置すること。</p> <p>ベッド搬送時に壁面等が破損しないように配慮すること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>スタッフステーションから直接視認できる位置に配置すること。</p> <p>扉の巾は1.5m以上とし、できる限り大きくすること。</p> <p>扉は額付きとし、手前にカーテンを設置すること。</p> <p>照明等のスイッチは入口の近くに設置すること。</p> <p>空調の吹き出しがベッドに直接当たらないように工夫すること。</p> <p>医療ガスは各ベッドに、O(4)、V(4)、A(2)を設置すること。</p> <p>コートが掛けられ、キャスターバッグが収納できる造り付け更衣ロッカーを設置すること。</p> <p>ITV設備を設置し、ICU・HCUスタッフステーションで確認できること。</p> <p>2室に天井懸架式ビームシステム(トローリ付き)()一式を設置すること。</p> <p>3室にウォールケアユニット()一式を設置すること。</p> <p>各室にシーリングレールシステム()一式を設置すること。</p>						

諸室No.	01-04-05	種 別	病棟	部 門	ICU・HCU病棟		
室 名	HCU個室（陰陽圧室）				室 数	1	
面 積	24	m ²	以上	標準寸法	4	m ×	6 m
用 途	術後連泊する感染症、易感染患者を経過観察する病室						
平均在室人数	4		人	最大在室人数	6 人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名	スタッフステーション、ICU当直室、作業室						
内 装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。						
特記事項	<p>病棟の一番奥に配置すること。</p> <p>各病室間の壁に0.9m×1.8mのブラインド内蔵の窓を設置すること。 陰陽圧の切り替え制御が行えるようにすること。</p> <p>各病室間の間仕切りは遮音壁とし、隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>照明器具は直接光源が目に入らないように配慮すること。</p> <p>夜間のベッド足元廻りに照明を設置すること。</p> <p>ベッド搬送時に壁面等が破損しないように配慮すること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>スタッフステーションから直接視認できる位置に配置すること。</p> <p>扉の巾は1.5m以上とし、できる限り大きくすること。</p> <p>扉は額付きとし、手前にカーテンを設置すること。</p> <p>照明等のスイッチは入口の近くに設置すること。</p> <p>空調の吹き出しがベッドに直接当たらないように工夫すること。</p> <p>医療ガスは各ベッドに、O(4)、V(4)、A(2)を設置すること。</p> <p>コートが掛けられ、キャスターバッグが収納できる造り付け更衣ロッカーを設置すること。</p> <p>ITV設備を設置し、ICU・HCUスタッフステーションで確認できること。</p> <p>天井懸架式ビームシステム（トローリー付き）（ ）一式を設置すること。</p> <p>シーリングレールシステム（ ）一式を設置すること。</p>						

諸室No.	01-04-06	種 別	病棟	部 門	ICU・HCU病棟		
室 名	患者用トイレ				室 数	1	
面 積	9	m ²	程度	標準寸法	m ×	m	
用 途	患者用トイレ						
平均在室人数	2		人	最大在室人数	3 人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。						
特記事項	<p>車椅子及び点滴スタンド等が入り可能な幅を確保すること。</p> <p>介助者が介助可能なスペースを確保すること。</p> <p>大便器及び手洗いを備えた、車椅子対応の個室トイレを3室設置すること。</p> <p>適宜手すりを設けること。</p> <p>適宜、清掃に必要な掃除流しを設けること。</p>						

諸室No.	01-04-07	種別	病棟	部門	ICU・HCU病棟	
室名	スタッフステーション				室数	2
面積	40 m ²	以上	標準寸法	m × m		
用途	看護師、医師等が病棟に係る業務を行う					
平均在室人数	5	人	最大在室人数	15	人	
隣接すべき室名						
近接すべき室名	ICU・HCU病棟各病室、カンファレンスルーム、職員用トイレ、作業室、器材庫、面談室、ICU当直室、検査室					
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。					
特記事項	<p>ICU用とHCU用の2つを設置し、作業室、器材庫、検査室等を共用できる範囲で、近接又は隣接させること。</p> <p>病室の患者の状態が容易に確認できる位置に設置すること。</p> <p>作業カウンターを設置すること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>科長が執務を行うスペースを適宜確保し、パーティションにて仕切ること。</p> <p>収納棚を適宜設置すること。</p> <p>手術部門のインターホンシステムに接続すること。</p> <p>インターホンを設置し、ICU当直室と会話ができるようにすること。</p>					

諸室No.	01-04-08	種別	病棟	部門	ICU・HCU病棟	
室名	ICU当直室				室数	1
面積	14 m ²	程度	標準寸法	m × m		
用途	ICUの担当医師が当直する					
平均在室人数	1	人	最大在室人数	1	人	
隣接すべき室名						
近接すべき室名	ICU・HCU病棟各病室、スタッフステーション					
内装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。					
特記事項	<p>3点式のユニットバスを設置すること。</p> <p>病棟内に設置すること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>インターホンを設置し、ICU・HCUスタッフステーションと会話ができるようにすること。</p>					

諸室No.	01-04-09	種 別	病棟	部 門	ICU・HCU病棟		
室 名	カンファレンスルーム				室 数	1	
面 積	35	m ²	以上	標準寸法	m × m		
用 途	会議、カンファレンス、打合せ等を行う						
平均在室人数	15	人	最大在室人数	20	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名	スタッフステーション						
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。						
特記事項	クラス10,000のクリーン度を確保すること。						

諸室No.	01-04-10	種 別	病棟	部 門	ICU・HCU病棟		
室 名	職員用トイレ				室 数	1	
面 積	9	m ²	程度	標準寸法	m × m		
用 途							
平均在室人数	1	人	最大在室人数	3	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名	スタッフステーション						
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。						
特記事項	大便器及び手洗いを備えた個室トイレを3室設置すること。						

諸室No.	01-04-11	種 別	病棟	部 門	ICU・HCU病棟		
室 名	作業室			室 数	1		
面 積	12	m ²	程度	標準寸法	m × m		
用 途	汚物処理や便器等の洗浄を行う						
平均在室人数	2		人	最大在室人数	4		
隣接すべき室名							
近接すべき室名	スタッフステーション、ICU・HCU病棟各病室						
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。						
特記事項	2つのスタッフステーションの間に配置し、通り抜けられる構造とすること。 気管支鏡の洗浄のためにディスオーバ消毒液を使用するため、スタッフの作業環境を損なわないように強制換気を行うこと。 気管支鏡を浸け置きするための流し台を設置すること。						

諸室No.	01-04-12	種 別	病棟	部 門	ICU・HCU病棟		
室 名	検査室			室 数	1		
面 積	13	m ²	程度	標準寸法	m × m		
用 途	血液ガス分析装置、ポータブルX線撮影装置などの検査機器を保管、使用する						
平均在室人数	1		人	最大在室人数	3		
隣接すべき室名							
近接すべき室名	スタッフステーション (ICU)						
内 装	埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。						
特記事項	各検査機器を設置・収納できるスペースを確保すること。 クラス10,000のクリーン度を確保すること。						

諸室No.	01-04-13	種別	病棟	部門	ICU・HCU病棟			
室名	器材庫				室数	1		
面積	17	m ²	程度	標準寸法	m × m			
用途	ME機器等を保管する							
平均在室人数	2		人	最大在室人数	4			人
隣接すべき室名								
近接すべき室名	スタッフステーション							
内装	埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。							
特記事項	<p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。 収納棚を設置すること。</p>							

諸室No.	01-04-14	種別	病棟	部門	ICU・HCU病棟			
室名	面談室				室数	1		
面積	9	m ²	程度	標準寸法	m × m			
用途	患者及び家族への面談及び治療方法等の説明を行う							
平均在室人数	4		人	最大在室人数	8			人
隣接すべき室名								
近接すべき室名	スタッフステーション							
内装	埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。							
特記事項	<p>間仕切は遮音壁とし、会話が外に聞こえることのないように配慮すること。 クラス10,000のクリーン度を確保すること。 扉は、曇りガラスの窓などにより室内が確認できるようにすること。 4人掛けテーブル(木目調)()・椅子(肘付き・木目調)()1セットを設置すること。</p>							

諸室No.	01-04-15	種 別	病棟	部 門	ICU・HCU病棟			
室 名	配膳室			室 数	1			
面 積	10	m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	配膳や給湯を行う							
平均在室人数	1		人	最大在室人数	3			人
隣接すべき室名								
近接すべき室名								
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。							
特記事項	貯湯式の電気温水器を設けること。 ワゴンを設置するスペースを確保すること。 クラス10,000のクリーン度を確保すること。 製氷機を設置できるようにすること。							

諸室No.	01-04-16	種 別	病棟	部 門	ICU・HCU病棟			
室 名	汚物保管室			室 数	1			
面 積	9	m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	使用済みリネン、ゴミ、使用済み器材を一時保管する							
平均在室人数	0		人	最大在室人数	3			人
隣接すべき室名								
近接すべき室名								
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。							
特記事項								

諸室No.	01-04-17	種 別	病棟	部 門	ICU・HCU病棟
室 名	リネン庫			室 数	1
面 積	9 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	リネン等のベッド寝具類を保管する				
平均在室人数	0	人	最大在室人数	3	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	収納棚を設置すること。				

諸室No.	01-05-01	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟			
室 名	4 床室					室 数	8	
面 積	37.8	m ²	以上	標準寸法	6.3	m x	6 m	
用 途	入院居室							
平均在室人数	8		人	最大在室人数	16			人
隣接すべき室名								
近接すべき室名	男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレ							
内 装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。							
特記事項	<p>各ベッドサイドには、車椅子、点滴台が一時保管できるスペースを確保すること。</p> <p>各ベッドごとにキュービクルカーテンを設けること。なお、設置に当たっては自殺防止対策を講じること。</p> <p>各ベッドには使用していないときに壁面に収納できる医療パネルを設置すること。</p> <p>各ベッドには調光可能な読書灯を設置すること。</p> <p>照明器具は直接光源が目に入らないように配慮すること。</p> <p>夜間のベッド足元廻りに照明を設置すること。</p> <p>出入口はベッドの出入が容易に行なえる開口を確保すること。</p> <p>各病室間の間仕切りは遮音壁とし、隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>ベッド搬送時に壁面等が破損しないように配慮すること。</p> <p>照明等のスイッチは入口の近くに設置すること。</p> <p>空調の吹き出しがベッドに直接当たらないように工夫すること。</p> <p>扉は額付きとすること。ただし、夜間廊下の光が中に入らないように配慮すること。</p> <p>各ベッドにコートが掛けられ、キャスターバッグが収納できる造り付け更衣ロッカーを設置すること。</p>							

諸室No.	01-05-02	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟			
室 名	個室					室 数	8	
面 積	18.9	m ²	以上	標準寸法	3.15	m x	6 m	
用 途	入院居室							
平均在室人数	2		人	最大在室人数	5			人
隣接すべき室名								
近接すべき室名	スタッフステーション（重症個室）							
内 装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。							
特記事項	<p>重症個室2室を設け、その2室はスタッフステーションに近接させること。</p> <p>病室の窓側にトイレ付きユニットシャワーを設置すること。</p> <p>トイレ付ユニットシャワーは介助者が介助可能な広さとすること。</p> <p>使用していないときは壁面に収納できる医療パネルを設置すること。</p> <p>調光可能な読書灯を設置すること。</p> <p>照明器具は直接光源が目に入らないように配慮すること。</p> <p>夜間のベッド足元廻りに照明を設置すること。</p> <p>出入口はベッドの出入が容易に行なえる開口を確保すること。</p> <p>各病室間の間仕切りは遮音壁とし、隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>ベッド搬送時に壁面等が破損しないように配慮すること。</p> <p>重症個室2床にI T V設備を設置し、スタッフステーションで確認できること。</p> <p>扉は額付きとすること。ただし、夜間廊下の光が中に入らないように配慮すること。</p> <p>照明等のスイッチは入口の近くに設置すること。</p> <p>空調の吹き出しがベッドに直接当たらないように工夫すること。</p> <p>有料個室には洗面化粧台、重症個室には手洗いを設置すること。</p> <p>各ベッドにコートが掛けられ、キャスターバッグが収納できる造り付け更衣ロッカーを設置すること。</p>							

諸室No.	01-05-03	種別	病棟	部門	短期連携・RI病棟
室名	デイルーム			室数	1
面積	27 m ²	以上	標準寸法	m x	m
用途	患者の食事や談話に使用する、家族の面会やレクリエーションを行う				
平均在室人数	10	人	最大在室人数	15	人
隣接すべき室名	配膳室				
近接すべき室名					
内装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>車椅子対応の公衆電話ボックスを設置するスペースを確保すること。</p> <p>自動販売機及びゴミ容器を設置すること。</p> <p>使用していないときは壁面に収納できる医療ガスのアウトレットを設置すること。</p> <p>患者のアメニティに配慮したインテリアとすること。</p> <p>4人がけテーブル(アジャスター式、木調)()・椅子()4セットを設置すること。</p>				

諸室No.	01-05-04	種別	病棟	部門	短期連携・RI病棟
室名	シャワー室(短期連携)			室数	2
面積	6 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途					
平均在室人数	1	人	最大在室人数	2	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>シャワー室及び脱衣室を設置すること。</p> <p>シャワー室は介助者が介助可能なスペースを確保すること。</p> <p>脱衣室は車椅子が入れるスペースを確保すること。</p> <p>シャワー室は車椅子が入れる大きさとすること。</p> <p>脱衣室は床暖房とすること。</p> <p>脱衣室に掃除用具入れを設置すること。</p> <p>脱衣室には適宜手摺りを設置すること。</p>				

諸室No.	01-05-05	種別	病棟	部門	短期連携・RI病棟	
室名	面談室				室数	1
面積	9 m ²	程度	標準寸法	m x m		
用途	患者及び家族への面談及び治療方法等の説明を行う					
平均在室人数	4 人	最大在室人数	6 人			
隣接すべき室名						
近接すべき室名	スタッフステーション					
内装						
特記事項	<p>間仕切は遮音壁とし、会話が外に聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>扉は、曇りガラスの窓などにより室内が確認できるようにすること。</p> <p>4人掛けテーブル(木目調)()・椅子(肘付き・木目調)()1セットを設置すること。</p>					

諸室No.	01-05-06	種別	病棟	部門	短期連携・RI病棟	
室名	配膳室				室数	1
面積	10 m ²	程度	標準寸法	m x m		
用途	配膳、給湯を行う					
平均在室人数	3 人	最大在室人数	6 人			
隣接すべき室名	デイルーム					
近接すべき室名	(配膳用エレベーター)					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	<p>配膳車を収納できるスペースを確保すること。</p> <p>デイルームとの間に扉を設置すること。</p> <p>貯湯式電気温水器を設置すること。</p> <p>延食用の鍵付きの棚を設置すること。</p>					

諸室No.	01-05-07	種別	病棟	部門	短期連携・R I病棟	
室名	男子トイレ				室数	1
面積	12 m ²	程度	標準寸法	m × m		
用途						
平均在室人数	6 人	最大在室人数	12 人			
隣接すべき室名	作業室					
近接すべき室名	4 床室					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	<p>ブースは点滴スタンドを持って入れるスペースを確保すること。</p> <p>ブースは介助者が介助可能な広さとすること。</p> <p>用具等の収納スペース（1 m²程度）を確保すること。</p> <p>通路までは車椅子が入れる広さを確保すること。</p> <p>大便器2据、小便器2据及び手洗い2器を設置すること。</p> <p>小便器、手洗いは各1か所ずつ手すりを設けること。</p> <p>大便器は全て手すりを設けること。</p> <p>適宜、清掃に必要な掃除流しを設けること。</p> <p>出入口は病室の入り口に対面しないようにすること。</p>					

諸室No.	01-05-08	種別	病棟	部門	短期連携・R I病棟	
室名	女子トイレ				室数	1
面積	12 m ²	程度	標準寸法	m × m		
用途						
平均在室人数	5 人	最大在室人数	10 人			
隣接すべき室名	作業室					
近接すべき室名	4 床室					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	<p>ブースは点滴スタンドを持って入れるスペースを確保すること。</p> <p>ブースは介助者が介助可能な広さとすること。</p> <p>用具等の収納スペース（1 m²程度）を確保すること。</p> <p>通路までは車椅子が入れる広さを確保すること。</p> <p>大便器3据及び手洗い2器を設置すること。</p> <p>洗面器は各1か所手すりを設けること。</p> <p>大便器は全て手すりを設けること。</p> <p>適宜、清掃に必要な掃除流しを設けること。</p> <p>出入口は病室の入り口に対面しないようにすること。</p>					

諸室No.	01-05-09	種別	病棟	部門	短期連携・RI病棟	
室名	多目的トイレ				室数	1
面積	6 m ²	程度	標準寸法	m x m		
用途	車椅子等の患者が利用するトイレ					
平均在室人数	1 人	最大在室人数	3 人			
隣接すべき室名	作業室					
近接すべき室名	4 床室					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	<p>オストメイト対応とすること。</p> <p>患者が浣腸を行うための収納式多目的シート（ベッド）を設けること。</p> <p>汚物流しを設けること。</p> <p>自動ドアとすること。</p> <p>右麻痺の患者と左麻痺の患者が利用できるものとすること。</p> <p>車椅子対応にすること。</p>					

諸室No.	01-05-10	種別	病棟	部門	短期連携・RI病棟	
室名	洗面コーナー				室数	1
面積	適宜 m ²	標準寸法	m x m			
用途						
平均在室人数	2 人	最大在室人数	3 人			
隣接すべき室名						
近接すべき室名	コインランドリー、洗髪コーナー					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	病室に対する水音等を配慮した位置に配置すること。					

諸室No.	01-05-11	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟	
室 名	コインランドリー				室 数	1
面 積	4 m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	患者等が衣類等の洗濯を行う					
平均在室人数	-	人	最大在室人数	-	人	
隣接すべき室名						
近接すべき室名	洗面コーナー					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	<p>病室に対する騒音等を配慮した位置に配置すること。</p> <p>洗濯機と乾燥機を1台以上設置すること。</p> <p>洗剤の自販機を設置すること。</p>					

諸室No.	01-05-12	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟	
室 名	スタッフステーション				室 数	1
面 積	70 m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	看護師、医師等が病棟に係る業務を行う					
平均在室人数	6	人	最大在室人数	25	人	
隣接すべき室名	処置室					
近接すべき室名	面談室、個室（重症個室）、休憩室、急患診察・処置室、リネン庫、器材庫、職員用トイレ					
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項	<p>すべての病室に目が届きやすい位置に配置すること。</p> <p>科長が執務を行うスペースを適宜確保し、パーティションにて仕切ること。</p> <p>車椅子も利用できるオープンタイプの受付カウンターを設置すること。</p> <p>作業カウンターを設置すること。</p> <p>手洗いを2か所設置すること。</p> <p>収納棚を適宜設置すること。</p> <p>インターホンを設置し、短期連携・R I 病棟入口と会話ができるようにすること。</p> <p>手術部門のインターホンシステムに接続すること。</p>					

諸室No.	01-05-13	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟	
室 名	休憩室				室 数	1
面 積	21 m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	スタッフが休憩及び食事を行う					
平均在室人数	7 人	最大在室人数	12 人			
隣接すべき室名						
近接すべき室名	スタッフステーション					
内 装						
特記事項	私物を収納する個人用ロッカー12人用3台分を設置できるスペースを確保すること。					

諸室No.	01-05-14	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟	
室 名	カンファレンスルーム				室 数	1
面 積	18 m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	会議、カンファレンス、打合せ等を行う					
平均在室人数	10 人	最大在室人数	15 人			
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項						

諸室No.	01-05-16	種別	病棟	部門	短期連携・RI病棟		
室名	急患診察・処置室				室数	1	
面積	18 m ²	程度	標準寸法	3 m x 4 m			
用途	夜間、土日祝日の救急患者の診察や処置を行う						
平均在室人数	3 人		最大在室人数	4 人			
隣接すべき室名							
近接すべき室名	スタッフステーション、(エレベーターホール)						
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>寝台用エレベーター、スタッフステーションからアクセスの良い位置に配置すること。 扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。</p>						

諸室No.	01-05-17	種別	病棟	部門	短期連携・RI病棟		
室名	処置室				室数	1	
面積	24 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	入院患者の処置及び診療の準備を行う						
平均在室人数	3 人		最大在室人数	7 人			
隣接すべき室名	スタッフステーション						
近接すべき室名							
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>スタッフステーションから直接往来できる位置に配置すること。 ベッド対応での処置が可能なスペースを確保すること。 処置ベッドを設置するスペースを確保すること。 貯湯式電気温水器を設置すること。 流し台は用途別に2か所設置すること。 収納棚を適宜設置すること。 製氷機を設置できるようにすること。</p>						

諸室No.	01-05-19	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟		
室 名	汚物保管室				室 数	1	
面 積	9	m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	使用済みリネン、ゴミ、使用済み器材を一時保管する						
平均在室人数	2		人	最大在室人数	4		
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項							

諸室No.	01-05-20	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟		
室 名	作業室				室 数	1	
面 積	12	m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	汚物処理や便器の洗浄、消毒、保管を行う						
平均在室人数	2		人	最大在室人数	5		
隣接すべき室名	男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレ						
近接すべき室名							
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	廊下、男女トイレから直接入れるようにすること。 便座保温器の設置スペースを設けること。 ポータブルトイレ、トイレトーパー等を収納するための棚を設置すること。 自動尿測定装置() 1台を設置すること。						

諸室No.	01-05-21	種 別	病棟	部 門	短期連携・RI病棟	
室 名	器材庫			室 数	1	
面 積	15 m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	器材を保管する					
平均在室人数	2 人	最大在室人数	4 人			
隣接すべき室名						
近接すべき室名	スタッフステーション					
内 装						
特記事項	<p>器材を十分収納できるスペースを確保すること。 物流業務で使用するスペースは別途確保すること。 収納棚を適宜設置すること。</p>					

諸室No.	01-05-22	種 別	病棟	部 門	短期連携・RI病棟	
室 名	リネン庫			室 数	1	
面 積	9 m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	リネン等のベッド寝具類を保管する					
平均在室人数	2 人	最大在室人数	3 人			
隣接すべき室名						
近接すべき室名	スタッフステーション					
内 装						
特記事項	<p>収納棚を設置すること。</p>					

諸室No.	01-05-23	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟	
室 名	放射線管理室・汚染検査室				室 数	1
面 積	12 m ² 以上	標準寸法	m x m			
用 途	放射線の監視、汚染検査、汚染除去を行う					
平均在室人数	2 人	最大在室人数	4 人			
隣接すべき室名						
近接すべき室名	(R I 病棟前室)					
内 装	関係法令に遵守し、放射線同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項	<p>放射線管理室にはR I 病棟の前室に面して受付カウンターを設置すること。</p> <p>R I 管理区域内に設置すること。</p> <p>放射線管理システムを設置し、常時監視が行えるようにすること。夜間休日等は防災センターにて警報が確認できるようなシステムを設置すること。</p> <p>放射線管理室と汚染検査室は間仕切りにより別室とすること。</p> <p>汚染検査室には、除染用のユニットシャワーを設けること。</p> <p>必要な放射線防護を行うこと。</p>					

諸室No.	01-05-24	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟	
室 名	放射線治療病室				室 数	2
面 積	15 m ² 以上	標準寸法	3 m x 5 m			
用 途	診療用放射性同位元素による治療を受けている患者の入院居室					
平均在室人数	1 人	最大在室人数	4 人			
隣接すべき室名						
近接すべき室名	診療処置室、治療計画室					
内 装	<p>患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。</p> <p>関係法令に遵守し、放射線同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。</p>					
特記事項	<p>2室とも密封・非密封放射線治療が行える仕様とし、必要な放射線防護を行うこと。</p> <p>トイレ付きユニットシャワーを設置すること。</p> <p>トイレ付きユニットシャワーは介助者が介助可能な広さとすること。</p> <p>使用していないときは壁面に収納できる医療パネルを設置すること。</p> <p>各ベッドには調光可能な読書灯を設置すること。</p> <p>照明器具は直接光源が目に入らないように配慮すること。</p> <p>夜間のベッド足元廻りに照明を設置すること。</p> <p>出入口はベッドの出入が容易に行なえる開口を確保すること。</p> <p>各病室間の間仕切りは遮音壁とし、隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>ベッド搬送時に壁面等が破損しないように配慮すること。</p> <p>R I 管理区域内に配置すること。</p> <p>照明等のスイッチは入口の近くに設置すること。</p> <p>空調の吹き出しがベッドに直接当たらないように工夫すること。</p> <p>各室にI T V設備を設置し、スタッフステーションで確認できること。</p> <p>扉は額付きとすること。ただし、夜間廊下の光が中に入らないように配慮すること。</p> <p>各ベッドにコートが掛けられ、キャスターバッグが収納できる造り付け更衣ロッカーを設置すること。</p>					

諸室No.	01-05-25	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟	
室 名	診察処置室・治療計画室				室 数	1
面 積	12 m ²	以上	標準寸法	m x m		
用 途	診療用放射性同位元素により治療する患者の診察、注射、処置を行う。					
平均在室人数	3	人	最大在室人数	6	人	
隣接すべき室名	R I 準備室、X線撮影・処置室					
近接すべき室名	放射線治療病室					
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射線同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項	<p>処置ベッドを設置するスペースを確保すること。 R I 管理区域内に配置すること。 ストレッチャーが入れるスペースを確保すること。 必要な放射線防護を行うこと。</p>					

諸室No.	01-05-26	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟	
室 名	R I 準備室				室 数	1
面 積	10 m ²	程度	標準寸法	3	m x 3 m	
用 途	治療に使用する放射性医薬品の分注等を行う					
平均在室人数	2	人	最大在室人数	4	人	
隣接すべき室名	診察処置室・治療計画室、貯蔵室・線源庫、保管廃棄室					
近接すべき室名						
内 装	関係法令に遵守し、放射線同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項	<p>R I 管理区域内に配置すること。 R I フード() 1台を設置すること。 必要な放射線防護を行うこと。</p>					

諸室No.	01-05-27	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟	
室 名	X線撮影・処置室				室 数	1
面 積	48 m ²	以上	標準寸法	6 m	x	8 m
用 途	放射線治療入院患者のX線撮影、腰椎麻酔、密封小線源挿入等の処置を行う					
平均在室人数	5 人	最大在室人数	6 人			
隣接すべき室名	操作室、診察処置室・治療計画室					
近接すべき室名						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射線同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項	<p>R I 管理区域内に配置すること。</p> <p>手術台、CアームX線撮影装置を設置できるスペース、内装とすること。</p> <p>室内にカーテンによる更衣スペースを確保すること。</p> <p>必要な放射線防護を行うこと。</p> <p>天井に无影灯を設置できるようにすること。</p> <p>手術用手洗い装置を設置できるようにすること。</p>					

諸室No.	01-05-28	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟	
室 名	操作室				室 数	1
面 積	18 m ²	程度	標準寸法	m	x	m
用 途	X線撮影装置の操作を行う					
平均在室人数	2 人	最大在室人数	4 人			
隣接すべき室名	X線撮影・処置室					
近接すべき室名						
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。					
特記事項	<p>R I 管理区域内に配置すること。</p> <p>必要な放射線防護を行うこと。</p>					

諸室No.	01-05-29	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟		
室 名	貯蔵室・線源庫				室 数	1	
面 積	6 m ²	程 度	標準寸法	2 m x	3 m		
用 途	放射線治療に使用する密封線源、非密封線源を収納・保管する						
平均在室人数	1 人	最大在室人数	2 人				
隣接すべき室名	R I 準備室						
近接すべき室名							
内 装	関係法令に遵守し、放射線同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>R I 管理区域内に配置すること。</p> <p>線源の盗難防止のため、カードリーダーによるセキュリティ対策を施すこと。</p> <p>必要な放射線防護を行うこと。</p>						

諸室No.	01-05-31	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟		
室 名	保管廃棄室				室 数	1	
面 積	6 m ²	程 度	標準寸法	m x	m		
用 途	使用済みの放射性同位元素の廃棄用に一定期間の保管を行う						
平均在室人数	人	最大在室人数	人				
隣接すべき室名	R I 準備室						
近接すべき室名							
内 装	関係法令に遵守し、放射線同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>R I 管理区域内に配置すること。</p> <p>廃棄物等の集荷等が容易に行える出入口を設けること。</p> <p>線源の盗難防止のため、カードリーダーによるセキュリティ対策を施すこと。</p> <p>必要な放射線防護を行うこと。</p>						

諸室No.	01-05-32	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟	
室 名	洗髪コーナー			室 数	1	
面 積	適宜	m ²	標準寸法	m x m		
用 途						
平均在室人数	1 人		最大在室人数	2 人		
隣接すべき室名						
近接すべき室名	洗面コーナー					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	患者が仰向けで使用できる洗髪チェアを設置するスペースを確保すること。					

諸室No.	01-05-33	種 別	病棟	部 門	短期連携・R I 病棟	
室 名	職員用トイレ			室 数	1	
面 積	6	m ²	程度	標準寸法	m x m	
用 途	職員用のトイレ					
平均在室人数	1 人		最大在室人数	2 人		
隣接すべき室名						
近接すべき室名	スタッフステーション					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	<p>大便器及び手洗いを備えた男子用個室トイレを1室設置すること。</p> <p>大便器及び手洗いを備えた女子用個室トイレを1室設置すること。</p>					

諸室No.	02-01-01	種 別	外来	部 門	外来
室 名	案内窓口			室 数	2
面 積	8 m ²	程 度	標準寸法	m ×	m
用 途	外来患者の案内を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	2 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	各待合室				
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>スタッフ通路から直接アクセスできる位置に配置すること。 外来患者の視認性がよい位置に配置すること。 シャッター等により夜間の管理が行えるように配慮すること。 案内カウンターを設置すること。</p>				

諸室No.	02-01-02	種 別	外来	部 門	外来
室 名	待合室1			室 数	1
面 積	155 m ²	以 上	標準寸法	m ×	m
用 途	外来Aブロックの待合				
平均在室人数	80 人	最大在室人数	80 人		
隣接すべき室名	外来Aブロック診察室、スタッフ通路、処置室				
近接すべき室名	案内窓口				
内 装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>3人掛けのロビーチェアで、80人以上が待つことができるスペースを確保すること。 入口はベッドが通行できる自動ドアとすること。 ガラススクリーン等により廊下から室内が確認できるように配慮すること。 室内に車椅子の来院者が待つことができるスペースを確保すること。 処置室に直接往来できるようにすること。 上部をガラススクリーンにするなどして、処置室から室内が確認できるようにすること。 スタッフ通路との扉は額付きとすること。 待合い用椅子(3人掛け)()25台を設置すること。</p>				

諸室No.	02-01-03	種 別	外来	部 門	外来
室 名	待合室 2			室 数	1
面 積	155 m ² 以上	標準寸法		m x	m
用 途	外来 B ブロックの待合				
平均在室人数	80 人	最大在室人数	80	人	
隣接すべき室名	外来 B ブロック診察室、スタッフ通路、処置室				
近接すべき室名	案内窓口				
内 装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>3人掛けのロビーチェアで、80人以上が待つことができるスペースを確保すること。 入口はベッドが通行できる自動ドアとすること。 ガラススクリーン等により廊下から室内が確認できるように配慮すること。 室内に車椅子の来院者が待つことができるスペースを確保すること。 処置室に直接往来できるようにすること。 上部をガラススクリーンにするなどして、処置室から室内が確認できるようにすること。 スタッフ通路との扉は額付きとすること。 待合い用椅子（3人掛け）（ ）25台を設置すること。</p>				

諸室No.	02-01-04	種 別	外来	部 門	外来
室 名	待合室 3			室 数	1
面 積	155 m ² 以上	標準寸法		m x	m
用 途	外来 C ブロックの待合				
平均在室人数	80 人	最大在室人数	80	人	
隣接すべき室名	外来 C ブロック診察室、スタッフ通路、トイレ 2				
近接すべき室名	案内窓口				
内 装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>3人掛けのロビーチェアで、80人以上が待つことができるスペースを確保すること。 入口はベッドが通行できる自動ドアとすること。 ガラススクリーン等により廊下から室内が確認できるように配慮すること。 室内に車椅子の来院者が待つことができるスペースを確保すること。 スタッフ通路との扉は額付きとすること。 待合い用椅子（3人掛け）（ ）25台を設置すること。</p>				

諸室No.	02-01-05	種 別	外来	部 門	外来
室 名	待合室 4			室 数	1
面 積	155 m ² 以上	標準寸法		m x	m
用 途	外来Dブロックの待合				
平均在室人数	80 人	最大在室人数	80	人	
隣接すべき室名	外来Dブロック診察室、スタッフ通路、処置室				
近接すべき室名	案内窓口				
内 装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>3人掛けのロビーチェアで、80人以上が待つことができるスペースを確保すること。 入口はベッドが通行できる自動ドアとすること。 ガラススクリーン等により廊下から室内が確認できるように配慮すること。 室内に車椅子の来院者が待つことができるスペースを確保すること。 処置室に直接往来できるようにすること。 上部をガラススクリーンにするなどして、処置室から室内が確認できるようにすること。 スタッフ通路との扉は額付きとすること。 待合い用椅子（3人掛け）（ ）25台を設置すること。</p>				

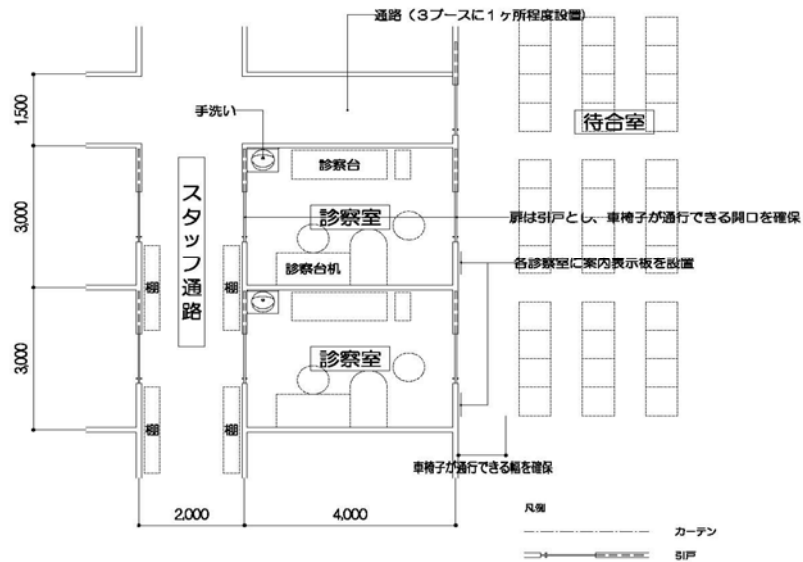
諸室No.	02-01-06	種 別	外来	部 門	外来
室 名	待合室 5			室 数	1
面 積	100 m ² 以上	標準寸法		m x	m
用 途	外来Eブロックの待合				
平均在室人数	40 人	最大在室人数	40	人	
隣接すべき室名	外来Eブロック診察室、スタッフ通路				
近接すべき室名	案内窓口				
内 装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>3人掛けのロビーチェアで、40人以上が待つことができるスペースを確保すること。 入口はベッドが通行できる自動ドアとすること。 ガラススクリーン等により廊下から室内が確認できるように配慮すること。 室内に車椅子の来院者が待つことができるスペースを確保すること。 処置室に直接往来できるようにすること。 上部をガラススクリーンにするなどして、処置室から室内が確認できるようにすること。 スタッフ通路との扉は額付きとすること。 待合い用椅子（3人掛け）（ ）10台を設置すること。</p>				

諸室No.	02-01-07	種別	外来	部門	外来	
室名	診察室				室数	42
面積	12 m ² 以上	標準寸法	3 m x 4 m			
用途	外来患者の診察を行う					
平均在室人数	3 人	最大在室人数	7 人			
隣接すべき室名	各診察室、各待合室、スタッフ通路					
近接すべき室名	処置室					
内装	患者の診察を行うのにふさわしい仕上げとすること。					

特記事項

待合室とスタッフ通路に直接面した位置に配置すること。
待合室から直接見える位置に配置すること。
診察室の形状はできる限り同じ大きさとすること。
診察室3室当たり1か所程度スタッフ通路から直接待合室に通じる通路を設置すること。
待合室、スタッフ通路側の扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。
隣室に音が聞こえることのないように配慮すること。
手洗いの脇にペーパータオルとゴミ箱を設置するスペースを確保すること。
スタッフ通路をはさんだ向かいの診察室が直接見えないように、扉の位置等を工夫すること。
各診察室に診察用デスク(ラウンドタイプ) ()1台、患者用椅子(アジャスター付) ()1台、医師用椅子(サークル肘付きチェア) ()1台を設置すること。
外来ブロックA, B, Dの各診察室に診察台()を設置すること。

レイアウト



諸室No.	02-01-08	種 別	外来	部 門	外来
室 名	泌尿器科診察室			室 数	4
面 積	12 m ² 以上	標準寸法		m ×	m
用 途	泌尿器科外来患者の診察を行う				
平均在室人数	4 人	最大在室人数	9	人	
隣接すべき室名	スタッフ通路				
近接すべき室名	泌尿器科処置室、膀胱鏡室				
内 装	患者の診察を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>外来Cブロックに配置すること。</p> <p>待合室とスタッフ通路に直接面した位置に配置すること。</p> <p>待合室から直接見える位置に配置すること。</p> <p>診察室の形状はできる限り同じ大きさとする。</p> <p>スタッフ通路から直接待合室に通じる通路を適宜設置すること。</p> <p>待合室、スタッフ通路側の扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>隣室に音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>入口が待合室から直接見えないように配慮すること。</p> <p>手洗いの脇にペーパータオルとゴミ箱を設置するスペースを確保すること。</p> <p>スタッフ通路をはさんだ向かいの診察室が直接見えないように、扉の位置等を工夫すること。</p> <p>各診察室に診察用デスク(ラウンドタイプ)()1台、患者用椅子(アジャスター付)()1台、医師用椅子(サークル肘付きチェア)()1台を設置すること。</p>				

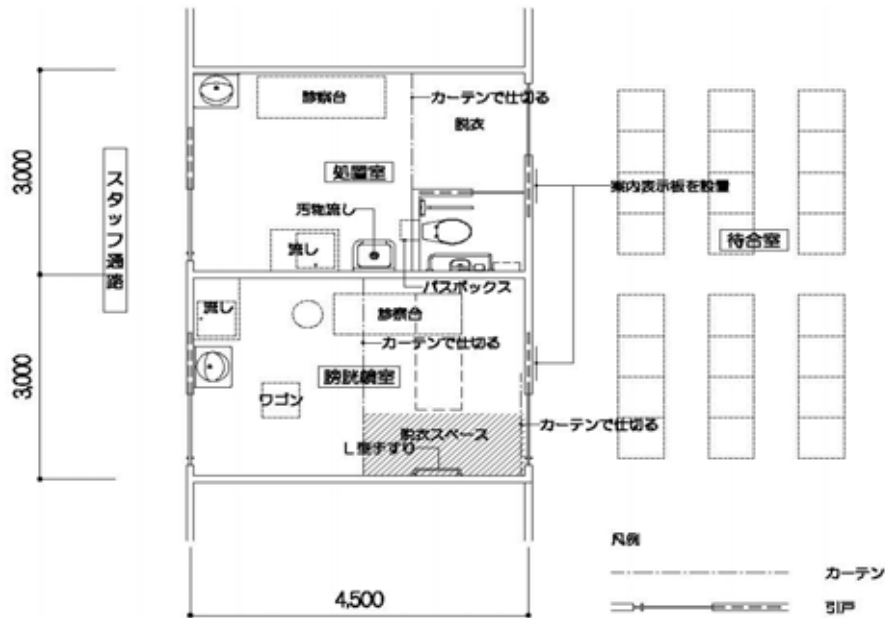
諸室No.	02-01-09	種 別	外来	部 門	外来
室 名	膀胱鏡室			室 数	1
面 積	14 m ² 以上	標準寸法		3 m ×	4.5 m
用 途	膀胱鏡検査を行う				
平均在室人数	3 人	最大在室人数	8	人	
隣接すべき室名	泌尿器科処置室、スタッフ通路				
近接すべき室名	泌尿器科診察室				
内 装	患者の診察を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>外来Cブロックに配置すること。</p> <p>入口が待合室から直接見えないように配慮すること。</p> <p>室内に車椅子とストレッチャーが入る脱衣スペースを設けること。</p> <p>室内はカーテンにより仕切ること。</p> <p>待合室、スタッフ通路側の扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>隣室に音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>扉は施錠可能とし、手前にカーテンを設置すること。</p> <p>臭気対策を施すこと。</p> <p>流し台は、膀胱鏡の汚水トレイ(300mm×500mm程度)が洗浄できる大きさとする。</p> <p>スタッフ通路をはさんだ向かいの診察室が直接見えないように、扉の位置等を工夫すること。</p>				

諸室No.	02-01-10	種別	外来	部門	外来	
室名	泌尿器科処置室				室数	1
面積	14 m ²	程度	標準寸法	3 m x	4.5 m	
用途	泌尿器の検査（エコー、膀胱内圧測定、尿流検査）を行う 自己注射、自己導尿の指導を行う 尿道プジ - （拡張）、穿刺等の処置を行う					
平均在室人数	3 人	最大在室人数	4 人			
隣接すべき室名	膀胱鏡室、スタッフ通路					
近接すべき室名	泌尿器科診察室					
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。					

特記事項

外来Cブロックに配置すること。
 処置室内から入れるウロフロー測定用トイレ（ ）を設置し、処置室との間にバスボックスを設置すること。
 待合室、スタッフ通路側の扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。
 処置台を設置するスペースを確保すること。
 隣室に音が聞こえることのないように配慮すること。
 臭気対策を施すこと。
 スタッフ通路をはさんだ向かいの診察室が直接見えないように、扉の位置等を工夫すること。

参考レイアウト



諸室No.	02-01-11	種 別	外来	部 門	外来	
室 名	婦人科診察室				室 数	4
面 積	12 m ² 以上	標準寸法		3 m x	4 m	
用 途	婦人科外来患者の診察を行う					
平均在室人数	3 人	最大在室人数	8	人		
隣接すべき室名	婦人科内診室					
近接すべき室名						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項	<p>外来Cブロックに配置すること。</p> <p>待合室に直接面した位置に配置すること。</p> <p>待合室から直接見える位置に配置すること。</p> <p>診察室の形状はできる限り同じ大きさとする。</p> <p>スタッフ通路から直接待合室に通じる通路を適宜設置すること。</p> <p>扉は引戸とし、車椅子およびストレッチャーが容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>婦人科内診室の脱衣スペース側にも車椅子の通行が容易な幅員の引戸を設置し、待合室側の扉を開けたときに内診室が見えないよう扉の位置に配慮すること。</p> <p>上記の引戸とは別に、婦人科内診室側にスタッフ用のドアを設置すること。</p> <p>隣室に音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>手洗いの脇にペーパータオルとゴミ箱を設置するスペースを確保すること。</p> <p>スタッフ通路をはさんだ向かいの診察室が直接見えないように、扉の位置等を工夫すること。</p> <p>各診察室に診察用デスク()1台、患者用椅子()1台、医師用椅子()1台を設置すること。</p>					

諸室No.	02-01-12	種別	外来	部門	外来	
室名	婦人科内診室				室数	4
面積	14 m ² 以上	標準寸法	3.5 m x 4 m			
用途	婦人科外来患者の内診・処置を行う					
平均在室人数	3 人	最大在室人数	4 人			
隣接すべき室名	婦人科診察室、スタッフ通路					
近接すべき室名						
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。					

外来Cブロックに配置すること。
 婦人科診察台を設置できるスペースを確保すること。
 脱衣スペースを確保し、カーテンで仕切ること。
 婦人科診察室側、スタッフ通路側とも、内診室から施錠可能な引戸を設置し、車椅子の通行が容易な幅員を確保すること。
 隣室に音が聞こえることのないように配慮すること。
 各室にシーリング照明灯()を設置すること。
 内診台の付近に手すりを設置すること。
 内診台の付近に排水溝を設置すること。
 臭気対策を施すこと。
 スタッフ通路をはさんだ向かいの診察室が直接見えないように、扉の位置等を工夫すること。

特記事項

参考レイアウト

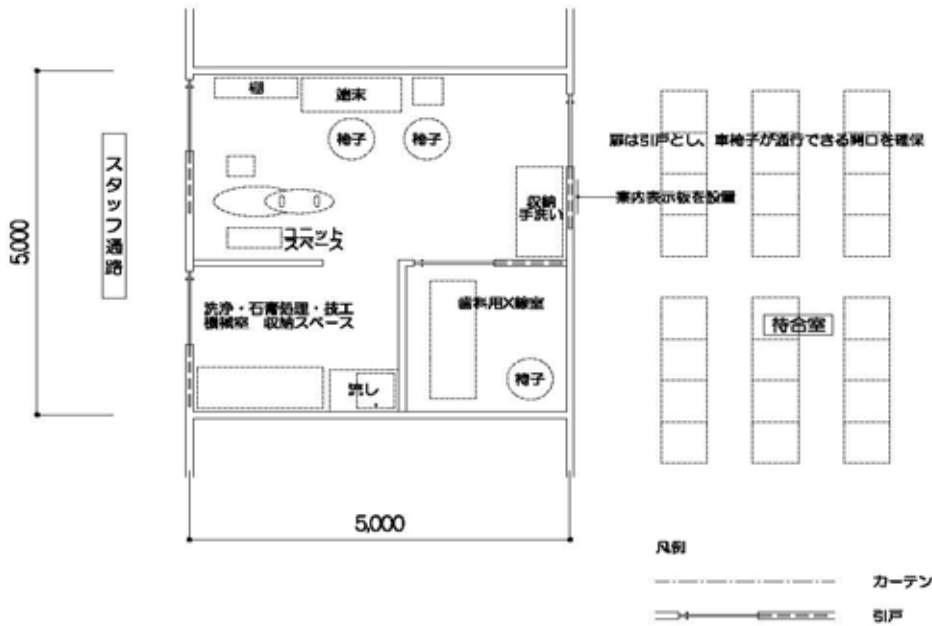


諸室No.	02-01-13	種 別	外来	部 門	外来	
室 名	歯科口腔外科診察室				室 数	1
面 積	25 m ² 以上	標準寸法	5 m x 5 m			
用 途	歯科口腔外科外来患者の診察を行う					
平均在室人数	4 人	最大在室人数	8 人			
隣接すべき室名	スタッフ通路					
近接すべき室名	頭頸部外科診察室					
内 装	患者の診察を行うのにふさわしい仕上げとすること。					

特記事項

外来Cブロックに配置すること。なお、騒音が出るため、防音に配慮した場所に配置すること。
 室内にX線撮影室、洗浄室及び技工室を設けること。
 X線撮影室は鉛2mm当量の放射線防護を施すこと。
 隣室に音が聞こえることのないように配慮すること。
 待合室、スタッフ通路側の扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。
 歯科用ユニットのそばに、ストレッチャーを置くスペースを確保すること。
 スタッフ通路をはさんだ向かいの診察室が直接見えないように、扉の位置等を工夫すること。
 診察室に診察用デスク()1台、患者用椅子()1台、医師用椅子()1台を設置すること。

参考レイアウト



諸室No.	02-01-14	種別	外来	部門	外来	
室名	頭頸部外科診察室				室数	2
面積	20 m ² 以上	標準寸法	4 m x 5 m			
用途	頭頸部外科外来患者の診察を行う					
平均在室人数	4 人	最大在室人数	10 人			
隣接すべき室名	スタッフ通路					
近接すべき室名	歯科口腔外科診察室					
内装	患者の診察を行うのにふさわしい仕上げとすること。					

外来Cブロックに配置すること。
 待合室とスタッフ通路に直接面した位置に配置すること。
 待合室から直接見える位置に配置すること。
 診察室の形状はできる限り同じ大きさとする。こと。
 スタッフ通路から直接待合室に通じる通路を適宜設置すること。
 隣室に音が聞こえることのないように配慮すること。
 各診察室から直接往来できる位置に、ファイバー洗浄室を別途配置すること。
 待合室、スタッフ通路側の扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。
 ファイバー洗浄室の換気に留意すること。
 耳鼻科ユニットは壁から70cm離せるようにすること。
 耳鼻科ユニットの近くに、医療ガス（O、V）を設置すること。
 温度調整が可能な空調設備とすること。
 スタッフ通路をはさんだ向かいの診察室が直接見えないように、扉の位置等を工夫すること。
 各診察室に診察用デスク（ラウンドタイプ）（ ）1台、患者用椅子（アジャスター付）（ ）1台、医師用椅子（サークル肘付きチェア）（ ）1台を設置すること。
 ファイバー洗浄器用の給排水設備を3か所設置すること。

参考レイアウト



諸室No.	02-01-15	種 別	外来	部 門	外来	
室 名	眼科診察室				室 数	1
面 積	20 m ² 以上	標準寸法		4 m x	5 m	
用 途	入院患者・外来患者の眼科診察を行う					
平均在室人数	3 人	最大在室人数		6	人	
隣接すべき室名	スタッフ通路					
近接すべき室名						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項	<p>外来Cブロックに配置すること。</p> <p>待合室とスタッフ通路に直接面した位置に配置すること。</p> <p>待合室から直接見える位置に配置すること。</p> <p>スタッフ通路から直接待合室に通じる通路を適宜設置すること。</p> <p>視力測定のため5m以上のスペースを設けること。</p> <p>隣室に音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>待合室、スタッフ通路側の扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>照明は調光可能で暗室となること。</p> <p>スタッフ通路をはさんだ向かいの診察室が直接見えないように、扉の位置等を工夫すること。</p> <p>各診察室に診察用デスク(ラウンドタイプ)()1台、患者用椅子(アジャスター付)()1台、医師用椅子(サークル肘付きチェア)()1台を設置すること。</p>					

諸室No.	02-01-16	種別	外来	部門	外来	
室名	リンパ浮腫診察室				室数	1
面積	20 m ²	程度	標準寸法	m x m		
用途	リンパ浮腫患者のケア、集団指導を行う					
平均在室人数	6 人	最大在室人数	8 人			
隣接すべき室名	スタッフ通路					
近接すべき室名						
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。					

特記事項

外来Eブロックに配置すること。
 待合室とスタッフ通路に直接面した位置に配置すること。
 待合室から直接見える位置に配置すること。
 スタッフ通路から直接待合室に通じる通路を適宜設置すること。
 隣室に音が聞こえることのないように配慮すること。
 待合室、スタッフ通路側の扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。
 室内を診察スペースと処置スペースに分け、カーテンで区切ること。
 スタッフ通路をはさんだ向かいの診察室が直接見えないように、扉の位置等を工夫すること。
 診察室に診察用デスク(ラウンドタイプ) () 1台、患者用椅子(アジャスター付) () 1台、医師用椅子(サークル肘付きチェア) () 1台を設置すること。
 ベッド周囲を可動式の椅子が動くスペースを確保すること。

参考レイアウト

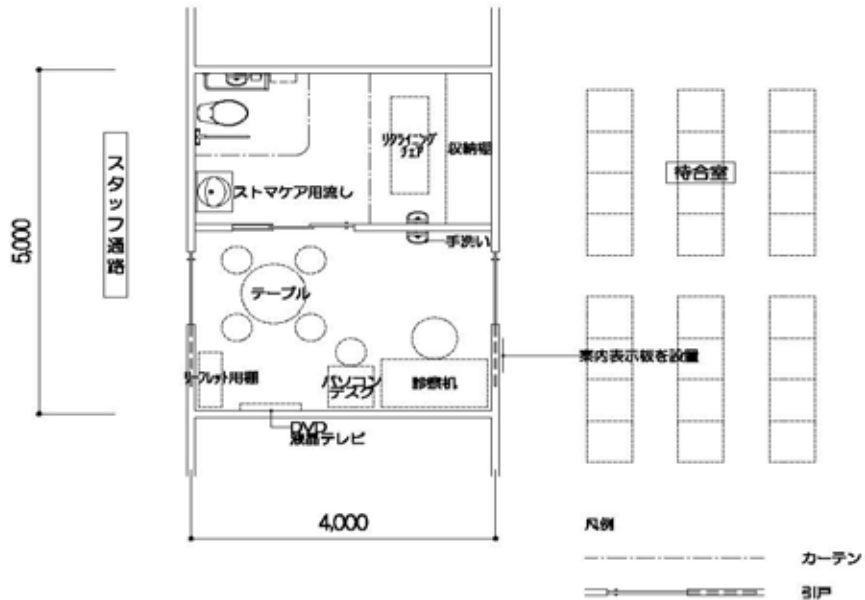


諸室No.	02-01-17	種別	外来	部門	外来	
室名	ストーマ診察室				室数	1
面積	20 m ²	程度	標準寸法	4 m x	5 m	
用途	ストーマ患者のケアを行う					
平均在室人数	2 人	最大在室人数	6 人			
隣接すべき室名	スタッフ通路					
近接すべき室名						
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。					

特記事項

外来Eブロックに配置すること。
 待合室とスタッフ通路に直接面した位置に配置すること。
 待合室から直接見える位置に配置すること。
 スタッフ通路から直接待合室に通じる通路を設置すること。
 スタッフ通路から直接待合室に通じる通路を設置すること。
 処置室と診察室を設け、壁で区切り、扉を付けること。
 隣室に音が聞こえることのないように配慮すること。
 待合室、スタッフ通路側の扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。
 トイレの臭気が他の診察室に流れないように配置及び換気に十分配慮すること。
 ストーマケア用のトイレを設置すること。
 スタッフ通路をはさんだ向かいの診察室が直接見えないように、扉の位置等を工夫すること。
 診察室に診察用デスク(ラウンドタイプ) ()1台、患者用椅子(アジャスター付) ()1台、医師用椅子(サークル肘付きチェア) ()1台を設置すること。

参考レイアウト



諸室No.	02-01-18	種 別	外来	部 門	外来	
室 名	ネブライザー処置室				室 数	1
面 積	12	m ²	程 度	標準寸法	m × m	
用 途	外来患者のネブライザー処置（ペナンボックス吸入）を行う					
平均在室人数	2	人	最大在室人数	2	人	
隣接すべき室名	スタッフ通路					
近接すべき室名						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項	<p>外来Dブロック内に設置すること。</p> <p>ペナンボックスを使用するので換気に十分注意すること。</p>					

諸室No.	02-01-19	種 別	外来	部 門	外来	
室 名	処置室				室 数	3
面 積	50	m ²	程 度	標準寸法	m × m	
用 途	外来患者の処置を行う（輸血、自己血）					
平均在室人数	8	人	最大在室人数	16	人	
隣接すべき室名	スタッフ通路、待合室1、待合室2、待合室4					
近接すべき室名	診察室（外来A、B、Dブロック）					
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項	<p>ストレッチャーにより、廊下及びホールからスタッフ通路を通して直接搬送できる位置に配置すること。</p> <p>ベッド4台を並列に設置し、カーテンで仕切ることができるスペースを確保すること。</p> <p>各ベッドにベッドランプを設置すること。</p> <p>各ベッドサイドに医療ガス（O、V）を設置すること。</p> <p>作業スペースに近接した位置に清潔物品及び汚物保管コーナーを分けて設置すること。</p> <p>処置室と待合室の間の壁は、上部をガラススクリーンにするなどして、処置室から待合室が視認できるようにすること。</p> <p>外来ブロックA、B、Dの待合室から直接入ることができる扉を設置すること。</p> <p>作業スペースはベッドと待合室が見える位置に配置すること。</p> <p>2室に除細動器（ ）を設置すること。</p>					

諸室No.	02-01-21	種別	外来	部門	外来
室名	トイレ1			室数	1
面積	50	m ²	程度	標準寸法	m × m
用途	外来患者用のトイレ				
平均在室人数	8	人	最大在室人数	12	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>ホール等、外来者の利便性のよい位置に配置すること。</p> <p>男女別に設け、それぞれの大便秘器1据は車椅子対応にすること。</p> <p>男子用トイレには、大便秘器3据、小便器3据及び手洗い2器を設置すること。</p> <p>女子用トイレには、大便秘器5据及び手洗い2器を設置すること。</p> <p>多目的トイレ1室を設けること。</p> <p>多目的トイレは、オストメイト対応とすること。</p> <p>多目的トイレにはベビーチェアを設置すること。</p> <p>多目的トイレには収納式多目的シート(ベッド)を設置すること。</p> <p>用具等の収納スペース(1m²程度)を確保すること。</p> <p>大便秘器は全て手すりを設けること。</p> <p>小便器及び手洗いは各1か所ずつ手すりを設けること。</p> <p>適宜、清掃に必要な掃除流しを設けること。</p>				

諸室No.	02-01-22	種別	外来	部門	外来
室名	トイレ2			室数	1
面積	12	m ²	程度	標準寸法	m × m
用途	泌尿器科や婦人科の外来患者用のトイレ				
平均在室人数	1	人	最大在室人数	3	人
隣接すべき室名	待合室3				
近接すべき室名					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>男女別の個室トイレ2室と車椅子用トイレ1室を設けること。</p> <p>外来Cブロック内に配置すること。</p> <p>待合室とスタッフ通路に直接面した位置に配置すること。</p> <p>用具等の収納スペース(1m²程度)を確保すること。</p> <p>大便秘器は全て手すりを設けること。</p> <p>適宜、清掃に必要な掃除流しを設けること。</p>				

諸室No.	02-01-23	種別	外来	部門	外来
室名	トイレ3			室数	1
面積	50 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用途	外来患者用のトイレ				
平均在室人数	8	人	最大在室人数	12	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>ホール等、外来者の利便性のよい位置に配置すること。</p> <p>男女別に設け、それぞれの大便秘器1据は車椅子対応にすること。</p> <p>男子用トイレには、大便秘器3据、小便器3据及び手洗い2器を設置すること。</p> <p>女子用トイレには、大便秘器5据及び手洗い2器を設置すること。</p> <p>多目的トイレ1室を設けること。</p> <p>多目的トイレは、オストメイト対応とすること。</p> <p>多目的トイレにはベビーチェアを設置すること。</p> <p>多目的トイレには収納式多目的シート(ベッド)を設置すること。</p> <p>用具等の収納スペース(1m²程度)を確保すること。</p> <p>大便秘器は全て手すりを設けること。</p> <p>小便器及び手洗いは各1か所ずつ手すりを設けること。</p> <p>適宜、清掃に必要な掃除流しを設けること。</p>				

諸室No.	02-01-24	種別	外来	部門	外来
室名	外来看護科長室			室数	1
面積	12 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用途	外来看護科長が執務を行う				
平均在室人数	1	人	最大在室人数	4	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項					

諸室No.	02-01-25	種別	外来	部門	外来
室名	スタッフ休憩室1			室数	2
面積	16 m ² 以上	標準寸法		m x	m
用途	看護師の休憩やカンファレンスを行う				
平均在室人数	10 人	最大在室人数	20	人	
隣接すべき室名	スタッフ通路				
近接すべき室名					
内装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	スタッフ通路から直接アクセスできる位置に配置すること。				

諸室No.	02-01-26	種別	外来	部門	外来
室名	スタッフ休憩室2			室数	1
面積	40 m ² 以上	標準寸法		m x	m
用途	看護師の休憩やカンファレンスを行う				
平均在室人数	10 人	最大在室人数	20	人	
隣接すべき室名	スタッフ通路				
近接すべき室名					
内装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>スタッフ通路から直接アクセスできる位置に配置すること。</p> <p>ロッカー12人用5台を設置できるスペースを確保すること。</p>				

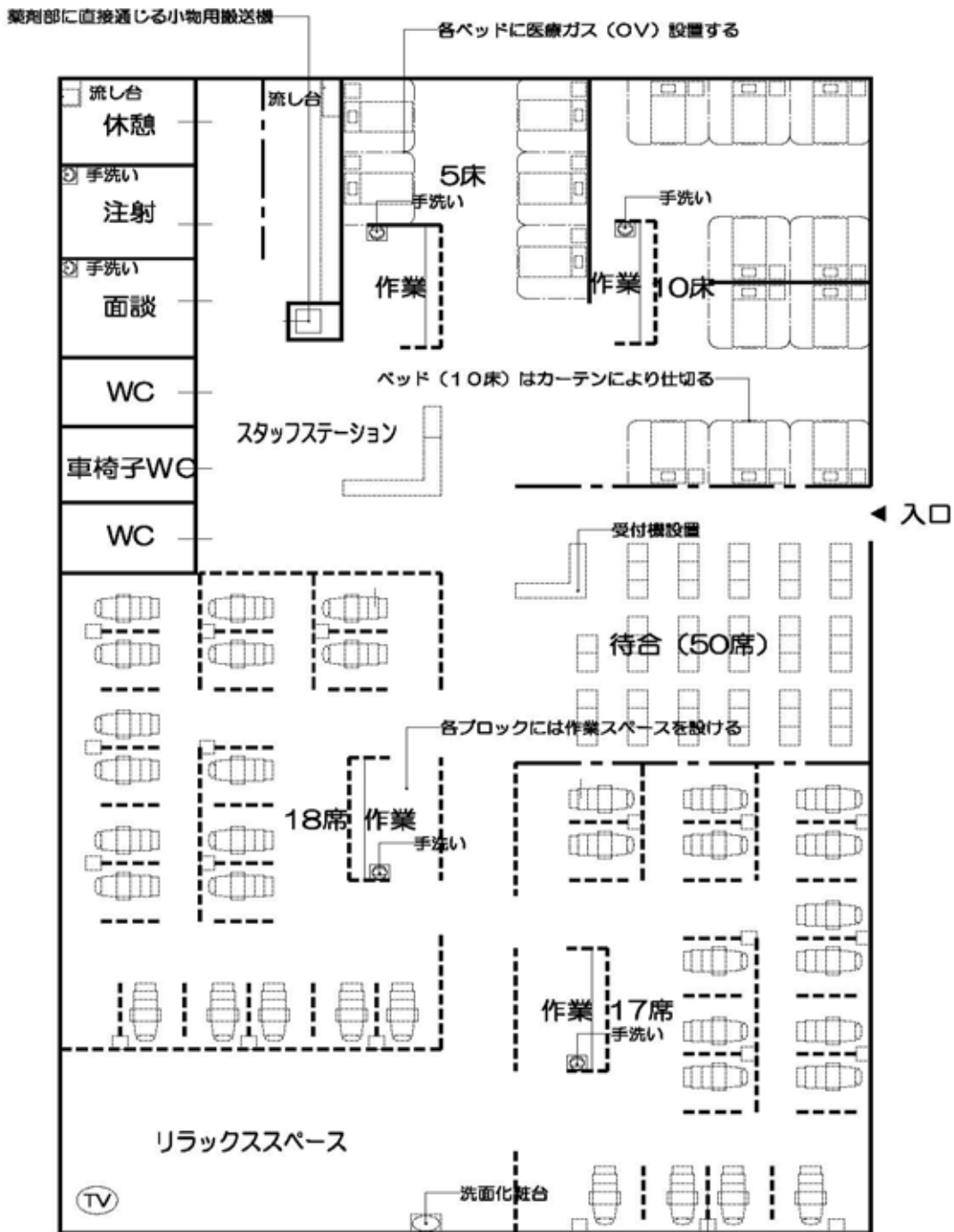
諸室No.	02-01-27	種 別	外来	部 門	外来			
室 名	職員用トイレ						室 数	4
面 積	6	m ²	程 度	標準寸法		m x	m	
用 途	職員用のトイレ							
平均在室人数		人	最大在室人数		人			
隣接すべき室名	スタッフ通路							
近接すべき室名								
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。							
特記事項	<p>スタッフ通路から直接往来できる位置に配置し、外来患者の見えない位置に適宜配置すること。 大便器及び手洗いを備えた個室トイレを2室設置すること。</p>							

諸室No.	02-01-31	種 別	外来	部 門	外来			
室 名	隔離診察室						室 数	1
面 積	18	m ²	以上	標準寸法		m x	m	
用 途	感染症患者の診察、処置を行う							
平均在室人数		3	人	最大在室人数		5	人	
隣接すべき室名								
近接すべき室名	(夜間通用口)							
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。							
特記事項	<p>室内に前室、診察室(12m²)を設けること。 室内にトイレ1室を設けること。 室内を陰圧とし、感染対策を施すこと。 夜間通用口にてできる限り近接した場所に配置すること。</p>							

諸室No.	02-01-32	種 別	外来	部 門	外来
室 名	スタッフ通路			室 数	-
面 積	適宜	m ²	標準寸法	m x	m
用 途	スタッフ専用の通路				
平均在室人数	人		最大在室人数	人	
隣接すべき室名	各診察室、各待合室、各処置室、職員用トイレ、スタッフ休憩室1、スタッフ休憩室2				
近接すべき室名					
内 装					
特 記 事 項	1ブロック2台程度、電話機を設置すること。				
	各診察室の扉付近に表示灯を設置し、診察室から呼び出しボタンにて病院スタッフを呼び出すことができるようにすること。				

諸室No.	02-02-01	種別	外来	部門	外来化学療法室	
室名	外来化学療法室				室数	1
面積	865 m ²	以上	標準寸法	m x m		
用途	抗がん剤による外来治療を行う					
平均在室人数	60	人	最大在室人数	100	人	
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。					

特記事項	<p>リクライニングチェア35台、ベッド15台を設置できるスペースを確保すること。</p> <p>全体を次の4ブロックに分けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック1：リクライニングチェア18台 ・ブロック2：リクライニングチェア17台 ・ブロック3：ベッド10台 ・ブロック4：ベッド5台 <p>スタッフステーションに近接して50人以上が待つことができる待合を配置し、受付機を設置する場所を設けること。</p> <p>スタッフステーションに近接して、12m程度の面談室、筋注及び皮下注を行うための注射室及び職員の休憩室を配置し、天井までの間仕切りで仕切ること。</p> <p>患者が治療中に休憩、談話及び軽食をとるために使用する高さ150cm程度のパーティションで仕切られたリラクスペースを配置すること。</p> <p>治療中の患者が利用しやすい場所に、次のとおりトイレを設けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男子用：大便器×1、小便器×1、女子用：大便器×1、車椅子用トイレ：男女共用 <p>リクライニングチェア及びベッドのレイアウトはパーティションやカーテンなど等を利用して、治療中の患者同士の視線が合わないよう配慮すること。</p> <p>患者が長時間利用することを考慮し、落ち着いてくつろぐことができる空間とすること。</p> <p>ブロック4（ベッド5床）に医療ガスを設置すること。</p> <p>スタッフステーションでは受付事務を行う。</p> <p>スタッフステーションに車椅子対応のカウンターを設置すること。</p> <p>スタッフステーションでは、医師、看護師、医療周辺作業員各1名が執務するスペースを確保すること。</p> <p>作業スペースでは点滴の確認と準備を行う。</p> <p>各ブロックに全体が見渡せる作業スペースを設け、巾3m程度の作業カウンターを設置すること。</p> <p>各作業スペースに手洗いを設置すること。</p> <p>各ブロックの作業カウンターの近辺に、パーティションで仕切った汚物保管スペースを設置すること。</p> <p>待合には、8人用ロッカーを3台設置するスペースを確保すること。</p> <p>リラクスペースに洗面化粧台を設置すること。</p> <p>リラクスペースにTV端子を設置すること。</p> <p>職員の休憩室には鏡を設置すること。</p> <p>待合い用椅子（3人掛け）（ ）16台を設置すること。</p> <p>除細動器（ ）を設置すること。</p>
------	---



- 各リクライニングチェアは間仕切壁 (H=1,500mm程度) により仕切る
- 凡例
- 間仕切壁 (天井まで)
 - - - 間仕切壁 (H=2,000mm程度)
 - - - - 間仕切壁 (H=1,500mm程度、可動可能なもの)
- ※リクライニングチェアの電源はフロアコンセントによるものとする
- ※各作業スペースに隣接してゴミ箱スペース (1m×2m) を確保する (パーティション等で仕切り患者から見えないようにする)

諸室No.	03-01-01	種 別	中央診療	部 門	手術部門	
室 名	スタッフステーション				室 数	1
面 積	75 m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	手術入退室調整業務、実施状況、実施入力、患者・家族・業者対応等に使用する					
平均在室人数	6 人	最大在室人数	30 人			
隣接すべき室名	回復室、手術ホール					
近接すべき室名	待合室、各手術室、カンファレンスルーム、面談室、麻酔科外来診察室					
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。					
特記事項	<p>受付を設置し、患者の出入りが視認できる位置に配置すること。</p> <p>クラス100,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>回復室に直接入れる引戸を設置すること。</p> <p>手術室や回復室などの観察用カメラの映像を、スタッフステーションで確認できるようにすること。</p> <p>検体検査部門との間に血液を搬送できる2点間の搬送設備を設置すること。</p> <p>科長が執務を行うスペースを適宜確保し、パーティションにて仕切ること。</p> <p>手術部門のインターホンシステムに接続すること。</p>					

諸室No.	03-01-02	種 別	中央診療	部 門	手術部門	
室 名	回復室				室 数	1
面 積	45 m ²	以 上	標準寸法	m × m		
用 途	手術後のリハビリに使用する					
平均在室人数	6 人	最大在室人数	12 人			
隣接すべき室名	スタッフステーション、手術ホール					
近接すべき室名	各手術室					
内 装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。					
特記事項	<p>ベッドを4台並列に配置し、カーテンで仕切ること。</p> <p>手術ホールに面した位置に配置すること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>手術ホール側から室内のベッドが直接見えないように配慮すること。</p> <p>医療ガスは各ベッドに、O(2)、V(2)、A(1)を設置すること。</p> <p>BGM設備を設置すること。</p> <p>ITV設備を設置し、スタッフステーションで確認できること。</p> <p>手術部門のインターホンシステムに接続すること。</p>					

諸室No.	03-01-03	種 別	中央診療	部 門	手術部門	
室 名	待合室				室 数	1
面 積	36 m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	麻酔科外来患者、日帰り手術患者待合室					
平均在室人数	10 人	最大在室人数	15 人			
隣接すべき室名	麻酔科外来診察室、患者用更衣室					
近接すべき室名	スタッフステーション					
内 装						
特記事項	<p>日帰り手術の患者が更衣をして、そのまま手術ホールに入れる位置に設置すること。</p> <p>手荷物用ロッカー1台（6人分）を設置できるスペースを確保すること。</p> <p>観察用カメラを設置し、スタッフステーションと麻酔科外来で確認できるようにすること。</p> <p>3人がけのソファを3台設置できるスペースを確保すること。</p>					

諸室No.	03-01-04	種 別	中央診療	部 門	手術部門	
室 名	麻酔科外来診察室				室 数	2
面 積	18 m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	手術前の麻酔科診察及びペインコントロールのための処置を行う					
平均在室人数	4 人	最大在室人数	5 人			
隣接すべき室名	待合室、手術ホール					
近接すべき室名	スタッフステーション					
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項	<p>待合室と手術ホールからアクセスできる位置に配置すること。</p> <p>クラス100,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>診察室の間には引戸を設置し、スタッフが移動できるようにすること。</p> <p>扉はストレッチャーが通行できるスペースを確保すること。</p> <p>各室に観察用カメラとモニターを設置し、隣の診察室から室内が確認できるようにすること。</p> <p>手術部門のインターホンシステムに接続すること。</p> <p>各診察室に診察用デスク（ ）1台、患者用椅子（ ）1台、医師用椅子（ ）1台を設置すること。</p>					

諸室No.	03-01-05	種 別	中央診療	部 門	手術部門
室 名	器材保管スペース			室 数	-
面 積	41 m ²	程 度	標準寸法	m x m	
用 途	診療材料、医療機器、手術用器材等を保管する、検査機器を設置する				
平均在室人数	-	人	最大在室人数	-	人
隣接すべき室名	手術ホール				
近接すべき室名	各手術室				
内 装	埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>手術ホール内に設置すること。</p> <p>設置場所を複数にするなど、医療機器等の出し入れが速やかに行えるように工夫をすること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>医療機器の保守点検ができるスペースを確保すること。</p> <p>検査機器を設置するスペースを確保すること。</p>				

諸室No.	03-01-06	種 別	中央診療	部 門	手術部門
室 名	手術室1			室 数	10
面 積	49 m ²	以 上	標準寸法	7 m x 7 m	
用 途	手術を行う				
平均在室人数	6	人	最大在室人数	9	人
隣接すべき室名	手術ホール				
近接すべき室名	スタッフステーション、カンファレンスルーム、器材保管スペース、男子職員更衣室、女子職員更衣室、回復室				
内 装	埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>隣接する手術室とは扉にて直接往来が可能とすること。</p> <p>各手術室は全て同じ寸法とすること。</p> <p>手術台の移動に耐えるように床材料に配慮すること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>麻酔ガス排除装置を設置すること。</p> <p>全室においてPHSの受信状況が良好になるように配慮すること。</p> <p>壁材は乾式のパネル工法とすること。</p> <p>扉の幅は1.6m以上とし、自動ドアでフットスイッチとすること(全開・半開の調整が可能なこと)。</p> <p>各室にシーリングペンダント()一式を設置すること。</p> <p>各室に無影灯()一式を設置すること。</p> <p>2室に内視鏡ユニット搭載用のシーリングペンダント()一式を設置すること。</p> <p>将来の変更に備え、上記2室を除く各室には天井にシーリングペンダントや無影灯を吊り下げられるよう架台を1台設置しておくこと。</p> <p>壁面に、はめ込み式の大型モニター及び保温庫、保冷庫、器材戸棚等を設置すること。また、カートを収納できるよう、へこみを設けること。</p> <p>医用電源用のコンセントモジュール(情報ジャック付き)を各壁面(計4か所)に設置すること。</p> <p>医療ガスパネルを壁面2か所に設置すること</p> <p>個別空調とすること</p> <p>ITV設備を設置し、スタッフステーション、麻酔科医局、ICU・HCUスタッフステーション、短期連携・RI病棟スタッフステーションで確認できること。</p> <p>手術部門のインターホンシステムに接続すること。</p> <p>手術ホール側にバスボックス(500mm×500mm程度)を設置すること。</p> <p>内視鏡下手術システム()二式を設置すること。</p>				

諸室No.	03-01-07	種 別	中央診療	部 門	手術部門
室 名	手術室 2			室 数	2
面 積	42 m ²	以上	標準寸法	6 m x	7 m
用 途	手術を行う				
平均在室人数	6 人	最大在室人数	9 人		
隣接すべき室名	手術ホール				
近接すべき室名	スタッフステーション、カンファレンスルーム、器材保管スペース、男子職員更衣室、女子職員更衣室、回復室				
内 装	埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>1室はクラス100とし、1室は陰陽圧仕様とすること。また陰陽圧制御が行えるようにすること。</p> <p>手術台の移動に耐えうる床材料にすること。</p> <p>麻酔ガス排除装置を設けること。</p> <p>全室においてPHSの受信状況が良好になるように配慮すること。</p> <p>壁材は乾式のパネル工法とすること。</p> <p>扉の幅は1.6m以上とし、自動ドアでフットスイッチとすること(全開・半開の調整が可能なこと)。</p> <p>各室にシーリングペンダント()一式を設置すること。</p> <p>各室に无影灯()一式を設置すること。</p> <p>壁面に、はめ込み式の大型モニター及び保温庫、保冷库、器材戸棚等を設置すること。また、カートを収納できるよう、へこみを設けること。</p> <p>医用電源用のコンセントモジュール(情報ジャック付き)を各壁面(計4か所)に設置すること。</p> <p>医療ガスパネルを壁面2か所に設置すること。</p> <p>個別空調とすること。</p> <p>クラス100の部屋に電話機を設置すること。</p> <p>ITV設備を設置し、スタッフステーション、麻酔科医局、ICU・HCUスタッフステーション、短期連携・RI病棟スタッフステーションで確認できること。</p> <p>手術部門のインターホンシステムに接続すること。</p> <p>手術ホール側にバスボックス(500mm×500mm程度)を設置すること。</p> <p>前室を設置し、風切音が発生しないように配慮すること。</p> <p>手術室1と一体として整備し、統一感を図ること。</p>				

諸室No.	03-01-08	種 別	中央診療	部 門	手術部門
室 名	患者用更衣室			室 数	2
面 積	1.5 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用 途	外来手術患者の更衣室				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	1 人		
隣接すべき室名	待合室、手術ホール				
近接すべき室名					
内 装	埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>待合室と手術ホールからアクセスできる位置に配置すること。</p> <p>クラス100,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>鏡を設置すること。</p>				

諸室No.	03-01-09	種別	中央診療	部門	手術部門
室名	カンファレンスルーム			室数	1
面積	37 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	ミーティングや休憩を行う				
平均在室人数	15 人	最大在室人数	30 人		
隣接すべき室名	手術ホール				
近接すべき室名	スタッフステーション、各手術室				
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	クラス10,000のクリーン度を確保すること。 手術部門のインターホンシステムに接続すること。				

諸室No.	03-01-10	種別	中央診療	部門	手術部門
室名	手術ホール			室数	1
面積	410 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	手術室への患者、スタッフ、器材の出入を行う				
平均在室人数	人		最大在室人数	人	
隣接すべき室名	手術室、器材保管スペース、スタッフステーション、回復室、カンファレンスルーム、麻酔科外来診察室、患者用更衣室、迅速生材処理室				
近接すべき室名					
内装	埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	幅はできるかぎり6m以上とするが、レイアウト上やむをえない場合は3.6m以上確保すること。 ICU・HCUへ直接入れる通路を設けること。 外部廊下との間には前室を設置し、幅は手術ホールと同じとすること。また、奥行きはベッドの前後に職員が入れる長さを確保すること。 クラス10,000のクリーン度を確保すること。 3人用の手術用手洗い装置()を、手術室3室に1か所程度設置すること。 手洗い装置は、手術ホールに突出しないように配慮すること。 手術部門のインターホンシステムに接続すること。 手術台の移動に耐える床材料にすること。				

諸室No.	03-01-11	種 別	中央診療	部 門	手術部門
室 名	スタッフ控室			室 数	1
面 積	25 m ² 以上	標準寸法	m x m		
用 途	医師等の食事・休憩に使用する				
平均在室人数	10 人	最大在室人数	20 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	手術部門のインターホンシステムに接続すること。 準クリーンエリア（クラス100,000）に配置すること。				

諸室No.	03-01-12	種 別	中央診療	部 門	手術部門
室 名	休憩室			室 数	1
面 積	37 m ² 程度	標準寸法	m x m		
用 途	看護師が休憩及び食事を行う				
平均在室人数	10 人	最大在室人数	20 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	手術部門のインターホンシステムに接続すること。 準クリーンエリア（クラス100,000）に配置すること。				

諸室No.	03-01-13	種 別	中央診療	部 門	手術部門
室 名	男子職員更衣室			室 数	1
面 積	50 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	職員の更衣に使用する				
平均在室人数	10 人	最大在室人数	20 人		
隣接すべき室名	シャワー室、男子職員用トイレ				
近接すべき室名	各手術室				
内 装	埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>4人用の更衣ロッカー20台（80人分）を設置できるスペースを確保すること。</p> <p>洗面用スペース（1人分）を設けること。</p> <p>手術着、タオル等をストックする棚を設置すること。</p> <p>準クリーンエリア（クラス100,000）に配置すること。</p> <p>ランドリーバッグを設置するスペースを確保すること。</p>				

諸室No.	03-01-14	種 別	中央診療	部 門	手術部門
室 名	女子職員更衣室			室 数	1
面 積	50 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	職員の更衣に使用する				
平均在室人数	10 人	最大在室人数	20 人		
隣接すべき室名	シャワー室、女子職員用トイレ				
近接すべき室名	各手術室				
内 装	埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>4人用の更衣ロッカー15台（60人分）を設置できるスペースを確保すること。</p> <p>洗面用スペース（2人分）を設けること。</p> <p>手術着、タオル等をストックする棚を設置すること。</p> <p>準クリーンエリア（クラス100,000）に配置すること。</p> <p>ランドリーバッグを設置するスペースを確保すること。</p>				

諸室No.	03-01-15	種 別	中央診療	部 門	手術部門
室 名	シャワー室			室 数	2
面 積	5 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途					
平均在室人数	1 人	最大在室人数	1 人		
隣接すべき室名	男子職員更衣室、女子職員更衣室				
近接すべき室名					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>男子職員更衣室、女子職員更衣室内に設置すること。</p> <p>シャワー室内は2つに分け、2人が使用できるようにすること。</p> <p>脱衣室を設けること。</p> <p>女子職員用のシャワー室には、洗面化粧台を設置すること。</p>				

諸室No.	03-01-16	種 別	中央診療	部 門	手術部門
室 名	男子職員用トイレ			室 数	1
面 積	4.5 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	職員用のトイレ				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	2 人		
隣接すべき室名	男子職員更衣室				
近接すべき室名					
内 装	<p>耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。</p> <p>埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。</p>				
特記事項	<p>男子職員更衣室内に設置することも可とする。</p> <p>大便器及び手洗いを備えた個室トイレを3室以上設置すること。</p> <p>準クリーンエリア(クラス100,000)に配置すること。</p>				

諸室No.	03-01-17	種 別	中央診療	部 門	手術部門
室 名	女子職員用トイレ			室 数	1
面 積	4.5 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	職員用のトイレ				
平均在室人数	1	人	最大在室人数	2	人
隣接すべき室名	女子職員更衣室				
近接すべき室名					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>女子職員更衣室内に設置することも可とする。</p> <p>大便器及び手洗いを備えた個室トイレを3室以上設置すること。</p> <p>準クリーンエリア(クラス100,000)に配置すること。</p>				

諸室No.	03-01-18	種 別	中央診療	部 門	手術部門
室 名	家族控室			室 数	1
面 積	38 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	手術の待合、ICU・HCU及び短期連携病棟入院患者の家族控室				
平均在室人数	8	人	最大在室人数	16	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名	(エレベーターホール)、面談室				
内 装	手術中家族が静かにくつろげる仕上げとすること。				
特記事項	<p>4家族が待機できるスペースを確保すること。</p> <p>オープンスペース又はガラススクリーンにし、廊下からの視認性をよくすること。</p> <p>自動販売機及びゴミ容器を設置すること。</p>				

諸室No.	03-01-19	種 別	中央診療	部 門	手術部門
室 名	麻酔科医局			室 数	1
面 積	36 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	麻酔科医の医局				
平均在室人数	14	人	最大在室人数	18	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	準クリーンエリア（クラス100,000）に配置すること。 手術部門のインターホンシステムに接続すること。				

諸室No.	03-01-20	種 別	中央診療	部 門	手術部門
室 名	面談室			室 数	2
面 積	9 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	患者及び家族への面談及び治療方法等の説明を行う				
平均在室人数	4	人	最大在室人数	8	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名	スタッフステーション、家族控室				
内 装	埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	4人がけのテーブルを設置するスペースを確保すること。 間仕切りは遮音壁とし、会話が外に聞こえることのないように配慮すること。 扉は、曇りガラスの窓などにより室内が確認できるようにすること。 がんセンタースタッフが手術ホール側、患者の家族が廊下からアクセスできる配置が望ましい。				

諸室No.	03-01-21	種 別	中央診療	部 門	手術部門		
室 名	外来者用トイレ						1
面 積	24	m ²	程度	標準寸法	m ×	m	
用 途	外来者が利用するトイレ						
平均在室人数	5	人	最大在室人数	8	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名	(エレベーターホール)						
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>エレベーターホールに近接させ、どの部門からも利用しやすい位置に配置すること。</p> <p>男女別に設け、それぞれの大便秘器1据は車椅子対応にすること。</p> <p>男子用トイレには、大便秘器2据、小便器3据及び手洗い2器を設置すること。</p> <p>女子用トイレには、大便秘器3据及び手洗い2器を設置すること。</p> <p>小便器、洗面器は各1か所ずつ手すりを設けること。</p> <p>大便秘器は全て手すりを設けること。</p> <p>適宜、清掃に必要な掃除流しを設けること。</p> <p>用具等の収納スペース(1m²程度)を確保すること。</p>						

諸室No.	03-02-01-01	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	病理組織・細胞診検査
室 名	標本作製室					室 数	1
面 積	185 m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	病理組織標本の整理及び細胞診標本の作製・整理、検査の受付・報告等を行う						
平均在室人数	5 人	最大在室人数	12 人				
隣接すべき室名	包埋薄切室、細胞診断室、病理診断室、保管室、スタッフ室、腫瘍組織センター室、ブロック保管室、データ・画像室、切出し室、カンファレンスルーム、迅速生材処理室						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>部門内の間仕切りは、できる限りパーティション（腰上はガラスとする）とし、扉は引戸とすること。</p> <p>排気型実験台 6 台、自動染色装置 3 台、封入装置 2 台の後方下方向局所排気を用意すること。</p> <p>局所排気稼動時においても室内のエアバランスを適正に保つための対策を行うこと。</p> <p>排水は適切な処置を行うこと。</p> <p>実験用流し台（ ）2 台設置をすること。</p> <p>排気型サイド実験台（ ）4 台を設置すること。</p> <p>強制排気式中央大型実験台（ ）2 台を設置すること。</p> <p>流し台付き中央大型実験台（ ）を 3 台設置すること。</p>						

諸室No.	03-02-01-02	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	病理組織・細胞診検査
室 名	腫瘍組織センター室					室 数	1
面 積	30 m ²	程 度	標準寸法	5 m x 6 m			
用 途	手術生材料の凍結保存、組織標本の作製等を行う、コーディネーターの居室スペースとして使用する						
平均在室人数	4 人	最大在室人数	6 人				
隣接すべき室名	標本作製室						
近接すべき室名	迅速生材処理室						
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>パーティションにより、凍結保存室（22m²程度）とコーディネーターの居室スペース（8 m²程度）とに分割すること。</p> <p>部門内の間仕切りは、できる限りパーティション（腰上はガラスとする）とし、扉は引戸とすること。</p> <p>有機溶剤を使用するので室内環境が悪化しないように十分な換気を行うこと。</p> <p>局所排気稼動時においても室内のエアバランスを適正に保つための対策を行うこと。</p> <p>臨床研究所になるべく近い場所に配置すること。</p> <p>セキュリティシステムにより最高レベルの入退室管理を行うこと。</p> <p>凍結保存室に流し台付き中央実験台（ ）1 台設置をすること。</p> <p>凍結保存室に局所排気装置付きサイド実験台（ ）1 台を設置すること。</p> <p>コーディネーターの居室スペースに流し台を 1 台設置すること。</p>						

諸室No.	03-02-01-03	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	病理組織・細胞診検査
室名	包埋薄切室					室数	1
面積	25 m ² 以上	標準寸法	m × m				
用途	切り出された病理組織をパラフィンで包埋して組織ブロックを作製し、ミクロトームで薄切りし、スライドガラスに貼り付けて標本を作る						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	6 人				
隣接すべき室名	標本作製室、薬剤処理室						
近接すべき室名	保管室、切出し室						
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>部門内の間仕切は、できる限りパーティション（腰上はガラスとする）とし、扉は引戸とすること。</p> <p>包埋センター 2 台の後方下方向局所排気を用意すること。</p> <p>局所排気稼働時においても室内のエアバランスを適正に保つための対策を行うこと。</p> <p>適切な排水処理を行うこと。</p> <p>個別空調とし、夏季、冬季においても室温を20～22 に保てるようにすること。</p> <p>実験用流し台（ ）1 台設置とすること。</p> <p>流し付きサイド実験台（ ）2 台を設置とすること。</p> <p>強制排気式サイド実験台（ ）2 台を設置とすること。</p>						

諸室No.	03-02-01-04	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	病理組織・細胞診検査
室名	保管室					室数	1
面積	30 m ² 以上	標準寸法	m × m				
用途	直近の病理標本、パラフィンブロックの保管を行う						
平均在室人数	- 人	最大在室人数	- 人				
隣接すべき室名	標本作製室						
近接すべき室名	細胞診断室、病理診断室、包埋薄切室						
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>部門内の間仕切は、できる限りパーティション（腰上はガラスとする）とし、扉は引戸とすること。</p> <p>ガラス標本やパラフィンブロックを収納した移動棚を設置するので、適切な床補強（1 t/m²）を行うこと。</p> <p>セキュリティシステムにより最高レベルの入退室管理を行うこと。</p> <p>ハンドル式標本・ブロック保管棚（ ）一式を設置とすること。</p>						

諸室No.	03-02-01-05	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	病理組織・細胞診検査
室 名	データ・画像室					室 数	1
面 積	21 m ²	以上	標準寸法	m × m			
用 途	病理組織細胞診標本の画像の取り込み及び画像解析等を行う 病理部門システムのサーバ設置、データ管理を行う						
平均在室人数	1 人	最大在室人数	4 人				
隣接すべき室名	標本作製室						
近接すべき室名	病理診断室、細胞診断室						
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>部門内の間仕切は、できる限りパーティション（腰上はガラスとする）とし、扉は引戸とすること。</p> <p>部門システムサーバーを設置するので、空調条件に留意すること。</p> <p>フリーアクセスフロアとすること。</p> <p>セキュリティシステムにより最高レベルの入退室管理を行うこと。</p>						

諸室No.	03-02-01-06	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	病理組織・細胞診検査
室 名	細胞診断室					室 数	1
面 積	56 m ²	程度	標準寸法	m × m			
用 途	細胞診標本を顕微鏡下で観察し、細胞検査士、細胞診断医が細胞診断を行う						
平均在室人数	6 人	最大在室人数	10 人				
隣接すべき室名	標本作製室、カンファレンスルーム、病理診断室						
近接すべき室名	切出し室、迅速生材処理室、保管室、データ・画像室						
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>部門内の間仕切は、できる限りパーティション（腰上はガラスとする）とし、扉は引戸とすること。</p> <p>顕微鏡を設置する部分の床は振動を拾わないように配慮すること。</p> <p>ガラス標本を落としても破損しにくいクッション性のある床材料とすること。</p> <p>病理診断室との間は間仕切りや扉を設置しないこと。</p>						

諸室No.	03-02-01-07	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	病理組織・細胞診検査
室名	病理診断室					室数	1
面積	67 m ²	程度	標準寸法	m × m			
用途	病理組織標本を顕微鏡観察し病理医等が診断を行う						
平均在室人数	9 人	最大在室人数	15 人				
隣接すべき室名	カンファレンスルーム、細胞診断室、標本作製室						
近接すべき室名	切出し室、迅速生材処理室、保管室、データ・画像室						
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>部門内の間仕切りは、できる限りパーティション（腰上はガラスとする）とし、扉は引戸とすること。</p> <p>顕微鏡を設置する部分の床は振動を拾わないように配慮すること。</p> <p>ガラス標本を落としても破損しにくいクッション性のある床材料とすること。</p> <p>細胞診断室との間は間仕切りや扉を設置しないこと。</p> <p>手術部門のインターホンシステムに接続すること。</p>						

諸室No.	03-02-01-08	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	病理組織・細胞診検査
室名	迅速生材処理室					室数	1
面積	69 m ²	以上	標準寸法	m × m			
用途	術中迅速診断、手術採取材料の前処理、手術生材料の処理等を行う 腫瘍組織センター用試料の採取等を行う						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	10 人				
隣接すべき室名	手術ホール、切出し室、標本作製室						
近接すべき室名	病理診断室、腫瘍組織センター室、細胞診断室、薬剤処理室						
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>部門内の間仕切りは、できる限りパーティション（腰上はガラスとする）とし、扉は自動ドアとすること。</p> <p>室内を陰圧に保ち、空気感染対策を施すこと。</p> <p>手術ホールとの間の扉は2重とし、適切なエアバランスが保てるようにすること。</p> <p>凍結標本作製装置2台、強制排気式実験台6台、作業台付流し台1台、汚物流し2台、写真撮影装置1台の局所排気を用意すること。</p> <p>局所排気稼働時においても室内のエアバランスを適正に保つための対策を行うこと。</p> <p>スタッフの作業環境を確保するために適切な空調設備とすること。</p> <p>汚物流しを2か所設置すること。</p> <p>適切な排水処理を行うこと。</p> <p>手術部門のインターホンシステムに接続すること。</p> <p>強制排気式中央大型実験台（ ）2台を設置すること。</p> <p>強制排気式サイド実験台（ ）4台を設置すること。</p> <p>強制排気口付ステンレス流し台（ ）1台を設置すること。</p>						

諸室No.	03-02-01-09	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	病理組織・細胞診検査	
室 名	切出し室					室 数	1	
面 積	76	m ²	程度	標準寸法	m × m			
用 途	病理組織切出し業務、リンパ節処理切出し業務、ホルマリン固定組織の洗浄等を行う							
平均在室人数	4		人	最大在室人数	15			人
隣接すべき室名	迅速生材処理室、薬剤処理室、標本作製室							
近接すべき室名	病理診断室、包埋薄切室、細胞診断室							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。							
特記事項	<p>部門内の間仕切は、できる限りパーティション（腰上はガラスとする）とし、扉は自動ドアとすること。</p> <p>室内を陰圧に保ち、空気が外部に漏出しないように配慮すること。</p> <p>排気フード付臓器固定水洗槽、強制排気切り出し台6台、実験用流し台、臓器保管棚、作業台、ホルマリン専用廃液槽（口）の後方下方向排気を用意すること。</p> <p>局所排気稼働時においても室内のエアバランスを適正に保つための対策を行うこと。</p> <p>隣接する薬剤処理室の自動ホルマリン固定液作製装置から、室内の排気フード付き臓器固定水洗槽へ専用配管で接続すること。</p> <p>室内にホルマリン専用廃液槽（口）を設置すること。</p> <p>室内の排気フード付き臓器固定水洗槽及びホルマリン専用廃液槽（口）からの廃液は、サービスヤード等、外部から直接回収できる位置に設置したホルマリン廃液槽へ専用配管で接続すること。</p> <p>排気フード付き臓器固定水洗槽には一般排水用の専用配管も設置すること。</p> <p>適切な排水処理を行うこと。</p> <p>切出し台の台上の照度を十分確保すること。</p> <p>ホルマリンを使用するエリアには「特定化学物質障害予防規則」に遵守した換気設備を設置すること。</p> <p>排気フード付臓器固定水洗槽（ ）1台を設置すること。</p> <p>強制排気口付ステンレス流し台（ ）1台を設置すること。</p> <p>床は水が流せる仕様とし、排水溝を設けること。</p> <p>臓器保管棚（ ）一式を設置すること。</p> <p>強制排気対面式中央大型切出し台（ ）2台を設置すること。</p> <p>強制排気片面式中央大型切出し台（ ）4台を設置すること。</p>							

諸室No.	03-02-01-10	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	病理組織・細胞診検査	
室 名	薬剤処理室					室 数	1	
面 積	33	m ²	程度	標準寸法	m × m			
用 途	切出し済み病理組織材料の脱水、パラフィン浸透作業、病理組織材料のホルマリン固定等を行う							
平均在室人数	1		人	最大在室人数	3			人
隣接すべき室名	切出し室、包埋薄切室							
近接すべき室名	迅速生材処理室							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。							
特記事項	<p>部門内の間仕切は、できる限りパーティション（腰上はガラスとする）とし、扉は自動ドアとすること。</p> <p>室内を陰圧に保ち、空気が外部に漏出しないように配慮すること。</p> <p>脱脂作業台、自動ホルマリン固定液作製装置、自動脱水パラフィン包埋装置2台、生検対応パラフィン包埋装置、ドラフトチャンパー、強制排気作業台の後方下方向局所排気を用意すること。</p> <p>局所排気稼働時においても室内のエアバランスを適正に保つための対策を行うこと。</p> <p>自動ホルマリン固定液作製装置（ ）を1台設置すること。なお、一般排水用配管も設置すること。</p> <p>室内の自動ホルマリン固定液作製装置から、切出し室の排気フード付臓器固定水洗槽に専用配管で接続すること。</p> <p>室内にホルマリン専用廃液槽（口）を設置すること。</p> <p>室内の自動ホルマリン固定液作製装置及びホルマリン専用廃液槽（口）からの廃液は、サービスヤード等、外部から直接回収できる位置に設置したホルマリン廃液槽へ専用配管で接続すること。</p> <p>適切な排水処理を行うこと。</p> <p>ホルマリンを使用するエリアには「特定化学物質障害予防規則」に遵守した換気設備を設置すること。</p> <p>ドラフトチャンパー（ ）1台を設置すること。</p> <p>強制排気口付ステンレス流し台（ ）1台を設置すること。</p> <p>床は水が流せる仕様とし、排水溝を設けること。</p> <p>生検対応迅速自動固定包埋装置（ ）1台を設置すること。</p>							

諸室No.	03-02-01-11	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	病理組織・細胞診検査
室 名	スタッフ室					室 数	1
面 積	27 m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	病理検査技師の会議及び事務作業を行う						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	10 人				
隣接すべき室名	標本作製室						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項							

諸室No.	03-02-01-12	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	病理組織・細胞診検査
室 名	カンファレンスルーム					室 数	1
面 積	27 m ²	以 上	標準寸法	m x m			
用 途	病理組織、細胞所見について診断上必要なディスカッションやカンファレンスを行う						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	20 人				
隣接すべき室名	細胞診断室、病理診断室、標本作製室						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>部門内の間仕切は、できる限りパーティション（腰上はガラスとする）とし、扉は引戸とすること。</p> <p>顕微鏡を設置する部分の床は振動を拾わないように配慮すること。</p> <p>ガラス標本を落としても破損しにくいクッション性のある床材料とすること。</p>						

諸室No.	03-02-01-13	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	病理組織・細胞診検査
室 名	ブロック保管室					室 数	1
面 積	50 m ²	程度	標準寸法	m × m			
用 途	病理パラフィンブロックを保管する						
平均在室人数	0	人	最大在室人数	5	人		
隣接すべき室名	標本作製室、資料標本室						
近接すべき室名							
内 装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>パラフィンブロック標本を収納するハンドル式ブロック保管棚()一式を設置すること。なお、レールを埋め込み、段差が生じないようにすること。</p> <p>パラフィンの変質(溶融)の起こらない室温を恒常的に保つこと。</p> <p>セキュリティシステムにより最高レベルの入退室管理を行うこと。</p> <p>床の積載荷重を1t/m²とすること。</p> <p>資料標本室、標本室と合わせて1室とすることも可とする。</p>						

諸室No.	03-02-01-14	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	病理組織・細胞診検査
室 名	資料標本室					室 数	1
面 積	20 m ²	程度	標準寸法	4	m ×	5	m
用 途	病理組織診断の控え、画像、資料の保管を行う						
平均在室人数	-	人	最大在室人数	-	人		
隣接すべき室名	ブロック保管室						
近接すべき室名							
内 装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>移動棚を設置するので、適切な床補強を行うこと。</p> <p>移動棚を設置するスペースを確保すること。</p> <p>セキュリティシステムにより最高レベルの入退室管理を行うこと。</p> <p>ブロック保管室、標本室と合わせて1室とすることも可とする。</p>						

諸室No.	03-02-02-01	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	病理解剖
室 名	病理解剖室					室 数	1
面 積	47 m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	病理解剖を行う						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	8 人				
隣接すべき室名	解剖準備・更衣室、臓器保存室、切出し・水洗室、解剖前室、霊安室						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品、耐水性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内を陰圧に保ち、空気が外部に漏出しないように配慮すること。</p> <p>強制排気切り出し台、ホルマリン廃液槽（口）の後方下方向局所排気を用意すること。</p> <p>局所排気稼働時においても室内のエアバランスを適正に保つための対策を行うこと。</p> <p>床は水が流せる仕様とし、排水溝を設けること。</p> <p>サービスヤード等、外部から直接回収できる位置にホルマリン廃液槽を設置し、室内のホルマリン廃液槽（口）と専用配管にて接続すること。</p> <p>ホルマリン薫蒸を行うための設備を設けること。</p> <p>殺菌灯を設置すること。</p> <p>仕上は殺菌灯の照射により劣化しにくい材料とすること。</p> <p>適切な排水処理を行うこと。</p> <p>ホルマリンを使用するエリアには「特定化学物質障害予防規則」に遵守した換気設備を設置すること。</p> <p>強制排気口付きステンレス流し台（ ）1台を設置すること。</p> <p>汚物流しを1台設置すること。</p> <p>天井に无影灯を設置できるようにすること。</p> <p>感染防止型解剖台（ ）一式を設置し、HEPAフィルターにて排気処理を行うこと。</p>						

諸室No.	03-02-02-02	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	病理解剖
室 名	解剖準備・更衣室					室 数	1
面 積	38 m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	解剖機材の準備を行う、更衣及びシャワーを行う						
平均在室人数	4 人	最大在室人数	10 人				
隣接すべき室名	病理解剖室						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品、耐水性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内に、更衣室及びシャワー室を2室設けること。</p> <p>6人分の更衣ロッカーを設置できるスペースを確保すること。</p> <p>清潔エリアと不潔エリアを区分し、出入口も分けること。</p> <p>床の一部にピットを設け、長靴洗浄消毒槽を設置すること。</p> <p>適切な排水処理を行うこと。</p>						

諸室No.	03-02-02-03	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	病理解剖	
室 名	切出し・水洗室					室 数	1	
面 積	19.5	m ²	以上	標準寸法	m × m			
用 途	ホルマリン固定臓器の水洗い、切出し等を行う							
平均在室人数	2		人	最大在室人数	4			人
隣接すべき室名	病理解剖室、臓器保存室							
近接すべき室名	標本室							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品、耐水性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。							
特記事項	<p>排気フード付き臓器固定水洗槽、強制排気水洗切り出し台の強制排気を用意すること。</p> <p>サービスヤード等、外部から直接回収できる位置にホルマリン廃液槽を設置し、室内のホルマリン廃液槽、排気フード付き臓器固定水洗槽（口）と専用配管で接続すること。</p> <p>床は水が流せる仕様とし、排水溝を設けること。</p> <p>適切な排水処理を行うこと。</p> <p>扉は引戸とすること。</p> <p>ホルマリンを使用するエリアには「特定化学物質障害予防規則」に遵守した換気設備を設置すること。</p> <p>強制排気口付きステンレス流し台（ ）1台を設置すること。</p> <p>排気フード付き臓器固定水洗槽（ ）1台を設置すること。</p>							

諸室No.	03-02-02-04	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	病理解剖	
室 名	臓器保存室					室 数	1	
面 積	34.5	m ²	以上	標準寸法	m × m			
用 途	病理解剖臓器を一定期間保管する							
平均在室人数	-		人	最大在室人数	5			人
隣接すべき室名	病理解剖室、切出し・水洗室、標本室							
近接すべき室名								
内 装	耐薬品、耐水性性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。							
特記事項	<p>病理解剖臓器を保存する棚を設置するので、適切な床補強を行うこと。</p> <p>床は水が流せる仕様とし、排水溝を設けること。</p> <p>ホルムアルデヒドにより室内環境が悪化しないように適切な空調設備を設置すること。</p> <p>ステンレス流し台（ ）1台を設置すること。</p> <p>セキュリティシステムにより最高レベルの入退室管理を行うこと。</p> <p>臓器バケツ保管棚一式（ ）を設置すること。</p>							

諸室No.	03-02-02-05	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	病理解剖
室 名	標本室					室 数	1
面 積	17.5 m ²	以上	標準寸法	3.5 m x	5.5 m		
用 途	病理標本を保管する						
平均在室人数	-	人	最大在室人数	3	人		
隣接すべき室名	臓器保存室						
近接すべき室名	切出し・水洗室						
内 装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>ガラス標本を設置するので、1 t / m²以上の床荷重とすること。 セキュリティシステムにより最高レベルの入退室管理を行うこと。 標本棚を設置するスペースを確保すること。 ブロック保管室、資料標本室と合わせて1室とすることも可とする。</p>						

諸室No.	03-02-02-06	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	病理解剖
室 名	解剖前室					室 数	1
面 積	23 m ²	程度	標準寸法	m x		m	
用 途	遺体の前処置及び解剖後の処置（清拭）、遺体の冷蔵保存						
平均在室人数	-	人	最大在室人数	4	人		
隣接すべき室名	病理解剖室、霊安室						
近接すべき室名	(エレベーターホール)						
内 装	<p>がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。</p>						
特記事項	<p>霊安室との間に横型のストレッチャーイン遺体冷蔵庫 () 2台を設置すること。 実験用流し台 () 1台を設置すること。</p>						

諸室No.	03-02-03-01	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	検体検査
室名	血液形態検査室					室数	1
面積	120 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	末梢血像及び骨髄像の顕微鏡検査、フローサイトメトリー検査及びFISH検査等を行う						
平均在室人数	5 人	最大在室人数	8 人				
隣接すべき室名							
近接すべき室名	委託検査室						
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内に暗室を設置すること。</p> <p>夏季、冬季においても23～26℃で温度管理が行えるようにすること。</p> <p>暗室は完全暗室とすること。</p> <p>使用中表示を設置すること。</p> <p>顕微鏡を設置する部分には振動対策を施すこと。</p> <p>流し台付き中央実験台()2台を設置すること。</p> <p>標本の染色用、フローサイトメトリー検査の血液洗浄用の実験用流し台()2台を設置すること。</p>						

諸室No.	03-02-03-02	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	検体検査
室名	細菌検査室(伝票処理室)					室数	1
面積	10 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	報告書、統計資料作成等、事務処理全般を行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数	2 人				
隣接すべき室名	細菌検査室(一般細菌室)、細菌検査室(前室)						
近接すべき室名	細菌検査室(抗酸菌室)						
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>部門内の間仕切りは、できる限りパーティション(腰上はガラスとす)とし、扉は引戸とすること。</p> <p>室内を陰圧に保ち、個別空調として、空気が外部に漏出しないように配慮すること。</p> <p>消毒可能な仕上材料とすること。</p> <p>室内の排気はHEPAフィルターにて処理すること。</p> <p>インターホンを設置し、細菌検査室窓口と会話ができるようにすること。</p>						

諸室No.	03-02-03-03	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	検体検査
室 名	細菌検査室 (一般細菌室)					室 数	1
面 積	32 m ²	程 度	標準寸法	m × m			
用 途	一般細菌の分離・培養・同定、培地・試薬保管を行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数	2 人				
隣接すべき室名	細菌検査室 (伝票処理室)、細菌検査室 (滅菌洗浄室)、細菌検査室 (鏡検室)、細菌検査室 (培地作製室)、細菌検査室 (前室)、細菌検査 (抗酸菌室)						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>部門内の間仕切は、できる限りパーティション (腰上はガラスとする) とし、扉は引戸とすること。</p> <p>室内を陰圧に保ち、個別空調として、空気が外部に漏出しないように配慮すること。</p> <p>消毒可能な仕上材料とすること。</p> <p>室内の排気はHEPAフィルターにて処理すること。</p> <p>流し台付き中央実験台 () 1台を設置すること。</p> <p>個別空調とすること。</p> <p>インターホンを設置し、細菌検査室窓口と会話ができるようにすること。</p> <p>都市ガスを供給できるようにすること。</p>						

諸室No.	03-02-03-04	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	検体検査
室 名	細菌検査室 (抗酸菌室)					室 数	1
面 積	12 m ²	程 度	標準寸法	m × m			
用 途	抗酸菌の分離・培養、菌株保存、試薬保管を行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数	2 人				
隣接すべき室名	細菌検査室 (一般細菌室)						
近接すべき室名	細菌検査室 (伝票処理室)						
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>部門内の間仕切は、できる限りパーティション (腰上はガラスとする) とし、扉は引戸とすること。</p> <p>室内を陰圧に保ち、個別空調として、空気が外部に漏出しないように配慮すること。</p> <p>消毒可能な仕上材料とすること。</p> <p>室内の排気はHEPAフィルターにて処理すること。</p> <p>都市ガスを供給できるようにすること。</p> <p>安全キャビネット () 1台を設置すること。</p>						

諸室No.	03-02-03-05	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	検体検査
室名	細菌検査室(滅菌洗浄室)					室数	1
面積	12 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	感染性廃棄物の滅菌、器具の洗浄、保管を行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数	2 人				
隣接すべき室名	細菌検査室(一般細菌室)						
近接すべき室名	細菌検査室(培地作製室)、細菌検査室(前室)						
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>部門内の間仕切りは、できる限りパーティション(腰上はガラスとする)とし、扉は引戸とすること。</p> <p>室内を陰圧に保ち、個別空調として、空気が外部に漏出しないように配慮すること。</p> <p>消毒可能な仕上材料とすること。</p> <p>室内の排気はHEPAフィルターにて処理すること。</p> <p>床は水を流せる構造とし、排水溝を設けること。</p> <p>オートクレープ用の排気処理設備を設けること。</p> <p>実験用流し台()1台を設置すること。</p>						

諸室No.	03-02-03-06	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	検体検査
室名	細菌検査室(培地作製室)					室数	1
面積	10 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	培地の作製及び保管を行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数	2 人				
隣接すべき室名	細菌検査室(一般細菌室)						
近接すべき室名	細菌検査室(滅菌洗浄室)						
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>部門内の間仕切りは、できる限りパーティション(腰上はガラスとする)とし、扉は引戸とすること。</p> <p>室内を陰圧に保ち、個別空調として、空気が外部に漏出しないように配慮すること。</p> <p>消毒可能な仕上材料とすること。</p> <p>室内の排気はHEPAフィルターにて処理すること。</p> <p>都市ガスを供給できるようにすること。</p> <p>クリーンベンチ()1台を設置すること。</p> <p>実験用流し台()1台を設置すること。</p>						

諸室No.	03-02-03-07	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	検体検査
室 名	細菌検査室(鏡検室)					室 数	1
面 積	6 m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	一般細菌及び抗酸菌塗抹標本の鏡検・保管を行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数	2 人				
隣接すべき室名	細菌検査室(一般細菌室)						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>暗室とすること。</p> <p>室内を陰圧に保ち、個別空調として、空気が外部に漏出しないように配慮すること。</p> <p>消毒可能な仕上材料とすること。</p> <p>室内の排気はHEPAフィルターにて処理すること。</p> <p>入口にカーテンを設置し、ドアを開けたときに光が入らないように配慮すること。</p> <p>インターホンを設置し、細菌検査室窓口と会話ができるようにすること。</p>						

諸室No.	03-02-03-08	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	検体検査
室 名	腫瘍分子生物検査室(分子生物検査室)					室 数	1
面 積	122 m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	検体からのRNAやDNAの抽出、顕微鏡下での的手法による病理標本からの細胞採取、腫瘍分子生物学的検査、データ解析を行う						
平均在室人数	4 人	最大在室人数	11 人				
隣接すべき室名	腫瘍分子生物検査室(泳動室)、腫瘍分子生物検査室(培養室)						
近接すべき室名	共同利用検査室						
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>出入口は高さ2m以上、幅1.4m以上とすること。</p> <p>室内を泳動室に対して陽圧に保ち、個別空調として、分子生物検査室の空気が全て泳動室に流れるようにすること。</p> <p>泳動室と培養室の間仕切りはパーティションとすること。</p> <p>次亜塩素酸の清掃に耐えうる仕上材料とすること。</p> <p>殺菌灯を設置し、タイマーにてON・OFFができるようにすること。</p> <p>仕上は殺菌灯の照射により劣化しにくい材料とすること。</p> <p>実験用流し台()2台を設置すること。</p> <p>大きめの手洗いを設置すること。</p> <p>遺伝子解析装置(シーケンサー)()1台を設置すること。</p>						

諸室No.	03-02-03-09	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	検体検査
室 名	腫瘍分子生物検査室(泳動室)					室 数	1
面 積	18 m ² 以上	標準寸法		m x m			
用 途	ゲルの写真撮影、泳動バンドの切出し・精製、ゲルの作成及び保存、PCR産物の電気泳動、PCR産物の精製を行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数		6 人			
隣接すべき室名	腫瘍分子生物検査室(分子生物検査室)						
近接すべき室名	共同利用検査室						
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>空調が分子生物検査室から泳動室へ流れる構造とすること。</p> <p>室内を陰圧に保ち、個別空調として、空気が外部に漏出しないように配慮すること。</p> <p>次亜塩素酸の清掃に耐えうる仕上材料とすること。</p> <p>細菌検査室、輸血検査室、血液形態検査室のスタッフも利用するので、配置に留意すること。</p> <p>殺菌灯を設置し、タイマーにてON・OFFが出来るようにすること。</p> <p>仕上は殺菌灯の照射により劣化しにくい材料とすること。</p> <p>実験用流し台()1台を設置すること。</p>						

諸室No.	03-02-03-10	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	検体検査
室 名	腫瘍分子生物検査室(培養室)					室 数	1
面 積	18 m ² 程度	標準寸法		3.1 m x 6 m			
用 途	プラスミドを使用した遺伝子組換え、組織培養、抗がん剤薬剤感受性試験等を行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数		3 人			
隣接すべき室名	腫瘍分子生物検査室(分子生物検査室)						
近接すべき室名	共同利用検査室						
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内を陰圧に保ち、個別空調として、空気が外部に漏出しないように配慮すること。</p> <p>次亜塩素酸の清掃に耐えうる仕上材料とすること。</p> <p>細菌検査室、輸血検査室、血液形態検査室のスタッフも利用するので、配置に留意すること。</p> <p>「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」により規定されるP2実験室の仕様とすること。</p> <p>殺菌灯を設置し、タイマーにてON・OFFが出来るようにすること。</p> <p>仕上は殺菌灯の照射により劣化しにくい材料とすること。</p> <p>局所排気稼働時においても室内のエアバランスを適正に保つための対策を行うこと。</p> <p>安全キャビネット()2台を設置すること。なお、ダクト接続に際し、排気ダクトの内径250mm以上、必要静圧は本体静圧を0として、排気ダクト経路の圧損を考慮すること。</p> <p>実験用流し台()1台を設置すること。</p>						

諸室No.	03-02-03-11	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	検体検査
室名	委託検査室					室数	1
面積	190 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	検体検査（生化学検査、免疫血清学的検査、感染症検査、凝固検査、一般血液検査、腫瘍マーカー、薬物検査、一般尿検査）を行う						
平均在室人数	15 人	最大在室人数	18 人				
隣接すべき室名	緊急検査室、低温保冷室、採尿室、検査待合・採血室						
近接すべき室名	輸血検査室、細菌検査室（前室）、洗浄室、血液形態検査室						
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	業務要求水準書「病院運営関係」検体検査業務に必要な設備を設けること。						

諸室No.	03-02-03-12	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	検体検査
室名	採尿室					室数	1
面積	28 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	外来患者一般尿検査用の採尿を行う						
平均在室人数	人		最大在室人数	人			
隣接すべき室名	委託検査室、検査待合・採血室						
近接すべき室名	緊急検査室						
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>車椅子用トイレを1か所設置すること。</p> <p>車椅子用トイレの扉は自動ドアとすること。</p> <p>男子用トイレには、大便器1据、小便器3据及び手洗い2器を設置すること。</p> <p>女子用トイレには、大便器3据及び手洗い2器を設置すること。</p> <p>バスボックスには赤外線センサーを設置するなどして、採尿コップが置かれたことが委託検査室のスタッフに分かるようにすること。</p> <p>トイレ内に荷物を置く棚を設置すること。</p> <p>男子トイレ、女子トイレ、車椅子トイレと委託検査室の間にバスボックスを設置すること。</p>						

諸室No.	03-02-03-13	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	検体検査
室 名	検査待合・採血室					室 数	1
面 積	90 m ²	程 度	標準寸法	m × m			
用 途	採血・採尿患者の待合、 外来患者の採血、 耳朶採血（出血凝固検査）を行う						
平均在室人数	25 人	最大在室人数	40 人				
隣接すべき室名	委託検査室、採尿室						
近接すべき室名	緊急検査室						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>ガラススクリーン等により廊下から室内が確認できるように配慮すること。</p> <p>廊下との扉は自動ドアとし、車椅子患者も通行できる幅員とすること。</p> <p>委託検査室との間に自動ドアを設置すること。</p> <p>待合は、最大40人が待てるスペースとし、車椅子患者も待つことのできるスペースを確保すること。</p> <p>スクリーンパネル付きなど患者のプライバシーに配慮した10人用の採血台を設置し、2台は車椅子対応とすること。</p> <p>処置ベッドを2台設置するスペースを確保し、カーテンで仕切り、プライバシーを確保すること。</p> <p>採血管を準備するシステム（BCロボ）、サーバーなどを設置するスペースを確保すること。</p> <p>がんセンタースタッフができる限り腰をかがめずに採血できるように配慮すること。</p> <p>番号発券機及び表示機（銀行方式）を設置すること。</p>						

諸室No.	03-02-03-14	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	検体検査
室 名	細菌検査室（前室）					室 数	1
面 積	10 m ²	程 度	標準寸法	m × m			
用 途	検体受付、入退室管理、汚染物質管理を行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数	2 人				
隣接すべき室名	細菌検査室（一般細菌室）、細菌検査室（伝票処理室）、（スタッフ廊下）						
近接すべき室名	委託検査室、細菌検査室（滅菌洗浄室）						
内 装	<p>がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。</p> <p>耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。</p>						
特記事項	<p>部門内の間仕切りは、できる限りパーティション（腰上はガラスとする）とし、扉は引戸とすること。</p> <p>スタッフ廊下から直接出入ができる位置に配置すること。</p> <p>室内を陰圧に保ち、個別空調として、空気が外部に漏出しないように配慮すること。</p> <p>室内の排気はHEPAフィルターにて処理すること。</p> <p>セキュリティシステムにより入退室管理を行うこと。</p> <p>スタッフ廊下に面して受付窓（開口幅80cm以上）を設置すること。</p> <p>インターホンを設置し、細菌検査室（一般検査室、伝票処理室、鏡検室）と会話ができるようにすること。</p>						

諸室No.	03-02-04-01	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室 名	受付					室 数	1
面 積	7 m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	生理機能検査の患者の受付等を行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数	4 人				
隣接すべき室名	待合室						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	放射線診断及び内視鏡部門の受付と兼用することも可とする。 車椅子も対応可能な受付カウンターを設置すること。						

諸室No.	03-02-04-02	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室 名	待合室					室 数	1
面 積	適宜 m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	生理機能検査の患者の待合						
平均在室人数	5 人	最大在室人数	25 人				
隣接すべき室名	受付、各検査室						
近接すべき室名							
内 装							
特記事項	各検査室の前に待合スペースを適宜確保すること。 待合の椅子を置いても、車椅子が通行できる幅員を確保すること。 車椅子患者も待つことのできるスペースを確保すること。 受付から待合室全体が見渡せるようにできる限り配慮すること。 壁に点滴スタンド（輸液ポンプ）用の電源を1か所ずつ設置すること。						

諸室No.	03-02-04-03	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室 名	心電図室					室 数	2
面 積	12 m ² 以上	標準寸法		m x m			
用 途	心電図検査を行う ホルター心電計の装着・外しを行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数		2 人			
隣接すべき室名	画像処理室、心臓超音波検査室、待合室						
近接すべき室名	呼吸機能検査室、運動負荷心電図室						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内は車椅子で移動できる広さとすること。</p> <p>待合室、画像処理室側の扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>ガートルールを設置すること。</p> <p>心電図室、心臓超音波検査室、運動負荷心電図室及びホルター検査室が一体とした運用を行える配置にすること。</p>						

諸室No.	03-02-04-04	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室 名	心臓超音波検査室					室 数	1
面 積	15 m ² 以上	標準寸法		m x m			
用 途	心臓超音波検査を行う						
平均在室人数	3 人	最大在室人数		7 人			
隣接すべき室名	運動負荷心電図室、ホルター検査室、画像処理室、心電図室、待合室						
近接すべき室名	血管超音波検査室・脳波室						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内は車椅子で移動でき、検査用ベッドのほかにベッドが入るスペースを確保すること。</p> <p>超音波診断装置に対応した電源を用意すること。</p> <p>ベッド搬送時に外来患者の前をできる限り通らないようにすること。</p> <p>待合室、画像処理室側の扉はともに引戸とし、ベッド、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>照明はリモコンにより照度調整が行えるようにすること。</p> <p>室内に更衣室を1室設けること。</p> <p>ガートルールを設置すること。</p> <p>心電図室、心臓超音波検査室、運動負荷心電図室及びホルター検査室が一体とした運用を行える配置にすること。</p>						

諸室No.	03-02-04-05	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室名	血管超音波検査室・脳波室					室数	1
面積	17 m ² 以上	標準寸法	m x m				
用途	頸動脈・下肢等血管エコー検査及び脳波検査を行う						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	4 人				
隣接すべき室名	画像処理室、待合室						
近接すべき室名	心臓超音波検査室、ホルター検査室						
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内はシールド部分と外部操作室に区分すること。</p> <p>室内に更衣室を1室設けること。</p> <p>シールドルームとし、観察窓とインターホンを設置すること。</p> <p>室内は車椅子で移動でき、検査用ベッドのほかにベッドが入るスペースを確保すること。</p> <p>床材料は衝撃吸収・吸音効果のあるものとする。</p> <p>照明はリモコンにより照度調整が行えるようにすること。</p> <p>ガートルールを設置すること。</p> <p>超音波診断装置に対応した電源を用意すること。</p> <p>インターホンを設置し、操作室と会話ができるようにすること。</p> <p>心臓・血管超音波診断装置()1台を設置すること。</p> <p>シールドルームのドアはできるだけ段差がないようにすること。</p>						

諸室No.	03-02-04-06	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室名	運動負荷心電図室					室数	1
面積	16 m ² 以上	標準寸法	4 m x 4 m				
用途	トレッドミル運動負荷検査を行う						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	4 人				
隣接すべき室名	ホルター検査室、心臓超音波検査室、画像処理室、待合室						
近接すべき室名	心電図室						
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内に更衣室を1室設けること。</p> <p>聴力検査室、呼吸機能室から離れた位置とし、他の検査室への振動、騒音対策を施すこと。</p> <p>間仕切りは遮音壁とし、室外に音が漏れないように配慮すること。</p> <p>室内は車椅子で移動できる広さとすること。</p> <p>ホルター検査室との間に扉を設置すること。</p> <p>ホルター検査室、画像処理室側の扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>トレッドミルの設置が可能な床荷重とすること。</p> <p>ガートルールを設置すること。</p> <p>心電図室、心臓超音波検査室、運動負荷心電図室及びホルター検査室が一体とした運用を行える配置にすること。</p>						

諸室No.	03-02-04-07	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室名	ホルター検査室					室数	1
面積	9 m ² 以上	標準寸法		m x m			
用途	24時間心電図の準備、記録の解析、データ処理を行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数		3 人			
隣接すべき室名	心臓超音波検査室、運動負荷心電図室、画像処理室、待合室						
近接すべき室名	血管超音波検査室・脳波室						
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内は車椅子で移動できる広さとすること。</p> <p>運動負荷心電図室との間に扉を設置すること。</p> <p>待合室、運動負荷心電図室側の扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>ガートルールを設置すること。</p> <p>心電図室、心臓超音波検査室、運動負荷心電図室及びホルター検査室が一体とした運用を行える配置にすること。</p>						

諸室No.	03-02-04-08	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室名	呼吸機能検査室					室数	1
面積	18 m ² 以上	標準寸法		m x m			
用途	呼吸機能検査及び基礎代謝機能検査を行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数		3 人			
隣接すべき室名	画像処理室、待合室						
近接すべき室名	心電図室						
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内は車椅子で移動できる広さとすること。</p> <p>待合室、画像処理室側の扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>間仕切りは遮音壁とし、室外に音が漏れないようにすること。</p> <p>ガートルールを設置すること。</p> <p>運動負荷心電図室、血管超音波検査室・脳波室から離れた位置に配置すること。</p>						

諸室No.	03-02-04-09	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室 名	聴力検査室					室 数	1
面 積	11 m ² 以上	標準寸法	m × m				
用 途	聴力・ティンパノ検査を行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数	3 人				
隣接すべき室名	画像処理室、待合室						
近接すべき室名							
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内に聴力検査用の防音ユニット()一式を設置すること。</p> <p>室内は車椅子で移動できる広さとすること。</p> <p>待合室、画像処理室側の扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>呼吸機能検査室、運動負荷心電図室から離れた位置に配置すること。</p> <p>インターホンを設置し、操作室と会話ができるようにすること。</p>						

諸室No.	03-02-04-10	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室 名	超音波検査室1 (表在)					室 数	1
面 積	15 m ² 以上	標準寸法	m × m				
用 途	表在臓器の超音波検査を行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数	4 人				
隣接すべき室名	画像処理室、待合室						
近接すべき室名	超音波検査室3 (表在穿刺)						
内 装	<p>患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。</p> <p>耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。</p>						
特記事項	<p>室内に更衣室を2室設けること。</p> <p>室内は車椅子で移動でき、超音波検査装置の他に包交車が入るスペースを確保すること。</p> <p>待合室、画像処理室側の扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>照明はリモコンにより照度調整が行えるようにすること。</p> <p>ガートルレールを設置すること。</p> <p>超音波診断装置に対応した電源を用意すること。</p>						

諸室No.	03-02-04-11	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室名	超音波検査室2(腹部)					室数	1
面積	15	m ² 以上	標準寸法	m × m			
用途	上下腹部の超音波検査を行う						
平均在室人数	2人		最大在室人数	4人			
隣接すべき室名	画像処理室、トイレ、待合室						
近接すべき室名	超音波検査室4(腹部穿刺・治療)						
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内に更衣室を2室設けること。</p> <p>室内は車椅子で移動でき、超音波検査装置の他に包交車が入るスペースを確保すること。</p> <p>待合室、画像処理室側の扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>照明はリモコンにより照度調整が行えるようにすること。</p> <p>検査室から直接トイレに入れる位置とすること。</p> <p>ガートルールを設置すること。</p> <p>超音波診断装置に対応した電源を用意すること。</p>						

諸室No.	03-02-04-12	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室名	超音波検査室3(表在穿刺)					室数	1
面積	20	m ² 以上	標準寸法	m × m			
用途	表在臓器の超音波穿刺検査を行う						
平均在室人数	5人		最大在室人数	6人			
隣接すべき室名	画像処理室、作業室、待合室						
近接すべき室名	超音波検査室1(表在)、超音波検査室4(腹部穿刺・治療)						
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内に更衣室を2室設けること。</p> <p>室内は車椅子で移動でき、超音波検査装置の他に包交車、穿刺装置、ベッドが入るスペースを確保すること。</p> <p>待合室、画像処理室側の扉はともに引戸とし、車椅子、ベッドが容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>ベッドにより患者を搬送できるようにし、できる限り外来患者の前を通らないようにすること。</p> <p>照明はリモコンにより照度調整が行えるようにすること。</p> <p>ガートルールを設置すること。</p> <p>超音波診断装置に対応した電源を用意すること。</p>						

諸室No.	03-02-04-13	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室名	超音波検査室4(腹部穿刺・治療)					室数	1
面積	20	m ²	以上	標準寸法	m × m		
用途	上下腹部超音波検査及び上腹部超音波穿刺治療処置検査を行う						
平均在室人数	4	人	最大在室人数	6	人		
隣接すべき室名	画像処理室、作業室、待合室						
近接すべき室名	超音波検査室2(腹部)、超音波検査室3(表在穿刺)						
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内に更衣室を2室設けること。</p> <p>室内は車椅子で移動でき、超音波検査装置の他に包交車、治療装置、ベッドが入るスペースを確保すること。</p> <p>待合室、画像処理室側の扉はともに引戸とし、車椅子、ベッドが容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>ベッドにより患者を搬送できるようにし、できる限り外来患者の前を通らないようにすること。</p> <p>照明はリモコンにより照度調整が行えるようにすること。</p> <p>ガートルールを設置すること。</p> <p>超音波診断装置に対応した電源を用意すること。</p>						

諸室No.	03-02-04-14	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室名	画像処理室					室数	1
面積	80	m ²	程度	標準寸法	m × m		
用途	データの処理及び入力、医師による読影及び所見の入力等を行う ポータブル装置の保管、払出しを行う						
平均在室人数	6	人	最大在室人数	10	人		
隣接すべき室名	各検査室、待合室						
近接すべき室名							
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。						
特記事項							

諸室No.	03-02-04-15	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室 名	作業室					室 数	1
面 積	6	m ²	程度	標準寸法	m x m		
用 途	穿孔・治療器材の洗浄・消毒を行なう、医療廃棄物の保管等を行う						
平均在室人数	1		人	最大在室人数	2		
隣接すべき室名	超音波検査室3(表在穿孔)、超音波検査室4(腹部穿孔・治療)						
近接すべき室名							
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	臭気対策を施し、室外に空気が漏れないように配慮すること。						

諸室No.	03-02-04-16	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室 名	器材庫					室 数	1
面 積	12	m ²	以上	標準寸法	m x m		
用 途	検査関係の帳票類、画像記録及び治療機器・診療材料等を保管する						
平均在室人数	1		人	最大在室人数	2		
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内 装							
特記事項							

諸室No.	03-02-04-17	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室名	リネン庫					室数	1
面積	9 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	リネンの保管						
平均在室人数	-	人	最大在室人数	-	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内装							
特記事項	収納棚を設置すること。						

諸室No.	03-02-04-18	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	超音波・生理機能検査
室名	トイレ					室数	1
面積	2.5 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途							
平均在室人数		人	最大在室人数		人		
隣接すべき室名	超音波検査室2(腹部)						
近接すべき室名							
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>大便器及び手洗いを備えた個室トイレを1室設置すること。</p> <p>超音波検査室2(腹部)から直接入れる位置に配置すること。</p> <p>車椅子の患者が使用できるスペースを確保すること。</p> <p>大便器は手すりを設けること。</p>						

諸室No.	03-02-05-01	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	輸血検査	
室名	輸血検査室						室数	1
面積	93	m ²	程度	標準寸法	m × m			
用途	血液製剤、移植細胞の保管、血液型、交差試験などの輸血検査、血液製剤の在庫、検査、輸血歴の管理、移植後のキメラ解析							
平均在室人数	3	人	最大在室人数	10	人			
隣接すべき室名	緊急検査室、細胞処理室							
近接すべき室名	洗浄室、委託検査室							
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。							
特記事項	<p>物品用エレベーターから前室を経由して直接アクセスできる位置に配置すること。</p> <p>室内に血液照射室を設け、放射線防護を行い、入口に「使用中」と点灯する表示を設置すること。</p> <p>室内の音が外に漏れないように配慮すること。</p> <p>臭気対策を施すこと。</p> <p>室内の間仕切りは、できる限りパーティション（腰上はガラスとする）とし、扉は引戸とすること。</p> <p>セキュリティシステムにより入退室管理を行うこと。</p> <p>局所排気稼働時においても室内のエアバランスを適正に保つための対策を行うこと。</p> <p>適切な排水処理を行うこと。</p> <p>室内にフリーザーを設置するので、空調条件に留意すること。</p> <p>フリーザーの警報装置を防災センターで確認できるようにすること。</p> <p>実験用流し台（ ）1台を設置すること。</p> <p>流し台付き中央実験台（ ）1台を設置すること。</p> <p>手術部門との間に、血液等を搬送できる専用の小荷物専用昇降機または搬送設備を設置すること。</p> <p>室内で使用する機器や冷蔵庫等の稼働に十分な非常用電源を確保すること。</p> <p>手術部門のインターホンシステムに接続すること。</p>							

諸室No.	03-02-05-02	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	輸血検査	
室名	細胞処理室						室数	1
面積	18	m ²	程度	標準寸法	m × m			
用途	移植細胞を凍結保存するための処理、移植細胞から余分な成分を取り除く作業、自己血を加工する作業							
平均在室人数	2	人	最大在室人数	3	人			
隣接すべき室名	輸血検査室							
近接すべき室名								
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。							
特記事項	<p>局所排気稼働時においても室内のエアバランスを適正に保つための対策を行うこと。</p> <p>適切な排水処理を行うこと。</p> <p>床はフリーアクセスフロアとし、給排水の取り出しを容易にすること。</p> <p>室内にフリーザーを設置するので、空調条件に留意すること。</p> <p>安全キャビネット（ ）2台を設置すること。</p> <p>室内の間仕切りは、できる限りパーティション（腰上はガラスとする）とし、扉は引戸とすること。</p> <p>セキュリティシステムにより入退室管理を行うこと。</p>							

諸室No.	03-02-06-01	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	その他検査関係
室名	緊急検査室					室数	1
面積	67 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	夜間及び土・日・祝日の緊急検査を行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数	2 人				
隣接すべき室名	輸血検査室、委託検査室、洗浄室						
近接すべき室名	低温保冷室、採尿室、検査待合・採血室						
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	輸血検査室および委託検査室との間仕切は、できる限りパーティション（腰上はガラスとする）とし、扉は引戸とすること。 流し台付き中央実験台（ ）1台を設置すること。 個別空調とすること。						

諸室No.	03-02-06-02	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	その他検査関係
室名	洗浄室					室数	1
面積	27 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	検査器具の洗浄、乾燥、滅菌						
平均在室人数	1 人	最大在室人数	2 人				
隣接すべき室名	緊急検査室、低温保冷室						
近接すべき室名	輸血検査室、委託検査室						
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性、耐水性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	各検査室からアクセスの良い位置に配置すること。 床は水が流せる仕様とし、排水溝を設けること。 床材料は濡れても滑らないものとする事。 超音波洗浄器、超純水作製装置、製氷機、大型乾燥機を設置できるようにすること。 超音波洗浄器（ ）1台を設置すること。 ステンレス流し台（ ）2台を設置すること。						

諸室No.	03-02-06-03	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	その他検査関係
室名	低温保冷室					室数	1
面積	15	m ²	程度	標準寸法	m x m		
用途	保冷を要する検査試薬や消耗品の保管等を行う						
平均在室人数	- 人		最大在室人数	- 人			
隣接すべき室名	洗浄室、委託検査室						
近接すべき室名	緊急検査室						
内装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>設定温度を5 (3~10) とすること。 耐水性、抗菌性のある仕上げ材料とすること。 収納棚を設置すること。</p>						

諸室No.	03-02-06-04	種別	中央診療	部門	臨床検査部門	(機能区分)	その他検査関係
室名	臨床検査研修室					室数	1
面積	46	m ²	程度	標準寸法	m x m		
用途	検査技師の研修、会議、打合せ、休憩、昼食等に使用する						
平均在室人数	15 人		最大在室人数	30 人			
隣接すべき室名							
近接すべき室名	データ管理室						
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内の音、声が室外に漏れないように配慮すること。 壁面にプロジェクターを写せるようにすること。</p>						

諸室No.	03-02-06-05	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	その他検査関係
室 名	データ管理室					室 数	1
面 積	15 m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	データ管理・保存、データ作成等の業務を行う						
平均在室人数	1 人	最大在室人数	3 人				
隣接すべき室名							
近接すべき室名	臨床検査研修室						
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。						
特記事項							

諸室No.	03-02-06-08	種 別	中央診療	部 門	臨床検査部門	(機能区分)	その他検査関係
室 名	共同利用検査室					室 数	1
面 積	28 m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	臨床研究所との共同研究に利用する検査室						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	5 人				
隣接すべき室名							
近接すべき室名	腫瘍分子生物検査室(分子生物検査、泳動室、培養室)						
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」により規定されるP2実験室の仕様とすること。</p> <p>換気空調設備を備え、夏季・冬季において室温が23 ± 3 の範囲内にあること。</p> <p>実験台の上部に空調の風が直接当たらないようにすること。</p> <p>合計で100A以上の電流容量を確保していること。</p> <p>流し台付中央実験台()1台を設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-01-01	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室 名	受付					室 数	1
面 積	7 m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	放射線診断部門の患者の受付等を行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数	2 人				
隣接すべき室名							
近接すべき室名	診察室、中央操作室						
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>生理機能検査及び内視鏡部門の受付と兼用することも可とする。 車椅子も対応可能な受付カウンターを設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-01-02	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室 名	診察室					室 数	1
面 積	12 m ²	以上	標準寸法	m x m			
用 途	CT・MRIの患者の診察等を行う						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	5 人				
隣接すべき室名	中央操作室						
近接すべき室名	受付、CT室、MRI室						
内 装	患者の診察を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>扉は引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。 隣室に会話が聞こえることのないように配慮すること。 手洗いの脇にペーパータオルとゴミ箱を設置するスペースを確保すること。 中央操作室側にも扉を設けること。 診察室の形状は外来部門の診察室とできる限り同じものとする。 各診察室に診察用デスク()1台、患者用椅子()1台、医師用椅子()1台を設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-01-03	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室 名	一般撮影室					室 数	2
面 積	30 m ² 以上	標準寸法	m × m				
用 途	胸部、腹部、骨格などのX線撮影を行う						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	5 人				
隣接すべき室名	中央操作室						
近接すべき室名							
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>操作室と撮影室の間に鉛2mm当量以上の患者観察用のガラス窓を設けること。</p> <p>撮影室として寸法 5.3m×4.0m以上、天井高3.1m以上とすること。</p> <p>撮影室は2つのX線管球の設置を可能とすること。</p> <p>室内に更衣室を2室設けること。</p> <p>更衣室の1室は車椅子が利用できる大きさを確保すること。</p> <p>待合側の扉は自動ドアとし、ベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>室内にベッドが入るスペースを確保すること。</p> <p>床ビット、シャフト等を適切に設け、配線が露出しないように配慮すること。</p> <p>天井、床、壁は鉛2mm当量の放射線防護をすること。</p> <p>個別空調とすること。</p>						

諸室No.	03-03-01-04	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室 名	パントモ撮影室					室 数	1
面 積	12 m ² 以上	標準寸法	m × m				
用 途	口腔内のX線撮影を行う						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	5 人				
隣接すべき室名	中央操作室						
近接すべき室名							
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>操作室と撮影室の間に鉛2mm当量以上の患者観察用のガラス窓を設けること。</p> <p>天井、床、壁は鉛2mm当量以上の放射線防護を施すこと。</p> <p>床ビット、シャフト等を適切に設け、配線が露出しないように配慮すること。</p> <p>個別空調とすること。</p> <p>パントモ撮影装置()一式を設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-01-05	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室 名	乳房撮影室 1					室 数	1
面 積	27 m ² 以上	標準寸法		m × m			
用 途	乳房のX線撮影及び生検を行う。						
平均在室人数	3 人	最大在室人数		6 人			
隣接すべき室名	中央操作室、乳房撮影室 2						
近接すべき室名							
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>操作室と撮影室の間に鉛 2 mm 当量以上の患者観察用のガラス窓を設けること。</p> <p>室内に更衣室を 2 室設けること。</p> <p>観察用のガラス窓は、中央操作室から室内が見えることのないように注意すること。</p> <p>更衣室の 1 室は車椅子が利用できる大きさを確保すること。</p> <p>待合側の扉は自動ドアとし、ベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>室内にストレッチャーが入るスペースを確保すること。</p> <p>床ビット、シャフト等を適切に設け、配線が露出しないように配慮すること。</p> <p>天井、床、壁は鉛 2 mm 当量の放射線防護をすること。</p> <p>個別空調とすること。</p> <p>乳房 X 線撮影装置 () 一式を設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-01-06	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室 名	乳房撮影室 2					室 数	1
面 積	20 m ² 以上	標準寸法		m × m			
用 途	乳房の X 線撮影を行う						
平均在室人数	3 人	最大在室人数		6 人			
隣接すべき室名	中央操作室、乳房撮影室 1						
近接すべき室名							
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>操作室と撮影室の間に鉛 2 mm 当量以上の患者観察用のガラス窓を設けること。</p> <p>室内に更衣室を 2 室設けること。</p> <p>観察用のガラス窓は、中央操作室から室内が見えることのないように注意すること。</p> <p>更衣室の 1 室は車椅子が利用できる大きさを確保すること。</p> <p>待合側の扉は自動ドアとし、ベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>室内にストレッチャーが入るスペースを確保すること。</p> <p>床ビット、シャフト等を適切に設け、配線が露出しないように配慮すること。</p> <p>天井、床、壁は鉛 2 mm 当量の放射線防護をすること。</p> <p>個別空調とすること。</p>						

諸室No.	03-03-01-07	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室名	骨塩定量測定室					室数	1
面積	9 m ² 以上	標準寸法	m × m				
用途	骨塩定量の測定を行う						
平均在室人数	人		最大在室人数	人			
隣接すべき室名	中央操作室						
近接すべき室名							
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>操作室と撮影室の間に鉛2mm当量以上の患者観察用のガラス窓を設けること。</p> <p>室内に更衣室を1室設けること。</p> <p>更衣室は車椅子が利用できる大きさを確保すること。</p> <p>床ビット、シャフト等を適切に設け、配線が露出しないように配慮すること。</p> <p>天井、床、壁は鉛2mm当量の放射線防護をすること。</p> <p>個別空調とすること。</p>						

諸室No.	03-03-01-08	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室名	X線TV室					室数	2
面積	40 m ² 以上	標準寸法	8 m × 5 m				
用途	X線TV装置による透視や撮影を行う						
平均在室人数	人		最大在室人数	人			
隣接すべき室名	中央操作室						
近接すべき室名							
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>操作室と撮影室の間に鉛2mm当量以上の患者観察用のガラス窓を設けること。</p> <p>室内に更衣室を2室設けること。</p> <p>更衣室の1室は車椅子が利用できる大きさを確保すること。</p> <p>待合側の扉は自動ドアとし、ベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>室内にベッドが入るスペースを確保すること。</p> <p>床ビット、シャフト等を適切に設け、配線が露出しないように配慮すること。</p> <p>検査室内にトイレを設置し、手摺りを設置すること。</p> <p>天井、床、壁は鉛2mm当量の放射線防護をすること。</p> <p>個別空調とすること。</p> <p>室内は調光可能とすること。</p>						

諸室No.	03-03-01-09	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室 名	内視鏡X線TV室					室 数	1
面 積	40 m ²	以上	標準寸法	m × m			
用 途	X線TV装置を用いた内視鏡検査等を行う						
平均在室人数	3	人	最大在室人数	6	人		
隣接すべき室名	内視鏡処置室、中央操作室						
近接すべき室名	回復室(内視鏡部門)						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>操作室と撮影室の間に鉛2mm当量以上の患者観察用のガラス窓を設けること。</p> <p>内視鏡処置室と直接往来できる構造とすること。</p> <p>待合側の扉は自動ドアとし、ベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>室内にベッドが入るスペースを確保すること。</p> <p>床ピット、シャフト等を適切に設け、配線が露出しないように配慮すること。</p> <p>室内は調光可能とすること。</p> <p>室内を陰圧に保つこと。</p> <p>個別空調とすること。</p> <p>天井、床、壁は鉛2mm当量の放射線防護をすること。</p> <p>多目的デジタルX線TV装置(FPD搭載)()一式を設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-01-10	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室 名	内視鏡処置室					室 数	1
面 積	12 m ²	程度	標準寸法	m × m			
用 途	内視鏡等の前処置を行う						
平均在室人数	3	人	最大在室人数	4	人		
隣接すべき室名	内視鏡X線TV室						
近接すべき室名							
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内に更衣室を2室設けること。</p> <p>更衣室の1室は車椅子が利用できる大きさを確保すること。</p>						

諸室No.	03-03-01-11	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断	
室 名	中央操作室					室 数	1	
面 積	90 m ²	以上	標準寸法	m × m				
用 途	各装置の操作を行う							
平均在室人数	7	人	最大在室人数	18				人
隣接すべき室名	診察室、一般撮影室、パントモ撮影室、乳房撮影室1、乳房撮影室2、骨塩定量測定室、X線TV室、内視鏡X線TV室、読影室							
近接すべき室名	受付							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。							
特記事項	<p>操作室と撮影室の間に鉛2mm当量以上の患者観察用のガラス窓を設けること。 操作中のスタッフの背後は人が通行できるスペースを確保すること。 床はフリーアクセスフロアとし、将来の機器変更に対応できるように配慮すること。 個別空調とすること。</p>							

諸室No.	03-03-01-12	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断	
室 名	CT室					室 数	3	
面 積	53 m ²	以上	標準寸法	m × m				
用 途	放射線CT断層撮影を行う							
平均在室人数	3	人	最大在室人数	8				人
隣接すべき室名	血管造影室							
近接すべき室名	読影室、MRI室、処置室、診察室、待機室、トイレ							
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。							
特記事項	<p>操作室と撮影室の間に鉛2mm当量以上の患者観察用のガラス窓を設けること。 室内に、前室、操作室、機械室及び更衣室2室を設けること。 更衣室の1室は車椅子が利用できる大きさを確保すること。 待合側の扉は自動ドアとし、ベッドが通行できる幅員を確保すること。 室内にストレッチャーが入るスペースを確保すること。 床ビット、シャフト等を適切に設け、配線が露出しないように配慮すること。 個別空調とすること。 室内は調光可能とすること。 天井、床、壁は鉛2mm当量の放射線防護をすること。 操作室は中央操作室と兼用することも可とする。 インターホンを設置し、読影室と会話ができるようにすること。 1室に全身用コンピュータ断層撮影装置()一式を設置すること。 1室に全身用コンピュータ断層撮影装置(IVR対応)()一式を設置すること。</p>							

諸室No.	03-03-01-13	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室 名	MRI室					室 数	2
面 積	72	m ²	以上	標準寸法	m × m		
用 途	磁気共鳴診断画像の撮影を行う						
平均在室人数	3		人	最大在室人数	8		
隣接すべき室名	MRI操作室						
近接すべき室名	読影室、CT室、処置室、診察室、待機室、トイレ						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>操作室と撮影室の間に電磁シールドの施された患者観察用のガラス窓を設けること。</p> <p>前室及び更衣室2室を設けること。</p> <p>必要な機械室を適宜設けること。</p> <p>周辺道路、エレベーター、電気室等の磁気発生源に対する機器の影響を十分に検討し、部屋の配置・シールドを行うこと。</p> <p>更衣室の1室は車椅子が利用できる大きさを確保すること。</p> <p>待合側の扉は自動ドアとし、ベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>室内にストレッチャーが入るスペースを確保すること。</p> <p>装置の重量13tに耐えうる床荷重とすること。</p> <p>ヘリウムの排気設備を設けること。</p> <p>照明は白熱灯やハロゲン灯などとし、調光可能とすること。</p> <p>個別空調とすること。</p> <p>1室に3T超伝導磁気共鳴画像診断装置システム()一式を設置すること。</p> <p>1室に1.5T超伝導磁気共鳴画像診断装置システム()一式を設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-01-14	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室 名	MRI操作室					室 数	1
面 積	40	m ²	程度	標準寸法	m × m		
用 途	MRI装置の操作を行う						
平均在室人数	4		人	最大在室人数	10		
隣接すべき室名	MRI室						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>操作室と撮影室の間に電磁シールドの施された患者観察用のガラス窓を設けること。</p> <p>操作中のスタッフの背後は人が通行できるスペースを確保すること。</p> <p>床はフリーアクセスフロアとし、将来の機器変更に対応できるように配慮すること。</p> <p>個別空調とすること。</p> <p>インターホンを設置し、読影室と会話ができるようにすること。</p>						

諸室No.	03-03-01-15	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室名	血管造影室					室数	1
面積	75	m ²	以上	標準寸法	m x m		
用途	頭部・腹部などの造影検査やIVR(治療)等を行う						
平均在室人数	7	人	最大在室人数	9	人		
隣接すべき室名	CT室						
近接すべき室名							
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。						
特記事項	<p>操作室と撮影室の間に鉛2mm当量以上の患者観察用のガラス窓を設けること。</p> <p>室内に操作室、患者用更衣室、職員用更衣室及び前室を設けること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保し、HEPAフィルターにて換気処理を行うこと。</p> <p>患者用更衣室は車椅子が利用できるスペースを確保すること。</p> <p>待合側の扉は自動ドアとし、ベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>室内にベッドが入るスペースを確保すること。</p> <p>床ピット、シャフト等を適切に設け、配線が露出しないように配慮すること。</p> <p>室内は調光可能とすること。</p> <p>2人用の手術用手洗い装置()1台を設置すること。</p> <p>天井走行レールを設置すること。</p> <p>個別空調とすること。</p> <p>天井は無影灯の設置が可能となるようにすること。</p> <p>天井、床、壁は鉛2mm当量の放射線防護をすること。</p> <p>BGM設備を設置すること。</p> <p>隣接するCT室との間に鉛防護の自動ドアを設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-01-16	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室名	読影室					室数	1
面積	36	m ²	程度	標準寸法	m x m		
用途	読影を行う						
平均在室人数	6	人	最大在室人数	12	人		
隣接すべき室名	中央操作室						
近接すべき室名	CT室、MRI室						
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。						
特記事項	<p>画像観察装置8台が並ぶ部屋の配置とすること。</p> <p>間仕切は遮音壁とし、外部の音が室内に聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>個別空調とすること。</p> <p>インターホンを設置し、CT操作室、MRI操作室と会話ができるようにすること。</p>						

諸室No.	03-03-01-17	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室名	処置室					室数	1
面積	30 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	CT及びMRI患者の処置を行う、検査後の急変時の処置を行う						
平均在室人数	2	人	最大在室人数	10	人		
隣接すべき室名	待機室						
近接すべき室名	CT室、MRI室						
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	ベッド2台を設置して、枕元にナースコール、医療ガス(O、V)を設置し、カーテンにより仕切ること。						
	ITV設備を設置し、CT操作室、MRI操作室で確認できること。						

諸室No.	03-03-01-18	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室名	待機室					室数	1
面積	16 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	CT及びMRI検査後の休憩を行う						
平均在室人数	6	人	最大在室人数	8	人		
隣接すべき室名	処置室						
近接すべき室名	CT室、MRI室						
内装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。						
特記事項							

諸室No.	03-03-01-19	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室 名	技師控室					室 数	1
面 積	40	m ²	程 度	標準寸法	m x m		
用 途	放射線技師等の休憩、カンファレンスに使用する						
平均在室人数	5	人	最大在室人数	18	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。						
特記事項							

諸室No.	03-03-01-20	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断
室 名	ポータブルX線撮影装置保管庫					室 数	1
面 積	9	m ²	程 度	標準寸法	m x m		
用 途	ポータブルX線撮影装置を保管する						
平均在室人数	1	人	最大在室人数	1	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名	(エレベーターホール)						
内 装							
特記事項	<p>施錠管理を行うこと。</p> <p>扉は、装置の搬出入がしやすいものとする。</p>						

諸室No.	03-03-01-21	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断	
室 名	倉庫					室 数	1	
面 積	12	m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	放射線環境測定に用いる機器等を保管する							
平均在室人数	1		人	最大在室人数	1			人
隣接すべき室名								
近接すべき室名								
内 装								
特記事項	扉は、機器等の搬出入がしやすいものとする。							

諸室No.	03-03-01-22	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線診断	
室 名	トイレ					室 数	1	
面 積	9	m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途								
平均在室人数			人	最大在室人数				人
隣接すべき室名								
近接すべき室名	C T室、M R I室							
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。							
特記事項	男女別に、大便器及び手洗いを備えた個室トイレを2室ずつ設置すること。なお、それぞれの個室トイレの一つは車椅子対応にすること。							

諸室No.	03-03-02-01	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室名	受付					室数	1
面積	12 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	放射線治療及び核医学検査に係る患者の受付等を行う						
平均在室人数	1	人	最大在室人数	1	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名	診察室、治療計画室						
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	核医学検査の受付と兼用できる位置に配置すること。 車椅子も対応可能な受付カウンターを設置すること。						

諸室No.	03-03-02-02	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室名	治療計画室					室数	1
面積	60 m ²	以上	標準寸法	m x m			
用途	放射線治療計画を行う						
平均在室人数	4	人	最大在室人数	6	人		
隣接すべき室名	CT・X線シミュレータ室						
近接すべき室名	診察室、受付						
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。						
特記事項	コンピュータによる熱負荷が大きいため空調条件に留意すること。 放射線治療計画装置()一式を設置すること。						

諸室No.	03-03-02-03	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室 名	C T・X線シミュレータ室					室 数	1
面 積	100 m ² 以上	標準寸法		m x m			
用 途	放射線治療の位置決めを行う(操作室・更衣室を含む)						
平均在室人数	4 人	最大在室人数		6 人			
隣接すべき室名	治療計画室						
近接すべき室名	診察室						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>操作室及び更衣室2室を設けること。</p> <p>更衣室は車椅子が利用できる大きさを確保すること。</p> <p>廊下の扉は自動ドアとし、ベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>操作室の床はフリーアクセスフロアとし、将来の機器変更に対応できるように配慮すること。</p> <p>天井高は3m以上とすること。</p> <p>操作室の奥行きは3m以上とすること。</p> <p>装置の重量5tに耐えうる床荷重とすること。</p> <p>独立空調とし、装置の発熱量に留意すること。</p> <p>天井、床、壁は鉛2mm当量以上の放射線防護をすること。</p> <p>操作室と撮影室の間に鉛2mm当量以上の患者観察用のガラス窓を設けること。</p> <p>ITV設備を設置し、操作室で確認できること。</p> <p>高精度放射線治療システム(C T+X線シミュレーションシステム)()一式を設置すること。</p>						

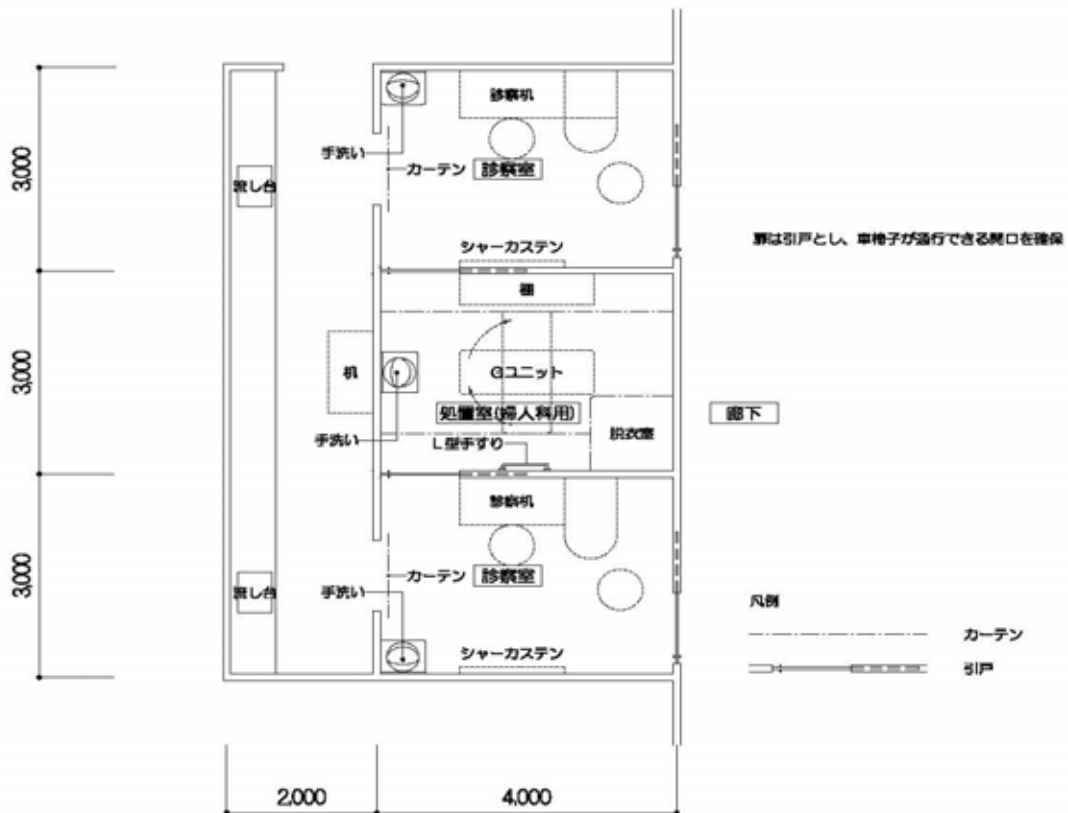
諸室No.	03-03-02-04	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室 名	診察室					室 数	4
面 積	12 m ² 以上	標準寸法		m x m			
用 途	放射線治療及びシミュレーション前の診察を行う						
平均在室人数	5 人	最大在室人数		5 人			
隣接すべき室名	処置室						
近接すべき室名	受付、治療計画室、C T・X線シミュレータ室						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>処置室の両側に1室ずつ配置し、処置室との間に扉を設置すること。</p> <p>スタッフ通路を設け、各診察室、処置室とアクセスできる配置とすること。</p> <p>患者が出入りする扉は引戸とし、車椅子やストレッチャーが容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>隣室に会話が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>スタッフ通路に電話を設置すること。</p> <p>医療ガス(O、V)を設置すること。</p> <p>各診察室に診察用デスク()1台、患者用椅子()1台、医師用椅子()1台を設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-02-05	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室名	処置室					室数	3
面積	12 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	放射線治療の前・中・後における婦人科・頭頸部外科の処置を行う						
平均在室人数	2 人	最大在室人数	3 人				
隣接すべき室名	診察室						
近接すべき室名							
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						

特記事項

2室は両側に診察室を隣接し、間に扉を設置して直接往来できるようにすること。
 臭気対策を施すこと。
 隣室に音が聞こえることのないように配慮すること。
 1室(婦人科)にシーリング照明灯(50,000lx)()を設置すること。
 婦人科ユニットの足元に排水口を設置すること。
 頭頸部処置室のユニットは壁から70cm離せるようにすること。
 頭頸部外科のファイバーの消毒剤により室内の環境が悪化しないように十分な換気をとること。
 婦人科処置室には脱衣スペースを確保し、カーテンにて仕切ること。
 婦人科処置室の内診台の付近に手すりを設置すること。
 婦人科のユニットは120°回転するので必要なスペースを確保すること。

参考レイアウト



諸室No.	03-03-02-06	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室 名	リニアック室1					室 数	1
面 積	172	m ²	程度	標準寸法	m × m		
用 途	線形加速器システムによる治療（術中照射、全身照射にも対応）を行う（操作室・更衣室を含む）						
平均在室人数	3	人	最大在室人数	7	人		
隣接すべき室名	器材庫						
近接すべき室名	放射線医学物理室						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内に、操作室及び更衣室2室を設けること。</p> <p>壁厚は2.1m以上とし、設計時に遮蔽計算を行い、床、壁、天井について必要な遮蔽を行うこと。</p> <p>床、壁、天井について室外から放射線測定が行えるように部屋の配置に注意をすること。</p> <p>術中照射を行うので、ベッド搬送が可能なスペースを確保し、エレベーターホールに近接させること。</p> <p>治療室の内法面積80m²以上を必ず確保すること。なお、上記面積は遮蔽躯体、迷路、操作室、更衣室、機械室を含めた参考面積である。</p> <p>更衣室の1室は車椅子が利用できる大きさを確保すること。</p> <p>クラス10,000のクリーン度を確保し、HEPAフィルターにて換気処理を行うこと。</p> <p>治療室扉は自動ドアとし、放射線を法的基準以下に遮蔽できること。なお、ベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>殺菌灯を設置すること。</p> <p>天井高は3.8m以上とすること。</p> <p>患者を迷路から照射室に誘導できるように迷路に足元照明を設置すること。</p> <p>照明は調光可能で、リニアックアイソセンター面に十分な照度が得られるものとする。</p> <p>停電時に空調が止まらないように対応すること。</p> <p>照射野ではクラス100のクリーン度を確保すること。</p> <p>无影灯を設置できるようにすること。</p> <p>操作室はフリーアクセスフロアとすること。</p> <p>独立空調とし、装置の発熱量に留意すること。</p> <p>BGM設備を設置すること。</p> <p>必要な治療機器が十分入る部屋とすること。なお、10t以上の荷重に耐えうる構造であること。</p> <p>ITV設備を設置し、操作室で確認できること。</p> <p>4MVのリニアックを移設する予定</p>						

諸室No.	03-03-02-07	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室 名	リニアック室2					室 数	1
面 積	140	m ²	程度	標準寸法	m × m		
用 途	線形加速器システムによる治療を行う（操作室・更衣室を含む）						
平均在室人数	3	人	最大在室人数	5	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名	放射線医学物理室						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内に、操作室及び更衣室2室を設けること。</p> <p>壁厚は2.1m以上とし、設計時に遮蔽計算を行い、床、壁、天井について必要な遮蔽を行うこと。</p> <p>床、壁、天井について室外から放射線測定が行えるように部屋の配置に注意をすること。</p> <p>治療室の内法面積59m²以上を必ず確保すること。なお、上記面積は遮蔽躯体、迷路、操作室、更衣室、機械室を含めた参考面積である。</p> <p>更衣室の1室は車椅子が利用できる大きさを確保すること。</p> <p>治療室扉は自動ドアとし、放射線を法的基準以下に遮蔽できること。なお、ベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>天井高は3.8m以上とすること。</p> <p>患者を迷路から照射室に誘導できるように迷路に足元照明を設置すること。</p> <p>照明は調光可能で、リニアックアイソセンター面に十分な照度が得られるものとする。</p> <p>操作室はフリーアクセスフロアとすること。</p> <p>殺菌灯を設置すること。</p> <p>独立空調とし、装置の発熱量に留意すること。</p> <p>BGM設備を設置すること。</p> <p>必要な治療機器が十分入る部屋とすること。なお、10t以上の荷重に耐えうる構造であること。</p> <p>ITV設備を設置し、操作室で確認できること。</p> <p>6・10MVのリニアックを移設する予定</p>						

諸室No.	03-03-02-08	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室 名	リニアック室3					室 数	1
面 積	131	m ²	程度	標準寸法	m × m		
用 途	線形加速器システムによる治療を行う(操作室・更衣室を含む)						
平均在室人数	3	人	最大在室人数	5	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名	放射線医学物理室						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内に、操作室及び更衣室2室を設けること。</p> <p>壁厚は2.1m以上とし、設計時に遮蔽計算を行い、床、壁、天井について必要な遮蔽を行うこと。</p> <p>床、壁、天井について室外から放射線測定が行えるように部屋の配置に注意をすること。</p> <p>治療室の内法面積59m²以上を必ず確保すること。なお、上記面積は遮蔽躯体、迷路、操作室、更衣室、機械室を含めた参考面積である。</p> <p>更衣室の1室は車椅子が利用できる大きさを確保すること。</p> <p>治療室扉は自動ドアとし、放射線を法的基準以下に遮蔽できること。なお、ベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>天井高は3.8m以上とすること。</p> <p>患者を迷路から照射室に誘導できるように迷路に足元照明を設置すること。</p> <p>照明は調光可能で、リニアックアイソセンター面に十分な照度が得られるものとする。</p> <p>操作室はフリーアクセスフロアとすること。</p> <p>殺菌灯を設置すること。</p> <p>独立空調とし、装置の発熱量に留意すること。</p> <p>BGM設備を設置すること。</p> <p>必要な治療機器が十分入る部屋とすること。なお、10t以上の荷重に耐えうる構造であること。</p> <p>ITV設備を設置し、操作室で確認できること。</p> <p>高精度放射線治療システム()を設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-02-09	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室 名	リニアック室4					室 数	1
面 積	250	m ²	程度	標準寸法	m × m		
用 途	線形加速器システムによる高精度の放射線治療を行う(操作室・更衣室を含む)						
平均在室人数	3	人	最大在室人数	5	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名	放射線医学物理室						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内に、操作室及び更衣室2室を設けること。</p> <p>壁厚は2.1m以上とし、設計時に遮蔽計算を行い、床、壁、天井について必要な遮蔽を行うこと。</p> <p>床、壁、天井について室外から放射線測定が行えるように部屋の配置に注意をすること。</p> <p>治療室の内法面積90m²以上を必ず確保すること。なお、上記面積は遮蔽躯体、迷路、操作室、更衣室、機械室を含めた参考面積である。</p> <p>更衣室の1室は車椅子が利用できる大きさを確保すること。</p> <p>治療室扉は自動ドアとし、放射線を法的基準以下に遮蔽できること。なお、ベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>天井高は3.8m以上とすること。</p> <p>患者を迷路から照射室に誘導できるように迷路に足元照明を設置すること。</p> <p>照明は調光可能で、リニアックアイソセンター面に十分な照度が得られるものとする。</p> <p>操作室はフリーアクセスフロアとすること。</p> <p>殺菌灯を設置すること。</p> <p>独立空調とし、装置の発熱量に留意すること。</p> <p>BGM設備を設置すること。</p> <p>必要な治療機器が十分入る部屋とすること。なお、13t以上の荷重に耐えうる構造であること。</p> <p>ITV設備を設置し、操作室で確認できること。</p> <p>床のコンクリート厚は2.4m以上とし、放射線遮蔽に必要な鉄板を入れること。</p>						

諸室No.	03-03-02-10	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室 名	リニアック室 5					室 数	1
面 積	200 m ²	程 度	標準寸法	m × m			
用 途	線形加速器システムによる治療を行う(操作室・更衣室を含む)						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	5 人				
隣接すべき室名							
近接すべき室名	放射線医学物理室						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内に、操作室及び更衣室2室を設けること。</p> <p>壁厚は2.1m以上とし、設計時に遮蔽計算を行い、床、壁、天井について必要な遮蔽を行うこと。</p> <p>床、壁、天井について室外から放射線測定が行えるように部屋の配置に注意をすること。</p> <p>治療室の内法面積80m²以上を必ず確保すること。なお、上記面積は遮蔽躯体、迷路、操作室、更衣室、機械室を含めた参考面積である。</p> <p>更衣室の1室は車椅子が利用できる大きさを確保すること。</p> <p>治療室扉は自動ドアとし、放射線を法的基準以下に遮蔽できること。なお、ベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>天井高は3.8m以上とすること。</p> <p>患者を迷路から照射室に誘導できるように迷路に足元照明を設置すること。</p> <p>照明は調光可能で、リニアックアイソセンター面に十分な照度が得られるものとする。</p> <p>操作室はフリーアクセスフロアとすること。</p> <p>殺菌灯を設置すること。</p> <p>独立空調とし、装置の発熱量に留意すること。</p> <p>BGM設備を設置すること。</p> <p>必要な治療機器が十分入る部屋とすること。なお、13t以上の荷重に耐えうる構造であること。</p> <p>ITV設備を設置し、操作室で確認できること。</p> <p>装置を設置する床面における耐荷重は2t/m²以上であること。</p>						

諸室No.	03-03-02-11	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室 名	器材庫					室 数	1
面 積	18 m ²	程 度	標準寸法	m × m			
用 途	手術用器材を保管する、がんセンタースタッフが術中照射時の手洗いを行う						
平均在室人数	0 人	最大在室人数	3 人				
隣接すべき室名	リニアック室 1						
近接すべき室名							
内 装							
特記事項	<p>2人用の手術用手洗い装置()1台を設置すること。</p> <p>職員用の個室トイレ1室を設置すること。</p> <p>スタッフが手洗い後すぐにリニアック室1に入れる場所に配置すること。</p>						

諸室No.	03-03-02-12	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室 名	ラルス室					室 数	1
面 積	80 m ² 以上	標準寸法	m × m				
用 途	遠隔操作式小線源治療装置による治療を行う						
平均在室人数	4 人	最大在室人数	6 人				
隣接すべき室名	小線源療法処置室、ラルス操作室						
近接すべき室名	トイレ2						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>設計時に遮蔽計算を行い、床、壁、天井について必要な遮蔽を行うこと。</p> <p>床、壁、天井について室外から放射線測定が行えるように部屋の配置に注意をすること。</p> <p>ベッド搬送が可能なスペースを確保すること。</p> <p>十分な換気設備を設置し、廊下に臭いが漏れることのないようにすること。</p> <p>更衣室は車椅子が利用できる大きさを確保すること。</p> <p>廊下の扉は自動ドアとし、ベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>操作室の床はフリーアクセスフロアとし、将来の機器変更に対応できるように配慮すること。</p> <p>患者を迷路から照射室に誘導できるように迷路に足元照明を設置すること。</p> <p>室内は調光可能とすること。</p> <p>ラルス、CT・X線シミュレータが設置可能な面積を確保すること。</p> <p>BGM設備を設置すること。</p> <p>必要な治療機器が十分入る部屋とすること。</p> <p>ITV設備を設置し、操作室で確認できること。</p> <p>CアームX線装置を設置できるようにすること。</p> <p>ラルス用CTシミュレータ()一式を設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-02-13	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室 名	小線源療法処置室					室 数	1
面 積	36 m ² 以上	標準寸法	m × m				
用 途	ラルス治療の前処置を行う						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	3 人				
隣接すべき室名	ラルス室						
近接すべき室名	トイレ2						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>扉はベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>ファイバーの消毒剤により室内の環境が悪化しないように十分な換気をとること。</p> <p>更衣室を設けること。</p> <p>婦人科ユニットを設置するスペースを確保すること。</p> <p>シーリング照明灯()を設置すること。</p> <p>室内に線源保管庫を設置できるスペースを確保すること。</p> <p>婦人科ユニットの足元に排水口を設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-02-15	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室 名	工作室					室 数	1
面 積	24	m ²	程度	標準寸法	m x m		
用 途	治療補助具の作製を行う						
平均在室人数	1	人	最大在室人数	3	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内 装							
特記事項	<p>音が発生するので、室の配置には留意すること。</p> <p>間仕切は遮音壁とし、音が外に聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>鉛等を溶かすため、室内の環境が悪化しないように十分な換気をとること。</p> <p>I Hヒーターを設置すること。</p> <p>熱、煙が出るので消火設備の感知器に留意すること。</p>						

諸室No.	03-03-02-16	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室 名	放射線データ管理室					室 数	1
面 積	22	m ²	程度	標準寸法	m x m		
用 途	放射線治療装置の治療計画データの管理・保管、放射線管理区域における放射線管理データの管理・保管等を行う						
平均在室人数	1	人	最大在室人数	3	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内 装	<p>がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。</p> <p>フリーアクセスフロアとすること。</p>						
特記事項	<p>コンピュータの発熱による空調に留意すること。</p>						

諸室No.	03-03-02-17	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室 名	放射線医学物理室					室 数	1
面 積	20 m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	放射線治療に係る物理特性の測定・解析等を行う						
平均在室人数	1 人	最大在室人数	3 人				
隣接すべき室名							
近接すべき室名	各リニアック室						
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。						
特記事項	恒温・恒湿制御が必要なため、独立で空調管理ができ、温度湿度が数値で設定できるようにすること。 周囲の振動を拾わないように配慮すること。						

諸室No.	03-03-02-18	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室 名	放射線測定機器管理室					室 数	1
面 積	15 m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	放射線治療装置に係る機器管理の測定器の管理・保管を行う						
平均在室人数	0 人	最大在室人数	0 人				
隣接すべき室名	放射線治療機器管理室						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。						
特記事項	恒温・恒湿制御が必要なため、独立で空調管理ができ、温度湿度が数値で設定できるようにすること。						

諸室No.	03-03-02-19	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室名	放射線治療機器管理室					室数	1
面積	15 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	放射線治療装置に係るアプリケーションやバックアップ用機器の管理・保管を行う						
平均在室人数	0	人	最大在室人数	2	人		
隣接すべき室名	放射線測定機器管理室、全身照射用治療機器管理室						
近接すべき室名							
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。						
特記事項	<p>恒温・恒湿制御が必要なため、独立で空調管理ができ、温度湿度が数値で設定できるようにすること。 騒音が発生するので防音対策を施すこと。</p>						

諸室No.	03-03-02-20	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室名	全身照射用治療機器管理室					室数	1
面積	15 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	骨髄移植に伴う全身照射用機器の管理・保管を行う						
平均在室人数	0	人	最大在室人数	0	人		
隣接すべき室名	放射線治療機器管理室						
近接すべき室名							
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。						
特記事項	<p>恒温・恒湿制御が必要なため、独立で空調管理ができ、温度湿度が数値で設定できるようにすること。 充電用の電源として100Vのコンセントを15以上設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-02-21	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室名	技師控室					室数	1
面積	30 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	放射線技師の控室						
平均在室人数	10 人	最大在室人数	20 人				
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。						
特記事項	壁2面に吊戸棚と20人が執務できる作業台を全面設置し、フリーアドレスで使用できるようにすること。						

諸室No.	03-03-02-22	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室名	倉庫					室数	1
面積	18 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	物品等を保管する						
平均在室人数	0 人	最大在室人数	0 人				
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内装							
特記事項	移動棚を設置するので、適切な床補強を行うこと。						

諸室No.	03-03-02-23	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室名	トイレ1					室数	1
面積	24 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	患者が利用するトイレ						
平均在室人数	0	人	最大在室人数	3	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>男女別に設け、それぞれの大便秘器1据は車椅子対応にすること。</p> <p>男子用トイレには、大便秘器2据及び小便器2据を設置すること。</p> <p>女子用トイレには、大便秘器3据を設置すること。</p> <p>多目的トイレ1室を設けること。</p> <p>多目的トイレはオストメイト対応とすること。</p> <p>多目的トイレにはベビーチェアを設置すること。</p> <p>多目的トイレには収納式多目的シート(ベッド)を設置すること。</p> <p>大便秘器は全て手すりを設けること。</p> <p>小便器及び手洗いは各1か所ずつ手すりを設けること。</p> <p>用具等の収納スペース(1m²程度)を確保すること。</p> <p>適宜、清掃に必要な掃除流しを設けること。</p>						

諸室No.	03-03-02-24	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室名	トイレ2					室数	1
面積	6 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	ラルス室の患者が利用する						
平均在室人数	0	人	最大在室人数	3	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名	ラルス室、小線源療法処置室						
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>大便秘器及び手洗いを備えた個室トイレを2室設置すること。なお、個室トイレの一つは車椅子対応にすること。</p>						

諸室No.	03-03-02-26	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室 名	ラルス操作室					室 数	1
面 積	30	m ²	以上	標準寸法	m × m		
用 途	ラルス装置の操作を行う						
平均在室人数	人		最大在室人数	人			
隣接すべき室名	ラルス室						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。						
特記事項	<p>操作中のスタッフの背後は人が通行できるスペースを確保すること。 床はフリーアクセスフロアとし、将来の機器変更に対応できるように配慮すること。 個別空調とすること。</p>						

諸室No.	03-03-02-27	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	放射線治療
室 名	職員用トイレ					室 数	1
面 積	6	m ²	程度	標準寸法	m × m		
用 途	職員用のトイレ						
平均在室人数	人		最大在室人数	人			
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	大便器及び手洗いを備えた個室トイレを2室設置すること。						

諸室No.	03-03-03-01	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	診察室					室 数	1
面 積	15 m ² 以上	標準寸法	3 m x 4 m				
用 途	核医学部門の患者の診察を行う						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	5 人				
隣接すべき室名	読影室						
近接すべき室名							
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>管理区域外に配置すること。</p> <p>隣室に会話が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>ストレッチャー等の患者に対応できるスペースを確保すること。</p> <p>手洗いの脇にペーパータオルとゴミ置場を設置するスペースを確保すること。</p> <p>扉は引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>診察用デスク()1台、患者用椅子()1台、医師用椅子()1台を設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-03-02	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	読影室					室 数	1
面 積	18 m ² 程度	標準寸法	m x m				
用 途	読影を行う						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	5 人				
隣接すべき室名	診察室						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。						
特記事項	<p>管理区域外に配置すること。</p> <p>個別空調とすること。</p> <p>インターホンを設置し、RI管理室、看護師・薬剤師控室、操作室と会話ができるようにすること。</p>						

諸室No.	03-03-03-03	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	技師準備室					室 数	1
面 積	24	m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	放射線技師が統計データ及び学会等の資料作成・整理等を行う						
平均在室人数	8	人	最大在室人数	10	人		
隣接すべき室名	資料整理室						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>管理区域外に配置すること。</p> <p>資料整理室との間に扉を設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-03-04	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	資料整理室					室 数	1
面 積	15	m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	検査に必要な物品及び資料等の管理を行う						
平均在室人数	0	人	最大在室人数	10	人		
隣接すべき室名	技師準備室						
近接すべき室名							
内 装							
特記事項	<p>管理区域外に配置すること。</p> <p>技師準備室との間に扉を設置すること。</p> <p>検査必要物品管理が円滑に行え整理棚等が配置できること。</p>						

諸室No.	03-03-03-05	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	R I 管理室					室 数	1
面 積	24 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用 途	核医学部門利用の患者の受付等を行う、放射線の監視を行う						
平均在室人数	1 人	最大在室人数	10 人				
隣接すべき室名	汚染検査室						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>R I 管理区域内に配置すること。</p> <p>放射線管理システムを設置し、常時監視が行えるようにすること。夜間休日等は防災センターにて警報が確認できるようなシステムを設置すること。</p> <p>R I 従事者用の 8 人用ロッカーを 2 か所設置できるスペースを確保すること。</p> <p>R I 専用掃除道具入れ等を設置すること。</p> <p>R I 管理区域内入口に前室を設け、前室に面して窓口および出入口を設置すること。</p> <p>前室には30足以上の殺菌下駄箱・インターホンを設置すること。</p> <p>前室はストレッチャーの乗せ換え等に対応できるスペースを確保すること。</p> <p>床ビット、シャフト等を適切に設け、配線が露出しないように配慮すること。</p> <p>インターホンを設置し、看護師・薬剤師控室、操作室、読影室と会話ができるようにすること。</p>						

諸室No.	03-03-03-06	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	汚染検査室					室 数	1
面 積	12 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用 途	放射線の監視及び汚染検査を行う						
平均在室人数	1 人	最大在室人数	4 人				
隣接すべき室名	R I 管理室						
近接すべき室名	看護師・薬剤師控室						
内 装	関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。 耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>室内にシャワー室及び更衣室を設けること。</p> <p>R I 管理区域内に配置すること。</p> <p>人体や作業衣、履物、保護具等の着用物、持込み・特出し物品の表面汚染を検査する測定器（ハンドフットクロスモニタ）、汚染の洗浄設備、汚染除去のための器材、薬剤等を備える必要があり、それらが入るスペースを確保すること。</p> <p>床ビット、シャフト等を適切に設け、配線が露出しないように配慮すること。</p>						

諸室No.	03-03-03-07	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	看護師・薬剤師控室					室 数	1
面 積	12 m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	看護師・薬剤師の控室						
平均在室人数	1 人	最大在室人数	3 人				
隣接すべき室名	情報整理室						
近接すべき室名	汚染検査室						
内 装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	R I管理区域内に配置すること。 机、整理棚等を設置するスペースを有すること。 インターホンを設置し、R I管理室、操作室、読影室と会話ができるようにすること。						

諸室No.	03-03-03-08	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	情報整理室					室 数	1
面 積	12 m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	検査に必要な物品等の管理を行う						
平均在室人数	1 人	最大在室人数	3 人				
隣接すべき室名	看護師・薬剤師控室						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	R I管理区域内に配置すること。 検査必要物品を整理する棚等が配置できること。						

諸室No.	03-03-03-09	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	負荷検査室					室 数	1
面 積	15 m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	負荷心筋の検査を行う						
平均在室人数	5 人	最大在室人数	5 人				
隣接すべき室名	処置室						
近接すべき室名	シンチカメラ室 (SPECT、SPECT-CT)						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>R I 管理区域内に配置すること。</p> <p>負荷心筋検査に必要なエルゴメーター、心電計、除細動器、救急カート、ベッド等が設置でき、安全快適な検査が行うことができるスペースを確保すること。</p> <p>放射線被ばくを避けるため、放射能濃度を考慮した配置とし、医師、技師等と患者の導線及び R I と P E T の導線がなるべく交錯しない位置に配置すること。</p>						

諸室No.	03-03-03-10	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	更衣室 (R I)					室 数	1
面 積	9 m ²	程 度	標準寸法	m x m			
用 途	R I 検査の患者が更衣を行う						
平均在室人数	1 人	最大在室人数	4 人				
隣接すべき室名							
近接すべき室名	トイレ (R I)、処置室、シンチカメラ室 (SPECT、SPECT-CT)						
内 装	関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。 パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>4 人分の更衣室及びロッカーを設けること。</p> <p>椅子を数脚設置できるスペースを確保すること。</p> <p>R I 管理区域内に配置すること。</p> <p>車椅子の患者が利用できる大きさを確保すること。</p> <p>鏡を設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-03-11	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	トイレ (R I)					室 数	1
面 積	10 m ²	程 度	標準寸法	m × m			
用 途	R I 検査の患者等のトイレ						
平均在室人数	2 人	最大在室人数	3 人				
隣接すべき室名							
近接すべき室名	更衣室 (R I)、シンチカメラ室 (S P E C T、S P E C T - C T)						
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>R I 管理区域内に配置すること。</p> <p>R I 専用掃除道具入れ等の設置スペースを確保すること。</p> <p>男女別に、大便器及び手洗いを備えた個室トイレを1室ずつ設置すること。</p> <p>男女兼用の車椅子対応のトイレを1室設置すること。</p> <p>手すりを設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-03-12	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	処置室					室 数	1
面 積	20 m ²	程 度	標準寸法	m × m			
用 途	処置を行う						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	4 人				
隣接すべき室名	負荷検査室、準備室						
近接すべき室名	シンチカメラ室 (S P E C T、S P E C T - C T)、更衣室 (R I)						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>R I 管理区域内に配置すること。</p> <p>診療に必要な R I 投与器、鉛遮蔽板、椅子、整理棚等が設置でき快適な診療を行うことができるスペースを設置すること。</p> <p>放射線被ばくを避けるため、放射能濃度を考慮した配置とし、医師、技師等と患者の導線及び R I と P E T の導線がなるべく交錯しない位置に配置すること。</p> <p>ストレッチャー等の患者に対応できるスペースを確保すること。</p> <p>廊下に、患者間の放射線被ばくに配慮した待合いスペースを設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-03-13	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	準備室					室 数	1
面 積	18 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用 途	R I 検査の患者への投薬準備等を行う						
平均在室人数	1 人	最大在室人数	3 人				
隣接すべき室名	処置室、貯蔵室、廃棄物保管室						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>貯蔵室と直接往来できる位置に配置すること。</p> <p>R I 管理区域内に配置すること。</p> <p>放射性同位元素によって汚染された空気の広がりを防止する R I フードを設置できるようにすること。</p> <p>放射性医薬品投与の準備等をするために鉛遮蔽板、椅子、実験台や放射線測定装置等が設置できるスペースを確保すること。</p> <p>放射線被ばくを避けるため、放射能濃度を考慮した配置とし、医師、技師等と患者の導線及び R I と P E T の導線がなるべく交錯しない位置に配置すること。</p>						

諸室No.	03-03-03-14	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	貯蔵室					室 数	1
面 積	6 m ²	程度	標準寸法	2 m x 3 m			
用 途	R I 検査に使用する核種の保管を行う						
平均在室人数	0 人	最大在室人数	0 人				
隣接すべき室名	準備室、廃棄物保管室						
近接すべき室名							
内 装	関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>準備室と直接往来できる位置に配置すること。</p> <p>R I 管理区域内に配置すること。</p> <p>貯蔵箱、保管棚等が設置できるスペースを確保すること。</p> <p>セキュリティシステムにより入退室管理を行うこと。</p>						

諸室No.	03-03-03-15	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室名	廃棄物保管室					室数	1
面積	15 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	使用済みの放射性同位元素の廃棄用に一定期間の保管を行う						
平均在室人数	0	人	最大在室人数	0	人		
隣接すべき室名	貯蔵室、準備室						
近接すべき室名							
内装	関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>2年間分の廃棄物を十分保管できるスペースを設けること。</p> <p>R I管理区域内に配置すること。</p> <p>廃棄物等の集荷等が容易に行える位置、出入口とすること。</p> <p>床、壁、天井についてはコンクリート20cm相当の放射線防護を行うこと。</p> <p>放射線被ばくを避けるため、放射能濃度を考慮した配置とし、医師、技師等と患者の導線及びR IとP E Tの導線がなるべく交錯しない位置に配置すること。</p> <p>セキュリティシステムにより入退室管理を行なうこと。</p>						

諸室No.	03-03-03-16	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室名	シンチカメラ室 (SPECT)					室数	3
面積	36 m ²	以上	標準寸法	6	m x	6	m
用途	R Iによる体外計測を行う						
平均在室人数	1	人	最大在室人数	4	人		
隣接すべき室名	操作室、シンチカメラ室 (SPECT-CT)						
近接すべき室名	負荷検査室、処置室、更衣室 (R I)、トイレ (R I)						
内装	<p>患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。</p> <p>関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。</p>						
特記事項	<p>R I管理区域内に配置すること。</p> <p>放射線被ばくを避けるため、放射能濃度を考慮した配置とし、医師、技師等と患者の導線及びR IとP E Tの導線がなるべく交錯しない位置に配置すること。</p> <p>床ビット、シャフト等を適切に設け、配線が露出しないように配慮すること。</p> <p>コリメータを設置するので、適切な床補強をすること。</p> <p>床、壁、天井についてはコンクリート15cm相当の放射線防護を行うこと。</p> <p>照明はカバー付埋め込み型とし、リモコン操作ができる天井式无影灯またはスポットライトとすること。</p> <p>待合側の扉は自動ドアとし、ベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>操作室と検査室の間には遮蔽のなされた患者観察用の窓を設けること。</p> <p>個別空調とすること。</p> <p>B G M設備を設置すること。</p> <p>廊下に、患者間の放射線被ばくに配慮した待合スペースを設置すること。</p> <p>I T V設備を設置し、操作室で確認できること。</p> <p>1室にシンチレーションカメラシステム ()一式を設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-03-17	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室名	シンチカメラ室 (SPECT-CT)					室数	1
面積	48 m ² 以上	標準寸法	6 m x 8 m				
用途	RIによる体外計測を行う						
平均在室人数	1 人	最大在室人数	4 人				
隣接すべき室名	操作室、シンチカメラ室 (SPECT)						
近接すべき室名	負荷検査室、処置室、更衣室 (RI)、トイレ (RI)						
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>RI管理区域内に配置すること。</p> <p>待合側の扉は自動ドアとし、ベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>照明はカバー付埋め込み型とし、リモコン操作ができる天井式无影灯またはスポットライトとすること。</p> <p>床、壁、天井についてコンクリート25cm、鉛3mm以上の放射線防護を行うこと。</p> <p>放射線被ばくを避けるため、放射能濃度を考慮した配置とし、医師、技師等と患者の導線及びRIとPETの導線がなるべく交錯しない位置に配置すること。</p> <p>床ピット、シャフト等を適切に設け、配線が露出しないように配慮すること。</p> <p>操作室と検査室の間には遮蔽のなされた患者観察用の窓を設けること。</p> <p>個別空調とすること。</p> <p>BGM設備を設置すること。</p> <p>廊下に、患者間の放射線被ばくに配慮した待合いスペースを設置すること。</p> <p>ITV設備を設置し、操作室で確認できること。</p>						

諸室No.	03-03-03-18	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室名	更衣室 (PET)					室数	1
面積	21 m ² 程度	標準寸法	m x m				
用途	PET検査の患者が更衣を行う						
平均在室人数	4 人	最大在室人数	8 人				
隣接すべき室名	陽電子回復室						
近接すべき室名	陽電子診療室、トイレ (PET)						
内装	関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>患者の被ばくを避けるため、医師、技師等と患者の導線及びRIとPETの導線がなるべく交錯しない位置に配置すること。</p> <p>8人分のコインロッカーを設置するスペースを確保すること。</p> <p>RI管理区域内に配置すること。</p> <p>患者のプライバシーを確保すること。</p> <p>椅子を数脚設置できるスペースを確保すること。</p> <p>男女別に各4人が更衣できるスペースとすること。</p> <p>鏡を設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-03-19	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室名	トイレ(PET)					室数	1
面積	10 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	PET検査の患者等のトイレ						
平均在室人数	2 人	最大在室人数	3 人				
隣接すべき室名							
近接すべき室名	PET-CT室、陽電子回復室、更衣室(PET)、陽電子待機室						
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>RI管理区域内に配置すること。</p> <p>放射線被ばくを避けるため、放射能濃度を考慮した配置とし、医師、技師等と患者の導線及びRIとPETの導線がなるべく交錯しない位置に配置すること。</p> <p>患者のプライバシーを確保すること。</p> <p>男女別に、大便器及び手洗いを備えた個室トイレを1室ずつ設置すること。</p> <p>男女兼用の、車椅子対応のトイレを1室設置すること。</p> <p>RI専用掃除道具入れ等の設置スペースを確保すること。</p>						

諸室No.	03-03-03-20	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室名	陽電子診療室					室数	1
面積	20 m ²	以上	標準寸法	5 m x 4 m			
用途	PET検査前の診察を行う、患者の処置を行う						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	5 人				
隣接すべき室名	陽電子準備室						
近接すべき室名	陽電子待機室、更衣室(PET)						
内装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>RI管理区域内に配置すること。</p> <p>放射線被ばくを避けるため、放射能濃度を考慮した配置とし、医師、技師等と患者の導線及びRIとPETの導線がなるべく交錯しない位置に配置すること。</p> <p>ストレッチャー等の患者に対応できるスペースを確保すること。</p> <p>手洗いの脇にペーパータオルとゴミ置場を設置するスペースを確保すること。</p>						

諸室No.	03-03-03-21	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	陽電子準備室					室 数	1
面 積	12 m ² 以上	標準寸法	m x m				
用 途	PET検査の患者への投薬準備等を行う						
平均在室人数	3 人	最大在室人数	4 人				
隣接すべき室名	陽電子貯蔵室、陽電子診療室						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>RI管理区域内に配置すること。</p> <p>放射線被ばくを避けるため、放射能濃度を考慮した配置とし、医師、技師等と患者の導線及びRIとPETの導線がなるべく交錯しない位置に配置すること。</p> <p>放射性同位元素によって汚染された空気の広がりを防止するRIフードを設置できるようにすること。</p>						

諸室No.	03-03-03-22	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	陽電子貯蔵室					室 数	1
面 積	12 m ² 以上	標準寸法	m x m				
用 途	PET検査に使用する核種の保管を行う						
平均在室人数	0 人	最大在室人数	3 人				
隣接すべき室名	陽電子準備室						
近接すべき室名							
内 装	関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>RI管理区域内に配置すること。</p> <p>陽電子準備室と直接往来できる位置に配置すること。</p> <p>保管棚等が設置できるスペースを確保すること。</p> <p>セキュリティシステムにより入退室管理を行うこと。</p>						

諸室No.	03-03-03-23	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	陽電子待機室					室 数	1
面 積	30 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用 途	PET-CT検査前の患者が待機する						
平均在室人数	4 人	最大在室人数	8 人				
隣接すべき室名	PET-CT室						
近接すべき室名	陽電子診療室、トイレ(PET)						
内 装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>遮蔽パーティション等により個人ごとに遮蔽を行うこと。</p> <p>R I管理区域内に配置すること。</p> <p>患者がリラックスできるインテリアとすること。</p> <p>看護師の被ばく軽減のためナースコールを設置すること。</p> <p>放射線被ばくを避けるため、放射能濃度を考慮した配置とし、医師、技師等と患者の導線及びR IとPETの導線がなるべく交錯しない位置に配置すること。</p> <p>ストレッチャー等の患者に対応できるスペースを確保すること。</p> <p>BGM設備を設置すること。</p> <p>ITV設備を設置し、操作室で確認できること。</p> <p>遮蔽パーティション()を設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-03-24	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	PET-CT室					室 数	2
面 積	60 m ²	以上	標準寸法	6 m x 10 m			
用 途	PET-CT装置による放射線検査を行う						
平均在室人数	1 人	最大在室人数	4 人				
隣接すべき室名	操作室、陽電子待機室						
近接すべき室名	陽電子回復室、トイレ(PET)						
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>R I管理区域内に配置すること。</p> <p>待合側の扉は自動ドアとし、ベッドが通行できる幅員を確保すること。</p> <p>床ビット、シャフト等を適切に設け、配線が露出しないように配慮すること。</p> <p>貯蔵箱を設置するので、適切な床補強を行うこと。</p> <p>床、壁、天井についてコンクリート25cm、鉛3mm相当の放射線防護を行うこと。</p> <p>放射線被ばくを避けるため、放射能濃度を考慮した配置とし、医師、技師等と患者の導線及びR IとPETの導線がなるべく交錯しない位置に配置すること。</p> <p>照明はカバー付埋め込み型とし、リモコン操作ができる天井式无影灯またはスポットライトとすること。</p> <p>操作室と検査室の間には鉛10mm当量以上の遮蔽のなされた患者観察用の窓を設けること。</p> <p>個別空調とすること。</p> <p>BGM設備を設置すること。</p> <p>ITV設備を設置し、操作室で確認できること。</p>						

諸室No.	03-03-03-25	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室名	陽電子回復室					室数	1
面積	30 m ²	程度	標準寸法	m x m			
用途	PET-CT検査後の患者が待機する						
平均在室人数	4 人	最大在室人数	8 人				
隣接すべき室名	更衣室(PET)						
近接すべき室名	トイレ(PET)、PET-CT室						
内装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>遮蔽パーティション等により個人ごとに遮蔽を行うこと。 RI管理区域内に配置すること。 患者がリラックスできるインテリアとすること。 看護師の被ばく軽減のためナースコールを設置すること。 放射線被ばくを避けるため、放射能濃度を考慮した配置とし、医師、技師等と患者の導線及びRIとPETの導線がなるべく交錯しない位置に配置すること。 ストレッチャー等の患者に対応できるスペースを確保すること。 BGM設備を設置すること。 ITV設備を設置し、操作室で確認できること。 遮蔽パーティション()を設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-03-26	種別	中央診療	部門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室名	操作室					室数	1
面積	120 m ²	程度	標準寸法	4 m x 30 m			
用途	PET-CT及びシンチカメラの操作を行う						
平均在室人数	6 人	最大在室人数	10 人				
隣接すべき室名	PET-CT室、シンチカメラ室(SPECT、SPECT-CT)、CPU室						
近接すべき室名							
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>操作室の両側にPET-CTとシンチカメラを配置し、4m以上の巾を確保すること。 RI管理区域内に配置すること。 一画に4m x 2m程度のCRTモニタによる画像の観察、確認を行うスペースを確保すること。 操作者がコントロールパネルの位置から患者を観察するための各検査室の観察窓や区画・自動ドアは必要な遮蔽をおこなうこと。 照明は操作画面に直接光が入らないよう間接光とすること。 床はフリーアクセスフロアとし、将来の機器変更に対応できるように配慮すること。 個別空調とすること。 インターホンを設置し、RI管理室、看護師・薬剤師控室、読影室と会話ができるようにすること。</p>						

諸室No.	03-03-03-27	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	CPU室					室 数	1
面 積	9	m ²	程 度	標準寸法	m x m		
用 途	放射線装置、検査、PACSに必要なCPUを設置する						
平均在室人数	0		人	最大在室人数	3		
隣接すべき室名	操作室						
近接すべき室名							
内 装	関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>RI管理区域内に配置すること。</p> <p>操作室との間に扉を設置すること。</p> <p>床ビット、シャフト等を適切に設け、配線が露出しないように配慮すること。</p> <p>サーバ等を設置するので、空調条件に留意すること。</p>						

諸室No.	03-03-03-28	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	貯留槽ポンプ室					室 数	1
面 積	40	m ²	程 度	標準寸法	m x m		
用 途	管理区域内の排水を減衰期間貯留する						
平均在室人数			人	最大在室人数	人		
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内 装	関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>RI管理区域内に配置すること。</p> <p>外部に設置する場合は、RI管理区域を他のエリアと明確に分けること。</p> <p>主ポンプ故障時のバックアップを含め必要能力を有するポンプを設置すること。</p>						

諸室No.	03-03-03-29	種 別	中央診療	部 門	放射線部門	(機能区分)	核医学検査
室 名	チラー室					室 数	1
面 積	15	m ²	程 度	標準寸法	m x m		
用 途	PET - CT、シンチカメラの冷却装置を設置する						
平均在室人数	人		最大在室人数	人			
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内 装	関係法令に遵守し、放射性同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	<p>冷却装置から熱が放出されるため、熱分散・風通しを考慮した配置すること。</p> <p>R I管理区域内に配置すること。</p> <p>外部に設置する場合は、R I管理区域を他のエリアと明確に分けること。</p> <p>PET - CT室、シンチカメラ室等には温湿度条件を満足させるための循環式の補助空調機等（除湿機・エアコン）が必要であり、これらを設置できるスペースを確保すること。また、この空調機から発生するドレインは放射線排水設備に接続すること。</p>						

諸室No.	03-04-01	種 別	中央診療	部 門	内視鏡
室 名	内視鏡検査室（上部）			室 数	3
面 積	22.5 m ² 以上	標準寸法	5 m x	4.5 m	
用 途	上部の内視鏡検査を行う				
平均在室人数	5 人	最大在室人数	7 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	洗浄室、内視鏡準備室（上部用前処置室）、内視鏡治療室				
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>奥行は5m以上確保すること。</p> <p>内視鏡準備室の上部用前処置室に近い位置に配置すること。</p> <p>各検査室、治療室、洗浄室、資材室、回復室を行き来できるスタッフ廊下を外周に設けること。</p> <p>患者用通路、スタッフ通路側の扉はともに引戸とし、車椅子、ベッドが容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>隣室に音が聞こえないように配慮すること。</p> <p>十分な換気回数を確保し、臭気対策を施すこと。</p> <p>天井コンセント3P×4か所を設置すること。</p> <p>システム等のケーブル類を吊り下げるレールを天井に設置すること。</p> <p>機器の発熱による空調条件に留意すること。</p> <p>診療時間外も空調可能とすること。</p> <p>内視鏡ビデオスコープシステム（ ）一式を設置すること。</p> <p>超音波内視鏡システム（ ）一式を設置すること。</p>				

諸室No.	03-04-02	種 別	中央診療	部 門	内視鏡
室 名	内視鏡検査室（下部）			室 数	2
面 積	22.5 m ² 以上	標準寸法	5 m x	4.5 m	
用 途	下部の内視鏡検査を行う				
平均在室人数	5 人	最大在室人数	7 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	洗浄室、内視鏡準備室（洗腸室）、回復室、内視鏡治療室				
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>奥行きは5m以上確保すること。</p> <p>回復室に近い位置に配置すること。</p> <p>各検査室、治療室、洗浄室、資材室、回復室を行き来できるスタッフ廊下を外周に設けること。</p> <p>患者用通路、スタッフ通路側の扉はともに引戸とし、車椅子、ベッドが容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>隣室に音が聞こえないように配慮すること。</p> <p>十分な換気回数を確保し、臭気対策を施すこと。</p> <p>天井コンセント3P×4か所を設置すること。</p> <p>システム等のケーブル類を吊り下げるレールを天井に設置すること。</p> <p>機器の発熱による空調条件に留意すること。</p> <p>診療時間外も空調可能とすること。</p>				

諸室No.	03-04-03	種 別	中央診療	部 門	内視鏡
室 名	内視鏡治療室			室 数	1
面 積	37.5 m ²	以上	標準寸法	5 m x	7.5 m
用 途	内視鏡治療を行う				
平均在室人数	7	人	最大在室人数	9	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名	内視鏡検査室(上部)、内視鏡検査室(下部)、カンファレンスルーム、洗浄室、内視鏡準備室				
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>内視鏡部門外の廊下からベッド搬送により直接部屋に入れる位置とすること。</p> <p>内視鏡部門外廊下、患者用廊下、スタッフ通路側の扉はすべて引戸とし、車椅子、ベッドが容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>隣室に音が聞こえないように配慮すること。</p> <p>十分な換気回数を確保し、臭気対策を施すこと。</p> <p>天井コンセント3P×4か所を設置すること。</p> <p>機器の発熱による空調条件に留意すること。また、個別空調とすること。</p> <p>システム等のケーブル類を吊り下げるレールを天井に設置すること。</p> <p>診療時間外も空調可能とすること。</p>				

諸室No.	03-04-04	種 別	中央診療	部 門	内視鏡
室 名	内視鏡準備室			室 数	1
面 積	68 m ²	以上	標準寸法	m x	m
用 途	検査・治療の前処置を行う、その他の処置を行う、更衣、更衣後の待合				
平均在室人数	25	人	最大在室人数	40	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名	内視鏡検査室、内視鏡治療室、回復室、画像・機器保管庫、洗浄室、カンファレンスルーム				
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>内視鏡部門の中心に設置すること。</p> <p>室内にトイレ、中待合、上部用前処置室、洗脚室、更衣室を設置すること。</p> <p>出入口を複数作るなど、各部屋への導線を短くするための工夫をすること。</p> <p>室内は車椅子が移動できること。</p> <p>カウンターを設置すること。</p>				

諸室No.	03-04-04-01	種 別	中央診療	部 門	内視鏡
室 名	<トイレ>			室 数	6
面 積	適宜 m ²	標準寸法	m x m		
用 途	前処置用の排泄、検査前後の排泄				
平均在室人数	5 人	最大在室人数	6 人		
隣接すべき室名	中待合、洗腸室				
近接すべき室名					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>内視鏡準備室内に設置すること。</p> <p>患者通路側に面して大便器及び手洗いを設置した個室を5室設け、1室は車椅子用対応とすること。</p> <p>洗腸室用のトイレは別途設けること。</p>				

諸室No.	03-04-04-02	種 別	中央診療	部 門	内視鏡
室 名	<中待合>			室 数	1
面 積	適宜 m ²	標準寸法	m x m		
用 途	患者の待合スペース、 血圧測定、問診表記載を行なう				
平均在室人数	12 人	最大在室人数	18 人		
隣接すべき室名	トイレ、上部用前処置室、洗腸室、更衣室				
近接すべき室名	受付、面談室				
内 装					
特記事項	<p>3人がけの椅子を18人分設置できるスペースを確保すること。</p> <p>車椅子の患者も待つことのできるスペースを確保すること。</p>				

諸室No.	03-04-04-03	種 別	中央診療	部 門	内視鏡
室 名	<上部用前処置室>			室 数	1
面 積	適宜 m ²	標準寸法	m x m		
用 途	上部消化管の検査・治療の前処置を行う				
平均在室人数	4 人	最大在室人数	4 人		
隣接すべき室名	中待合				
近接すべき室名	内視鏡検査室(上部)				
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>内視鏡準備室内の内視鏡検査室(上部)側に設置すること。</p> <p>パーティションにより、リクライニングチェアを設置できるスペースを3か所設けること。</p> <p>入り口には扉を設けず、リクライニングチェアの前にカーテンを設置すること。</p> <p>流し台、保冷庫、戸棚、作業台を設置するスペースを確保すること。</p> <p>上記のスペースは中待合に隣接させ、下剤を置くことができるカウンターを設置すること。</p>				

諸室No.	03-04-04-04	種 別	中央診療	部 門	内視鏡
室 名	<洗腸室>			室 数	1
面 積	6 m ²	程度	標準寸法	3 m x 2 m	
用 途	下部消化管の検査・治療の前処置を行う				
平均在室人数	2 人	最大在室人数	3 人		
隣接すべき室名	中待合、トイレ				
近接すべき室名	内視鏡検査室(下部)				
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>内視鏡準備室内に設置すること。</p> <p>洗腸室専用のトイレを設けること。</p> <p>処置ベッド、作業台を設置するスペースを確保すること。</p> <p>臭気がこもらないように十分な換気回数を確保すること。</p> <p>トイレには大便器、手洗いを設置すること。</p>				

諸室No.	03-04-04-05	種 別	中央診療	部 門	内視鏡
室 名	<更衣室>			室 数	3
面 積	適宜 m ²	標準寸法	m x m		
用 途	検査(下部)・治療のための更衣を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	1 人		
隣接すべき室名	中待合				
近接すべき室名					
内 装					
特記事項	<p>内視鏡準備室内に設置すること。 更衣室は3室設けること。ただし、男女別にする必要はない。 更衣室の対面に12人用ロッカー3台を設置するスペースを確保すること。</p>				

諸室No.	03-04-05	種 別	中央診療	部 門	内視鏡
室 名	回復室			室 数	1
面 積	60 m ² 以上	標準寸法	m x m		
用 途	処置後患者の回復を行う				
平均在室人数	12 人	最大在室人数	20 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	内視鏡検査室(下部)、内視鏡X線TV室、内視鏡準備室				
内 装	患者の療養環境としてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>検査ベッドごとに搬送可能な位置に設置すること。 ベッドを8台、リクライニングチェア8台を並列に設置できるスペースを確保し、カーテンにて仕切ること。 ベッドサイドに引出し付き床頭台を設置できるスペースを確保すること。 入口に近いベッドサイドに医療ガス(O、V)を4か所設置すること。 各ベッド及びリクライニングチェアにナースコールを設置すること。 隣室の音が聞こえないように配慮すること。</p>				

諸室No.	03-04-06	種 別	中央診療	部 門	内視鏡
室 名	面談室			室 数	2
面 積	9 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	患者への結果説明、検査・入院指示、内視鏡治療後の説明を行う				
平均在室人数	4 人	最大在室人数	6 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	内視鏡準備室（中待合）、受付				
内 装					
特記事項	<p>待合室、スタッフ通路側の扉はともに引戸とし、車椅子が容易に通行できる幅員を確保すること。</p> <p>隣室の音が聞こえることのないように配慮すること。</p> <p>手洗いの脇にペーパータオルとゴミ箱を設置するスペースを確保すること。</p> <p>4人がけのテーブルを設置するスペースを確保すること。</p>				

諸室No.	03-04-07	種 別	中央診療	部 門	内視鏡
室 名	受付			室 数	1
面 積	7 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	内視鏡患者の受付を行う、患者に内視鏡の検査説明を行う				
平均在室人数	2 人	最大在室人数	4 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	面談室、内視鏡準備室（中待合）				
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>内視鏡部門の入口に設置すること。</p> <p>他部門との共用も可とする。</p> <p>シャッター等により時間外の管理ができるようにすること。</p> <p>車椅子も対応可能な受付カウンターを設置すること。</p>				

諸室No.	03-04-08	種 別	中央診療	部 門	内視鏡
室 名	画像処理室			室 数	1
面 積	21 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	画像処理、読影を行う				
平均在室人数	5 人	最大在室人数	10 人		
隣接すべき室名	画像・機器保管庫				
近接すべき室名	カンファレンスルーム				
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				
特記事項	隣室に音が聞こえることのないように配慮すること。 ファイリングシステムサーバー収納庫、机2台、椅子10脚、モニターなどが設置できるスペースを確保すること。 内視鏡部門外からも直接入れる位置とすること。				

諸室No.	03-04-09	種 別	中央診療	部 門	内視鏡
室 名	画像・機器保管庫			室 数	1
面 積	20 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	電子画像の保管を行う、 その他機器の保管を行う、 フィルムの保管を行う				
平均在室人数	2 人	最大在室人数	5 人		
隣接すべき室名	画像処理室				
近接すべき室名	カンファレンスルーム、内視鏡準備室				
内 装					
特記事項					

諸室No.	03-04-10	種 別	中央診療	部 門	内視鏡	
室 名	男子職員更衣室				室 数	1
面 積	4 m ²	程 度	標準寸法	m x m		
用 途	職員の更衣を行う					
平均在室人数	0	人	最大在室人数	4	人	
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内 装						
特記事項	8人用ロッカーを2か所設置できるスペースを確保すること。					

諸室No.	03-04-11	種 別	中央診療	部 門	内視鏡	
室 名	女子職員更衣室				室 数	1
面 積	4 m ²	程 度	標準寸法	m x m		
用 途	職員の更衣を行う					
平均在室人数	0	人	最大在室人数	4	人	
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内 装						
特記事項	8人用ロッカーを2か所設置できるスペースを確保すること。					

諸室No.	03-04-12	種 別	中央診療	部 門	内視鏡
室 名	洗浄室	室 数	1		
面 積	45 m ² 以上	標準寸法	m x m		
用 途	スコープ、処置具等の洗浄・消毒を行う				
平均在室人数	3 人	最大在室人数	5 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	内視鏡検査室（上部）、内視鏡検査室（下部）、内視鏡治療室、内視鏡準備室				
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>清潔区域と不潔区域に分けること。</p> <p>スコープ洗浄機5台を設置するスペースを確保すること。</p> <p>スコープ洗浄機の洗浄・消毒剤により室内の環境が悪化しないように十分な換気をとること。</p> <p>病理検査室に通じる小荷物専用昇降機を設置すること。ただし、スタッフ廊下等、別の場所でも可とする。</p> <p>スタッフ通路の巾は2m以上確保すること。</p> <p>流し台と洗い上げたものを置く作業台各2か所を設置すること。</p> <p>下部用として予備洗浄用の大きめの流し台を設置すること。</p> <p>感染性廃棄物などのゴミ箱を置くスペースを確保すること。</p> <p>不潔スコープを置く作業台を置くスペースを確保すること。</p> <p>医療ガス（V）を2口設置すること。</p>				

諸室No.	03-04-12-01	種 別	中央診療	部 門	内視鏡
室 名	<スコープ保管庫>	室 数	1		
面 積	10 m ² 程度	標準寸法	5 m x 2 m		
用 途	洗浄・消毒済の清潔なスコープを保管する				
平均在室人数	3 人	最大在室人数	5 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装					
特記事項	<p>洗浄室内の清潔区域に配置すること。</p> <p>両側に棚を設置してもスコープを持った人がすれ違えるスペースを確保すること。</p>				

諸室No.	03-04-12-02	種 別	中央診療	部 門	内視鏡	
室 名	<資材室>				室 数	1
面 積	10 m ²	程 度	標準寸法	5 m x	2 m	
用 途	ディスク製品等を保管・管理する					
平均在室人数	3 人	最大在室人数	5 人			
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内 装						
特記事項	<p>扉は引戸とし、納入業者がワゴンで納入できる扉の大きさを確保すること。 両側に収納棚を設置しても人がすれ違える通路の巾を確保すること。 湿気がこもらないように十分な換気を行うこと。</p>					

諸室No.	03-04-13	種 別	中央診療	部 門	内視鏡	
室 名	カンファレンスルーム				室 数	1
面 積	25 m ²	程 度	標準寸法	m x	m	以上
用 途	毎日のミーティングを行う 内視鏡拡充時の予備室					
平均在室人数	15 人	最大在室人数	20 人			
隣接すべき室名						
近接すべき室名	画像・機器保管庫、内視鏡治療室、画像処理室、内視鏡準備室					
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項	<p>将来内視鏡検査室として利用できるように、部屋の配置に留意し、仕様は内視鏡検査室と同じのものとすること。</p>					

諸室No.	03-05-01	種 別	中央診療	部 門	リハビリテーション室
室 名	理学療法室・作業療法室			室 数	1
面 積	155 m ²	程 度	標準寸法	m x m	
用 途	身体機能等の回復のための訓練を行う				
平均在室人数	10 人	最大在室人数	15 人		
隣接すべき室名	更衣室、言語聴覚療法室、面談室、カンファレンスルーム				
近接すべき室名	(外来診察室)				
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>床はフローリングとし、下地にクッション材を入れ、転倒時にも怪我のないように配慮すること。</p> <p>脳血管疾患等リハビリテーション料()、運動器リハビリテーション料()、呼吸器リハビリテーション料()の施設基準を満たすものとする。</p>				

諸室No.	03-05-02	種 別	中央診療	部 門	リハビリテーション室
室 名	更衣室			室 数	1
面 積	9 m ²	程 度	標準寸法	m x m	
用 途	患者が更衣を行う				
平均在室人数	4 人	最大在室人数	6 人		
隣接すべき室名	理学療法室・作業療法室				
近接すべき室名					
内 装					
特記事項	<p>2室に分け、8人用ロッカーを1台設置するスペースを確保すること。</p>				

諸室No.	03-05-03	種 別	中央診療	部 門	リハビリテーション室
室 名	面談室			室 数	1
面 積	9 m ²	程 度	標準寸法	m x m	
用 途	リハビリテーションに係る面談や評価を行う				
平均在室人数	4 人	最大在室人数	6 人		
隣接すべき室名	理学療法室・作業療法室				
近接すべき室名					
内 装					
特記事項	間仕切は遮音壁とし、会話が外に聞こえることのないように配慮すること。				
	4人がけのテーブルを設置するスペースを確保すること。				

諸室No.	03-05-04	種 別	中央診療	部 門	リハビリテーション室
室 名	言語聴覚療法室			室 数	1
面 積	12 m ²	程 度	標準寸法	m x m	
用 途	言語機能等の回復のための訓練を行う				
平均在室人数	2 人	最大在室人数	2 人		
隣接すべき室名	理学療法室・作業療法室				
近接すべき室名					
内 装	患者の診療を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	間仕切は遮音壁とし、外部の音が室内に聞こえることのないように配慮すること。				

諸室No.	03-05-05	種 別	中央診療	部 門	リハビリテーション室
室 名	カンファレンスルーム			室 数	1
面 積	12 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	職員の休憩やカンファレンスを行う				
平均在室人数	4 人	最大在室人数	8 人		
隣接すべき室名	理学療法室・作業療法室				
近接すべき室名					
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項					

諸室No.	04-01-01	種別	供給	部門	薬剤部門
室名	調剤室・注射薬補給室			室数	1
面積	285 m ²	以上	標準寸法	m x	m
用途	調剤、注射薬のセット、払出しを行う				
平均在室人数	7	人	最大在室人数	9	人
隣接すべき室名	ミキシング準備室、ミキシングルーム1、ミキシングルーム2、麻薬管理室、物品倉庫、危険物庫、技師室、冷蔵室、検収室、製剤室				
近接すべき室名					
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>ミキシングルーム1から近い場所に、外来化学療法室に直接通じる小荷物専用昇降機（内寸：500mm×500mm×500mm以上 積載荷重：30kg）を設けること。</p> <p>床は薬品棚等の荷重を考慮すること。</p> <p>インターホンを設置し、患者支援センター薬局窓口、検収室と会話ができるようにすること。</p>				

諸室No.	04-01-02	種別	供給	部門	薬剤部門
室名	ミキシング準備室			室数	1
面積	9 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	ミキシング作業の準備等を行う				
平均在室人数	1	人	最大在室人数	2	人
隣接すべき室名	ミキシングルーム1、ミキシングルーム2、調剤室・注射薬補給室				
近接すべき室名					
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>手洗い装置（ ）1台を設置すること。</p>				

諸室No.	04-01-03	種 別	供給	部 門	薬剤部門
室 名	物品倉庫			室 数	1
面 積	12 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用 途	物品等を保管する				
平均在室人数		人	最大在室人数		人
隣接すべき室名	調剤室・注射薬補給室				
近接すべき室名					
内 装					
特記事項					

諸室No.	04-01-04	種 別	供給	部 門	薬剤部門
室 名	危険物庫			室 数	1
面 積	5 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用 途	危険物（アルコール類）を保管する				
平均在室人数	0	人	最大在室人数	1	人
隣接すべき室名	調剤室・注射薬補給室				
近接すべき室名					
内 装					
特記事項	アルコール類の保管を行うので、床、壁、天井を耐火構造又は部屋を防火区画とし、適切な消火設備を設置すること。				

諸室No.	04-01-05	種別	供給	部門	薬剤部門
室名	麻薬管理室			室数	1
面積	17 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	麻薬の払出し等の管理業務を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	1 人		
隣接すべき室名	調剤室・注射薬補給室				
近接すべき室名					
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	セキュリティシステムによる入退室管理を行うこと。				

諸室No.	04-01-06	種別	供給	部門	薬剤部門
室名	技師室			室数	1
面積	54 m ²	以上	標準寸法	m x m	
用途	薬剤師が事務や休憩を行う、医薬品に関する情報の収集・管理を行う				
平均在室人数	8 人	最大在室人数	25 人		
隣接すべき室名	調剤室・注射薬補給室				
近接すべき室名					
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				
特記事項	室内に技師室とD I室を設け、パーテーションで区切ること。				

諸室No.	04-01-07	種 別	供給	部 門	薬剤部門
室 名	冷蔵室			室 数	1
面 積	8 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用 途	温度管理が必要な薬品の保管を行う				
平均在室人数	0	人	最大在室人数	0	人
隣接すべき室名	調剤室・注射薬補給室				
近接すべき室名					
内 装					
特記事項	<p>ブレハブ冷蔵庫として、適切な温度管理（2～8℃）を行うこと。</p>				

諸室No.	04-01-08	種 別	供給	部 門	薬剤部門
室 名	ミキシングルーム 1			室 数	1
面 積	60 m ²	以上	標準寸法	m x m	
用 途	抗がん剤のミキシングを行う				
平均在室人数	6	人	最大在室人数	12	人
隣接すべき室名	ミキシング準備室、調剤室・注射薬補給室				
近接すべき室名	ミキシングルーム 2				
内 装	<p>がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。</p>				
特記事項	<p>調剤室・注射薬補給室に設置する小荷物専用昇降機の近くに配置すること。 クラス10,000のクリーン度を確保すること。 バイオハザード対応を施し、室内の空気が外部に漏れないようにすること。 停電時に空調が止まらないようにすること。 調剤室・注射薬補給室（小荷物専用昇降機付近）との間にバスボックス（500mm x 500mm x 500mm）を2か所設置すること。 専用の空調機械室を別途適宜確保すること。 安全キャビネット（ ）6台を設置すること。</p>				

諸室No.	04-01-09	種別	供給	部門	薬剤部門
室名	ミキシングルーム2			室数	1
面積	36 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	IVH (中心静脈栄養) のミキシングを行う				
平均在室人数	2 人	最大在室人数	4 人		
隣接すべき室名	ミキシング準備室、調剤室・注射薬補給室				
近接すべき室名	ミキシングルーム1				
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>ミキシング準備室との間にバスボックス (500mm x 500mm x 500mm) を2か所設置すること。</p> <p>クリーンベンチ () 2台を設置すること。</p>				

諸室No.	04-01-10	種別	供給	部門	薬剤部門
室名	無菌室			室数	1
面積	10 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	無菌製剤を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	1 人		
隣接すべき室名	製剤室、滅菌室				
近接すべき室名					
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 埃が溜まりにくく清掃が容易に行なえ、部屋の清浄度を保つことができる仕上げとすること。				
特記事項	<p>クラス10,000のクリーン度を確保すること。</p> <p>バイオハザード対応を施し、室内の空気が外部に漏れないようにすること。</p> <p>前室を設け、手洗いを設置すること。</p> <p>製剤室との間にバスボックス (500mm x 500mm x 500mm) を設置すること。</p> <p>安全キャビネット () 1台を設置すること。</p>				

諸室No.	04-01-11	種 別	供給	部 門	薬剤部門
室 名	製剤室			室 数	1
面 積	20 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用 途	院内で使用する薬剤や調剤薬局では取り扱われていない特殊薬の製剤を行う				
平均在室人数	1	人	最大在室人数	1	人
隣接すべき室名	滅菌室、無菌室、調剤室・注射薬補給室				
近接すべき室名					
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	水切り流し台()1台を設置すること。				

諸室No.	04-01-12	種 別	供給	部 門	薬剤部門
室 名	滅菌室			室 数	1
面 積	8 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用 途	オートクレーブを設置し、滅菌を行う				
平均在室人数	1	人	最大在室人数	1	人
隣接すべき室名	製剤室、無菌室				
近接すべき室名					
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	オートクレーブ()を設置し、滅菌に必要な設備を設置すること。				

諸室No.	04-01-14	種 別	供給	部 門	薬剤部門		
室 名	検収室			室 数	1		
面 積	9 m ²	程 度	標準寸法	m x		m	
用 途	入庫薬品の検品を行う、物流センターの検収室を兼ねることも可とする						
平均在室人数	1 人	最大在室人数	1 人				
隣接すべき室名	調剤室・注射薬補給室						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	外部にインターホンを設置し、調剤室・注射薬補給室で応答ができるようにすること。						
	セキュリティシステムによる入退室管理を行うこと。						

諸室No.	04-01-15	種 別	供給	部 門	薬剤部門		
室 名	職員用トイレ			室 数	1		
面 積	9 m ²	程 度	標準寸法	m x		m	
用 途	職員用のトイレ						
平均在室人数	1 人	最大在室人数	3 人				
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内 装							
特記事項	大便器及び手洗いを備えた個室トイレを3室設置すること。						

諸室No.	04-02-01	種 別	供給	部 門	物流管理部門	
室 名	物流センター				室 数	1
面 積	620	m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	診療材料、ME機器、リネンなどの院内の物流を一元的に管理する					
平均在室人数	人		最大在室人数	人		
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項	業務要求水準書「病院運営関係」物流管理運営業務に必要な諸室を設けること。					

諸室No.	04-03-01	種 別	供給	部 門	中央材料滅菌室
室 名	中央材料滅菌室			室 数	1
面 積	400 m ²	程 度	標準寸法	m × m	
用 途	使用後の鋼製小物、医療用材料の一次処理、洗浄及び滅菌作業、滅菌済み器機の保管、受付、払出し業務				
平均在室人数	10 人	最大在室人数	15 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>業務要求水準書「病院運営関係」物流管理運営業務に必要な諸室、設備を設けること。 滅菌業務に必要な設備・機器を設置すること。</p>				

諸室No.	04-04-01	種 別	供給	部 門	栄養管理部門	
室 名	栄養管理科事務室				室 数	1
面 積	56 m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	栄養管理部門の事務を行う、 医師等による検査を行う、 実習生の研修、 新メニューの試作開発・新製品の検討、 打合せを行う					
平均在室人数	6 人	最大在室人数	8 人			
隣接すべき室名	検収室					
近接すべき室名						
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項	<p>業務要求水準書「 病院運営関係」患者給食提供業務に必要な設備を設けること。 8人程度が研修できるスペースを設けること。 研修スペースに電磁調理器付きの流し台を設置すること。 給湯室を設けること。更衣室付近など、栄養管理部門内の別の場所も可とする。 インターホンを設置し、検収室と会話ができるようにすること。</p>					

諸室No.	04-04-02	種 別	供給	部 門	栄養管理部門	
室 名	男子更衣室				室 数	1
面 積	25 m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	栄養管理部門の職員（事業者含む）の更衣、休憩、食事を行う					
平均在室人数	6 人	最大在室人数	10 人			
隣接すべき室名						
近接すべき室名	調理室、下処理室、洗浄室、男子トイレ					
内 装						
特記事項	<p>がんセンタースタッフ用として4人用ロッカー2台を設置するスペースを確保すること。</p>					

諸室No.	04-04-03	種 別	供給	部 門	栄養管理部門		
室 名	男子トイレ					室 数	1
面 積	7 m ²	程 度	標準寸法	m × m			
用 途	栄養管理部門の職員（事業者含む）のトイレ						
平均在室人数	1 人	最大在室人数	2 人				
隣接すべき室名							
近接すべき室名	男子更衣室						
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>栄養管理部門のスタッフ以外の利用ができない位置に配置すること。 トイレで履き替えを行うことを想定した構造とすること。 大便器 1 据及び小便器 2 据を設置すること。 大便器 1 据は車椅子対応にすること。</p>						

諸室No.	04-04-04	種 別	供給	部 門	栄養管理部門		
室 名	女子更衣室					室 数	1
面 積	25 m ²	程 度	標準寸法	m × m			
用 途	栄養管理部門の職員（事業者含む）の更衣、休憩、食事を行う						
平均在室人数	6 人	最大在室人数	12 人				
隣接すべき室名							
近接すべき室名	調理室、下処理室、洗浄室、女子トイレ						
内 装							
特記事項	<p>がんセンタースタッフ用として4人用ロッカー2台を設置するスペースを確保すること。</p>						

諸室No.	04-04-05	種 別	供給	部 門	栄養管理部門		
室 名	女子トイレ				室 数	1	
面 積	7 m ²	程 度	標準寸法	m × m			
用 途	栄養管理部門の職員（事業者含む）のトイレ						
平均在室人数	1 人	最大在室人数	2 人				
隣接すべき室名							
近接すべき室名	女子更衣室						
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>栄養管理部門のスタッフ以外の利用ができない位置に配置すること。 トイレで履き替えを行うことを想定した構造とすること。 大便器2据を設置すること。 大便器1据は車椅子対応にすること。</p>						

諸室No.	04-04-06	種 別	供給	部 門	栄養管理部門		
室 名	物品倉庫				室 数	1	
面 積	11 m ²	程 度	標準寸法	m × m			
用 途	食器、書類等の保管を行う						
平均在室人数	人		最大在室人数	人			
隣接すべき室名							
近接すべき室名	検収室						
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>業務要求水準書「病院運営関係」患者給食提供業務に必要な諸室、設備を設けること。 HACCPに準ずる衛生管理を行うための仕様とすること。</p>						

諸室No.	04-04-07	種別	供給	部門	栄養管理部門	
室名	乾物庫				室数	1
面積	29 m ²	程度	標準寸法	m x m		
用途	米、小麦、砂糖、油、醤油、酒、みりん、乾物、果物（バナナ、柑橘類）を保管する。					
平均在室人数	人		最大在室人数	人		
隣接すべき室名						
近接すべき室名	検収室、下処理室					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	<p>業務要求水準書「病院運営関係」患者給食提供業務に必要な諸室、設備を設けること。 HACCPに準ずる衛生管理を行うための仕様とすること。 室内は温度15 湿度50%以下の空調条件を保つこと。</p>					

諸室No.	04-04-08	種別	供給	部門	栄養管理部門	
室名	倉庫				室数	1
面積	23 m ²	程度	標準寸法	m x m		
用途	缶詰、レトルト、濃厚流動食、栄養補助食品を保管する					
平均在室人数	人		最大在室人数	人		
隣接すべき室名						
近接すべき室名	検収室、下処理室					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	<p>業務要求水準書「病院運営関係」患者給食提供業務に必要な諸室、設備を設けること。 HACCPに準ずる衛生管理を行うための仕様とすること。</p>					

諸室No.	04-04-09	種 別	供給	部 門	栄養管理部門		
室 名	冷凍庫				室 数	1	
面 積	24 m ²	程 度	標準寸法	m × m			
用 途	冷凍食品を保管する						
平均在室人数	人		最大在室人数	人			
隣接すべき室名							
近接すべき室名	検収室、下処理室						
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>業務要求水準書「病院運営関係」患者給食提供業務に必要な諸室、設備を設けること。 HACCPに準ずる衛生管理を行うための仕様とすること。</p>						

諸室No.	04-04-10	種 別	供給	部 門	栄養管理部門		
室 名	冷蔵庫				室 数	1	
面 積	24 m ²	程 度	標準寸法	m × m			
用 途	牛乳・乳製品、肉、魚、野菜、果物等を保管する						
平均在室人数	人		最大在室人数	人			
隣接すべき室名							
近接すべき室名	検収室、下処理室						
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。						
特記事項	<p>業務要求水準書「病院運営関係」患者給食提供業務に必要な諸室、設備を設けること。 HACCPに準ずる衛生管理を行うための仕様とすること。 2室に分け、温度設定を5 と10 に保つこと。</p>						

諸室No.	04-04-11	種 別	供給	部 門	栄養管理部門	
室 名	チルド室				室 数	1
面 積	61	m ²	程 度	標準寸法	m × m	
用 途	調理済みの食品を再加熱するまで保管する					
平均在室人数	人		最大在室人数	人		
隣接すべき室名	調理室					
近接すべき室名	再加熱カート室					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	<p>業務要求水準書「 病院運営関係」患者給食提供業務に必要な諸室、設備を設けること。 HACCPに準ずる衛生管理を行うための仕様とすること。 必要な再加熱カートを保管できるスペースを確保すること。</p>					

諸室No.	04-04-12	種 別	供給	部 門	栄養管理部門	
室 名	検収室				室 数	1
面 積	18	m ²	程 度	標準寸法	m × m	
用 途	食品及び物品の検収（品質、個数、量、納入時間、納入温度の確認）をする					
平均在室人数	3 人		最大在室人数	5 人		
隣接すべき室名	栄養管理科事務室、（サービスヤード）					
近接すべき室名	下処理室、乾物庫、倉庫、冷蔵庫、冷凍庫、物品倉庫					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	<p>業務要求水準書「 病院運営関係」患者給食提供業務に必要な諸室、設備を設けること。 HACCPに準ずる衛生管理を行うための仕様とすること。 外部からの出入口は、セキュリティシステムによる入退室管理を行うこと。 出入口にインターホンを設置し、栄養管理科事務室で応答ができるようにすること。</p>					

諸室No.	04-04-13	種別	供給	部門	栄養管理部門	
室名	下処理室				室数	1
面積	32 m ²	程度	標準寸法	m × m		
用途	食品の下処理（洗浄、皮むき）を行う					
平均在室人数	人		最大在室人数	人		
隣接すべき室名	調理室					
近接すべき室名	倉庫、冷蔵庫、冷凍庫、厨芥処理室、女子更衣室、男子更衣室、乾物庫、検収室					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	<p>業務要求水準書「病院運営関係」患者給食提供業務に必要な諸室、設備を設けること。</p> <p>HACCPに準ずる衛生管理を行うための仕様とすること。</p> <p>すべての食品は下処理室経由で厨房へ搬入する構造とすること。</p> <p>厨房への食品の受け渡しは、バススルー冷蔵庫又はバスボックスによること。</p>					

諸室No.	04-04-14	種別	供給	部門	栄養管理部門	
室名	洗浄室				室数	1
面積	110 m ²	程度	標準寸法	m × m		
用途	再加熱カート、食器、トレイ等を洗浄する					
平均在室人数	4 人		最大在室人数	5 人		
隣接すべき室名	(給食用エレベーター)、調理室					
近接すべき室名	女子更衣室、男子更衣室、厨芥処理室					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	<p>業務要求水準書「病院運営関係」患者給食提供業務に必要な諸室、設備を設けること。</p> <p>HACCPに準ずる衛生管理を行うための仕様とすること。</p> <p>更衣室から調理室を通らずに洗浄室に入れる構造とすること。</p> <p>厨房との間には、消毒済みの食器を厨房から取り出せるように両面庫の熱風消毒保管庫を設置すること。</p>					

諸室No.	04-04-15	種 別	供給	部 門	栄養管理部門	
室 名	再加熱カート室				室 数	1
面 積	85 m ²	程 度	標準寸法	m x m		
用 途	再加熱カートの保管、再加熱を行う					
平均在室人数	人		最大在室人数	人		
隣接すべき室名						
近接すべき室名	(給食用エレベーター)、チルド室					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	<p>業務要求水準書「病院運営関係」患者給食提供業務に必要な諸室、設備を設けること。 HACCPに準ずる衛生管理を行うための仕様とすること。</p>					

諸室No.	04-04-16	種 別	供給	部 門	栄養管理部門	
室 名	調理室				室 数	1
面 積	190 m ²	程 度	標準寸法	m x m		
用 途	食品の調理を行う					
平均在室人数	12 人		最大在室人数	14 人		
隣接すべき室名	下処理室、チルド室、洗浄室					
近接すべき室名	男子更衣室、女子更衣室					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
特記事項	<p>準備室及びエアシャワールームを設け、自動扉を設置すること。 準備室にはエアタオルを設置すること。 業務要求水準書「病院運営関係」患者給食提供業務に必要な諸室、設備を設けること。 HACCPに準ずる衛生管理を行うための仕様とすること。 床はドライ仕様とすること。 室内を温度25 以下、湿度80%以下の空調条件に保つこと。</p>					

諸室No.	04-04-17	種 別	供給	部 門	栄養管理部門	
室 名	厨芥処理室				室 数	1
面 積	10	m ²	程 度	標 準 寸 法	m x	m
用 途	厨房で発生する廃棄物を処理する					
平均在室人数	人		最大在室人数	人		
隣接すべき室名						
近接すべき室名	下処理室、洗浄室					
内 装						
特記事項	<p>患者給食提供業務に必要なスペースを適宜確保すること。</p> <p>業務要求水準書「病院運営関係」患者給食提供業務に必要な諸室、設備を設けること。</p> <p>HACCPに準ずる衛生管理を行うための仕様とすること。</p> <p>臭気が外に漏れないように配慮すること。</p>					

諸室No.	05-01-01	種 別	管理	部 門	管理部門
室 名	所長室			室 数	1
面 積	30 m ²	程 度	標準寸法	m ×	m
用 途	所長が執務を行う				
平均在室人数	1	人	最大在室人数	6	人
隣接すべき室名	応接室				
近接すべき室名	医師管理者室、総務局長室				
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	両袖机及び簡易応接セットを設置するスペースを確保すること。				

諸室No.	05-01-02	種 別	管理	部 門	管理部門
室 名	応接室			室 数	1
面 積	24 m ²	程 度	標準寸法	m ×	m
用 途	来客の応接をする				
平均在室人数	4	人	最大在室人数	8	人
隣接すべき室名	所長室				
近接すべき室名	医師管理者室、給湯室				
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項					

諸室No.	05-01-03	種 別	管理	部 門	管理部門
室 名	総務事務室			室 数	1
面 積	117 m ²	以上	標準寸法	m ×	m
用 途	事務職員が執務を行う				
平均在室人数	24	人	最大在室人数	30	人
隣接すべき室名	給湯室				
近接すべき室名	コピー室、総務局長室				
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				
特記事項	奥行き9m以上とすること。				

諸室No.	05-01-04	種 別	管理	部 門	管理部門
室 名	総務局長室			室 数	1
面 積	18 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用 途	総務局長が執務を行う				
平均在室人数	1	人	最大在室人数	4	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名	所長室、総務事務室				
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	両袖机及び簡易応接セットを設置するスペースを確保すること。				

諸室No.	05-01-05	種別	管理	部門	管理部門
室名	医師管理者室			室数	3
面積	18 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	副所長、副院長等の管理者が執務を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	4 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	所長室、応接室、企画情報部長室				
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	各室は隣接させること。				
	両袖機及び簡易応接セットを設置するスペースを確保すること。				

諸室No.	05-01-06	種別	管理	部門	管理部門
室名	給湯室			室数	1
面積	6 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	給湯を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	2 人		
隣接すべき室名	総務事務室				
近接すべき室名	応接室				
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	隣接する総務事務室とは直接往来できる構造とし、扉を設けること。				

諸室No.	05-01-07	種別	管理	部門	管理部門
室名	コピー室			室数	1
面積	12 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	コピーを行う				
平均在室人数	0	人	最大在室人数	3	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名	総務事務室				
内装					
特記事項	コピー機2台及びシュレッダーを設置するスペースを確保すること。				

諸室No.	05-01-08	種別	管理	部門	管理部門
室名	医局			室数	1
面積	630 m ²	以上	標準寸法	m x	m
用途	医師の執務室、控室として使用する				
平均在室人数	100	人	最大在室人数	130	人
隣接すべき室名	医局応接室、医局ロビー、総合診断室				
近接すべき室名	図書室				
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				
特記事項	<p>出入口を複数箇所設けること。</p> <p>給湯、洗面スペースを2か所程度確保し、パーティションにより仕切ること。</p> <p>ソファを設置するスペースを適宜確保すること。</p> <p>机+引き出しワゴン()130台を設置すること。</p> <p>デスクトップパネル()65台を設置すること。</p> <p>ファイルキャビネット()130台を設置すること。</p>				

諸室No.	05-01-09	種別	管理	部門	管理部門
室名	医局応接室			室数	2
面積	15 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	来客の応接や打合せに使用する				
平均在室人数	2 人	最大在室人数	6 人		
隣接すべき室名	医局				
近接すべき室名	医局ロビー				
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	医局側と廊下側それぞれに扉を設け、医局と直接往来できる構造とすること。				
	医局側の扉は、曇りガラス等により室内が確認できるようにすること。				

諸室No.	05-01-10	種別	管理	部門	管理部門
室名	医局ロビー			室数	1
面積	18 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	医局への来客待合として使用する				
平均在室人数	6 人	最大在室人数	12 人		
隣接すべき室名	医局				
近接すべき室名	医局応接室				
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	医局の入口近辺にオープンスペースとして設けること。				

諸室No.	05-01-11	種別	管理	部門	管理部門
室名	図書室			室数	1
面積	210 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用途	がんセンタースタッフ等に対し、図書の閲覧、貸出、文献検索のサービスを提供する。				
平均在室人数	10 人	最大在室人数	30 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	医局				
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>職員が利用しやすく、静かな環境とすること。</p> <p>貸出しコーナー、雑誌配架コーナー、閲覧机及び閲覧テーブルを設置するスペースを確保すること。</p> <p>移動書架が設置可能な積載荷重とすること。</p> <p>インターネット検索コーナーとしてPC 2台を設置するスペースを確保すること。</p>				

諸室No.	05-01-12	種別	管理	部門	管理部門
室名	看護局長室			室数	1
面積	18 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用途	看護局長が執務を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	6 人		
隣接すべき室名	看護局事務室				
近接すべき室名	看護教育科事務室				
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	両袖机及び簡易応接セットを設置するスペースを確保すること。				

諸室No.	05-01-13	種別	管理	部門	管理部門
室名	看護局事務室			室数	1
面積	36 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	副看護局長等が執務を行う				
平均在室人数	4 人	最大在室人数	16 人		
隣接すべき室名	看護局長室、看護教育科事務室				
近接すべき室名					
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>4人分の事務用机を設置するスペースのほか、10人程度がミーティングできるスペースを確保すること。 看護教育科事務室との間に扉を設け、直接往来できるようにすること。</p>				

諸室No.	05-01-14	種別	管理	部門	管理部門
室名	企画調査室			室数	1
面積	66 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途					
平均在室人数	人		最大在室人数	人	
隣接すべき室名	患者支援センター事務室				
近接すべき室名					
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				
特記事項	患者支援センターに隣接し、天井までのパーティションにより仕切ること。				

諸室No.	05-01-15	種別	管理	部門	管理部門
室名	企画情報部長室			室数	1
面積	18 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	企画情報部長室が執務を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	4 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	医師管理者室				
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	両袖机及び簡易応接セットを設置するスペースを確保すること。				

諸室No.	05-01-16	種別	管理	部門	管理部門
室名	治験管理室			室数	1
面積	90 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	治験管理室の職員が執務を行う				
平均在室人数	12 人	最大在室人数	18 人		
隣接すべき室名	医療安全推進室・院内感染対策室事務室				
近接すべき室名					
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>給湯室を設け、隣接する医療安全推進室・院内感染対策室事務室と共用できるよう扉を設けること。</p> <p>セキュリティシステムにより入退室管理を行うこと。</p> <p>室内をパーティションにより仕切り、打合せスペース2か所(4m x 3m、3m x 3m)及び書庫(3m x 3m)を設置すること。</p> <p>病院棟の1階もしくは2階に設置すること。</p>				

諸室No.	05-01-17	種 別	管理	部 門	管理部門	
室 名	医療安全推進室・院内感染対策室事務室				室 数	1
面 積	40 m ²	程度	標準寸法	m x m		
用 途	医療安全推進室の執務を行う、 院内感染対策室の執務を行う					
平均在室人数	4	人	最大在室人数	10	人	
隣接すべき室名	治験管理室					
近接すべき室名						
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項	<p>10人程度がミーティングできるスペースを確保すること。 間仕切りは遮音壁とし、会話が外に聞こえることのないように配慮すること。 防災センターへの非常呼出設備を設置すること。</p>					

諸室No.	05-01-18	種 別	管理	部 門	管理部門	
室 名	講堂				室 数	1
面 積	280 m ²	程度	標準寸法	m x m		
用 途	講演会、研修会、説明会を行う					
平均在室人数	120	人	最大在室人数	240	人	
隣接すべき室名	講堂ロビー、倉庫 1					
近接すべき室名						
内 装						
特記事項	<p>幅13m以上とすること。 120人分の長机（3人がけで40台）と240人分の椅子（椅子のみの場合）を設置するスペースを確保すること。 舞台は設けずに移動可能な演壇を設置し、床全面をフラットで利用できる形態とすること。 窓がある場合は遮光可能な設備を設けること。 外部者が入りやすい位置に配置すること。 A V装置（ ）一式を設置すること。</p>					

諸室No.	05-01-19	種 別	管理	部 門	管理部門
室 名	講堂ロビー			室 数	1
面 積	40 m ²	程 度	標準寸法	m ×	m
用 途	講堂で開催する講演会、研修会、説明会等の受付や待合として利用する				
平均在室人数	12 人	最大在室人数	24 人		
隣接すべき室名	講堂				
近接すべき室名					
内 装					
特記事項	講堂の入口付近に設置し、オープンスペースとすること。				

諸室No.	05-01-20	種 別	管理	部 門	管理部門
室 名	倉庫1			室 数	1
面 積	48 m ²	程 度	標準寸法	m ×	m
用 途	講堂や会議室で使用する椅子、机等の備品を収納する				
平均在室人数	人	最大在室人数	人		
隣接すべき室名	講堂				
近接すべき室名					
内 装					
特記事項	講堂で使用する椅子、机等の備品を収納できるスペースを確保すること。 出入口は備品を講堂へ搬出入しやすい位置、大きさとすること。				

諸室No.	05-01-21	種 別	管理	部 門	管理部門
室 名	大会議室			室 数	1
面 積	95 m ²	程 度	標準寸法	m × m	
用 途	講演会、研修会、説明会、会議を行う				
平均在室人数	60 人	最大在室人数	90 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装					
特記事項	<p>幅9m以上とすること。</p> <p>72人分の長机（3人がけで24台）と90人分の椅子を設置するスペースを確保すること。</p> <p>舞台は設けず、床全面をフラットで利用できる形態とすること。</p> <p>パーティション等により2つの会議室に仕切れるようにすること。また、それぞれの会議室に対応できる出入口を設けること。</p> <p>A V装置（ ）一式を設置すること。</p>				

諸室No.	05-01-22	種 別	管理	部 門	管理部門
室 名	中会議室			室 数	1
面 積	62 m ²	程 度	標準寸法	m × m	
用 途	会議を行う				
平均在室人数	24 人	最大在室人数	36 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装					
特記事項	<p>36人分の長机（3人がけで12台）と椅子を設置するスペースを確保すること。</p> <p>パーティション等により2つの会議室に仕切れるようにすること。また、それぞれの会議室に対応できる出入口を設けること。</p>				

諸室No.	05-01-23	種別	管理	部門	管理部門
室名	小会議室			室数	3
面積	44 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	会議を行う				
平均在室人数	16	人	最大在室人数	24	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装					
特記事項	24人分の長机(3人がけで8台)と椅子を設置するスペースを確保すること。				

諸室No.	05-01-24	種別	管理	部門	管理部門
室名	総合診断室			室数	1
面積	54 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	医師等が症例検討を行う 会議や説明会、研修会を行う				
平均在室人数	16	人	最大在室人数	24	人
隣接すべき室名	医局				
近接すべき室名					
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>24人分の長机(3人がけで8台)と椅子を設置するスペースを確保すること。</p> <p>電子カルテの画像を写すための大画面ディスプレイ()を設置すること。</p> <p>PC操作コーナーを設置すること。</p> <p>医局側と廊下側それぞれに扉を設け、医局と直接往来できる構造とすること。</p> <p>医局側の扉は、曇りガラス等により室内が確認できるようにすること。</p>				

諸室No.	05-01-25	種別	管理	部門	管理部門
室名	看護研修室			室数	1
面積	30 m ² 以上	標準寸法	m × m		
用途	看護学生等が研修や休憩を行う				
平均在室人数	20 人	最大在室人数	30 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	看護学生30人が休憩できるスペースを確保すること。 18人用ロッカー2台を設置するスペースを確保すること。				

諸室No.	05-01-26	種別	管理	部門	管理部門
室名	医師当直室			室数	2
面積	14 m ² 以上	標準寸法	m × m		
用途	医師が当直を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	1 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	看護師当直室、薬剤師当直室、放射線技師当直室、検査技師当直室				
内装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	病棟へアクセスしやすく、主動線から外れた静かな位置に配置すること。 3点式のユニットバスを設置すること。 事務機及びベッドを設置するスペースを確保すること。				

諸室No.	05-01-27	種別	管理	部門	管理部門
室名	看護師当直室			室数	1
面積	18 m ² 以上	標準寸法	m × m		
用途	看護科長の当直・日直を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	2 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	医師当直室、薬剤師当直室、放射線技師当直室、検査技師当直室				
内装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>病棟へアクセスしやすく、主動線から外れた静かな位置に配置すること。</p> <p>3点式のユニットバスを設置すること。</p> <p>事務機及びベッドを設置するスペースを確保すること。</p>				

諸室No.	05-01-28	種別	管理	部門	管理部門
室名	薬剤師当直室			室数	1
面積	14 m ² 以上	標準寸法	m × m		
用途	薬剤師が当直を行う。				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	1 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	医師当直室、看護師当直室、放射線技師当直室、検査技師当直室				
内装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>病棟へアクセスしやすく、主動線から外れた静かな位置に配置すること。</p> <p>3点式のユニットバスを設置すること。</p> <p>事務機及びベッドを設置するスペースを確保すること。</p>				

諸室No.	05-01-29	種別	管理	部門	管理部門
室名	放射線技師当直室			室数	1
面積	14 m ² 以上	標準寸法	m × m		
用途	放射線技師が当直を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	1 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	医師当直室、看護師当直室、薬剤師当直室、検査技師当直室				
内装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>病棟へアクセスしやすく、主動線から外れた静かな位置に配置すること。 3点式のユニットバスを設置すること。 事務機及びベッドを設置するスペースを確保すること。</p>				

諸室No.	05-01-30	種別	管理	部門	管理部門
室名	検査技師当直室			室数	1
面積	14 m ² 以上	標準寸法	m × m		
用途	検査技師が当直を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	1 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	医師当直室、看護師当直室、薬剤師当直室、放射線技師当直室				
内装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>病棟へアクセスしやすく、主動線から外れた静かな位置に配置すること。 3点式のユニットバスを設置すること。 事務機及びベッドを設置するスペースを確保すること。</p>				

諸室No.	05-01-31	種別	管理	部門	管理部門
室名	医師仮眠室			室数	4
面積	12 m ² 以上	標準寸法	m × m		
用途	医師が仮眠をとる				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	2 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	看護師仮眠室				
内装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>病棟へアクセスしやすく、主動線から外れた静かな位置に配置すること。 2段ベッド1台を設置するスペースを確保すること。</p>				

諸室No.	05-01-32	種別	管理	部門	管理部門
室名	看護師仮眠室			室数	2
面積	12 m ² 以上	標準寸法	m × m		
用途	看護師が仮眠をとる				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	2 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	医師仮眠室				
内装	がんセンタースタッフの控室としてふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>病棟へアクセスしやすく、主動線から外れた静かな位置に配置すること。 2名が仮眠をとれるスペースを設けること、なお2段ベッドも可とする。</p>				

諸室No.	05-01-33	種別	管理	部門	管理部門
室名	看護教育科事務室			室数	1
面積	36 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	看護教育科の職員が執務を行う				
平均在室人数	4 人	最大在室人数	10 人		
隣接すべき室名	看護局事務室				
近接すべき室名	看護局長室				
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	看護局事務室との間に扉を設け、直接往来できるようにすること。				

諸室No.	05-01-34	種別	管理	部門	管理部門
室名	更衣室			室数	1
面積	590 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	職員（事業者含む）が更衣を行う				
平均在室人数	- 人	最大在室人数	200 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装					
特記事項	<p>男女別に設けること。</p> <p>男女別に洗面スペースを設けること。</p> <p>リネン（白衣等）の供給及び回収スペースを設けること。</p> <p>がんセンタースタッフ用に870人分の3人用ロッカーを置けるスペースを確保すること。</p> <p>男女比率は男3～4割、女6～7割程度を参考として面積配分をすること。</p> <p>事業者の使用するロッカーは事業者の負担で設置すること。</p> <p>がんセンタースタッフ用と事業者用とで部屋を分ける必要はないが、最低限ゾーン分けを行うこと。</p> <p>事業者用と兼用する場合は、適宜面積を調整すること。</p> <p>男女合わせて270台の更衣ロッカー（ダイヤル錠タイプ）3人用（ ）を設置すること。</p> <p>セキュリティシステムにより入退室管理を行うこと。</p>				

諸室No.	05-01-35	種 別	管理	部 門	管理部門
室 名	倉庫2			室 数	1
面 積	105 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用 途	文書や物品を保管する				
平均在室人数		人	最大在室人数		人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装					
特記事項					

諸室No.	05-01-36	種 別	管理	部 門	管理部門
室 名	コンピュータ室			室 数	1
面 積	130 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用 途	院内の全情報システムのサーバー室として使用する。コンピュータの訓練を行う。				
平均在室人数	0	人	最大在室人数	20	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>病院棟に設置すること。</p> <p>パーティションにより部屋を2つに分けて、サーバー室(100m²程度)とコンピュータの訓練を行う部屋(30m²程度)を設置すること。</p> <p>個別空調とすること。</p> <p>空調機は予備機を設けること。</p> <p>セキュリティシステムにより最高レベルの入退室管理を行うこと。</p>				

諸室No.	05-01-37	種別	管理	部門	管理部門
室名	カルテ庫			室数	1
面積	300 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	カルテを保管する				
平均在室人数	0	人	最大在室人数	5	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装					
特記事項	<p>2 c m程度のカルテ15万冊を収納できるハンドル式カルテ庫()を設置すること。 移動棚を設置し、適切な床補強を行うこと。 セキュリティシステムにより最高レベルの入退室管理を行うこと。 消火設備はカルテを痛めないものとする。</p>				

諸室No.	05-01-38	種別	管理	部門	管理部門
室名	講堂用トイレ			室数	1
面積	18 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途					
平均在室人数		人	最大在室人数		人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>講堂を配置するフロアーに設置すること。 男女別に設け、それぞれの大便秘器1据は車椅子対応にすること。 男子用トイレには、大便秘器2据、小便器3据及び手洗い2器を設置すること。 女子用トイレには、大便秘器3据及び手洗い2器を設置すること。</p>				

諸室No.	05-01-39	種 別	管理	部 門	管理部門
室 名	職員用トイレ1			室 数	1
面 積	30 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途					
平均在室人数	人		最大在室人数	人	
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>管理・研究棟3階に設置すること。</p> <p>男女別に設け、それぞれの大便器1据は車椅子対応にすること。</p> <p>男子用は、大便器3据、小便器2据及び手洗い2器を設置すること。</p> <p>女子用には、大便器3据及び手洗い2器を設置すること。</p>				

諸室No.	05-01-40	種 別	管理	部 門	管理部門
室 名	職員用トイレ2			室 数	1
面 積	30 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途					
平均在室人数	人		最大在室人数	人	
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>管理・研究棟2階に設置すること。</p> <p>男女別に設け、それぞれの大便器1据は車椅子対応にすること。</p> <p>男子用は、大便器2据、小便器2据及び手洗い1器を設置すること。</p> <p>女子用には、大便器2据及び手洗い1器を設置すること。</p>				

諸室No.	05-02-01	種別	管理	部門	患者支援センター
室名	総合案内			室数	1
面積	4 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	総合案内、面会者受付等を行なう				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	2 人		
隣接すべき室名	(エントランスホール)				
近接すべき室名	待合室				
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				
要求水準	エントランスホール内に設置すること。 車椅子にも対応できる案内カウンターを設置すること。 防災センターへの非常呼出設備を設置すること。				

諸室No.	05-02-02	種別	管理	部門	患者支援センター
室名	患者支援センター事務室			室数	1
面積	230 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	会計、診療報酬請求、診療録管理等医事業務全般、ベッドコントロール、初診問診、アナムネ記入等、地域医療連携業務（各種相談業務含む）を行う				
平均在室人数	40 人	最大在室人数	48 人		
隣接すべき室名	初診受付・検査予約受付、入院受付・相談受付、会計受付・自動精算機、企画調査室、薬局窓口				
近接すべき室名	レセプト審査室、相談個室、集団相談室				
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				
要求水準	患者支援センター内に配置すること。 給湯スペースを設け、パーティションにて仕切ること。 パーティション等により待合室から室内が直接見えないように配慮すること。 セキュリティシステムにより入退室管理を行うこと。				

諸室No.	05-02-02-01	種 別	管理	部 門	患者支援センター			
室 名	<電話相談ブース>					室 数	4	
面 積	適宜	m ²	標準寸法	m ×		m		
用 途	電話による医療相談を行う							
平均在室人数	1		人	最大在室人数	1			人
隣接すべき室名								
近接すべき室名								
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。							
要求水準	患者支援センター事務室内に設置すること。 室外の音によって業務に支障が生じない構造とすること。							

諸室No.	05-02-03	種 別	管理	部 門	患者支援センター			
室 名	レセプト審査室					室 数	1	
面 積	21	m ²	程度	標準寸法	m ×		m	
用 途	書類等の保管及びレセプト作成時の審査室として使用する							
平均在室人数	0		人	最大在室人数	10			人
隣接すべき室名								
近接すべき室名	患者支援センター事務室							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。							
要求水準								

諸室No.	05-02-04	種別	管理	部門	患者支援センター	
室名	職員用トイレ			室数	2	
面積	12 m ²	程度	標準寸法	m × m		
用途	職員が利用するトイレ					
平均在室人数	人		最大在室人数	人		
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
要求水準	<p>車椅子用トイレ1か所を設置すること。</p> <p>男子用は、大便器1据、小便器2据及び手洗い1器を設置すること。</p> <p>女子用には、大便器2据及び手洗い1器を設置すること。</p>					

諸室No.	05-02-05	種別	管理	部門	患者支援センター	
室名	外来者用トイレ			室数	1	
面積	47 m ²	程度	標準寸法	m × m		
用途	外来者が利用するトイレ					
平均在室人数	5	人	最大在室人数	10	人	
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。					
要求水準	<p>男女別に設け、それぞれの大便器1据は車椅子対応にすること。</p> <p>多目的トイレ1室を設けること。</p> <p>男子用トイレには、大便器3据、小便器3据及び手洗い2器を設置すること。</p> <p>女子用トイレには、大便器5据及び手洗い2器を設置すること。</p> <p>多目的トイレはオストメイト対応とすること。</p> <p>多目的トイレにはベビーチェアを設置すること。</p> <p>多目的トイレには収納式多目的シート(ベッド)を設置すること。</p> <p>大便器は全て手すりを設けること。</p> <p>小便器及び手洗いは各1か所ずつ手すりを設けること。</p> <p>適宜、清掃に必要な掃除流しを設けること。</p>					

諸室No.	05-02-06	種 別	管理	部 門	患者支援センター	
室 名	倉庫				室 数	1
面 積	18	m ²	程度	標準寸法	m x m	
用 途	患者支援センターの倉庫として使用する					
平均在室人数	0		人	最大在室人数	3	
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内 装						
要求水準						

諸室No.	05-02-07	種 別	管理	部 門	患者支援センター	
室 名	集団相談室				室 数	1
面 積	37	m ²	程度	標準寸法	m x m	
用 途	集団での医療相談・指導を行う					
平均在室人数	22		人	最大在室人数	24	
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内 装						
要求水準	遮音壁とすること。					

諸室No.	05-02-08	種 別	管理	部 門	患者支援センター
室 名	相談個室			室 数	6
面 積	9 m ²	程 度	標準寸法	m x m	
用 途	個別に医療相談・指導を行う				
平均在室人数	3 人	最大在室人数	6 人		
隣接すべき室名	入院受付・相談受付				
近接すべき室名	患者支援センター事務室				
内 装					
要求水準	<p>遮音壁とすること。</p> <p>扉は、曇りガラスなどにより室内が確認できるようにすること。</p> <p>防災センターへの非常呼出設備を設置すること。</p> <p>各室に4人がけのテーブル（木目調）及び椅子（肘付き・木目調）（ ）一式を設置すること。</p>				

諸室No.	05-02-09	種 別	管理	部 門	患者支援センター
室 名	入院受付・相談受付			室 数	1
面 積	20 m ²	程 度	標準寸法	m x m	
用 途	入院予約、アナムネ記入業務、医療相談受付業務等を行う				
平均在室人数	8 人	最大在室人数	12 人		
隣接すべき室名	初診受付・検査予約受付、患者支援センター事務室、待合室、相談個室				
近接すべき室名					
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
要求水準	<p>初診受付・検査予約受付とは直接往来できる配置とすること。</p> <p>患者支援センター事務室とはパーティション等で仕切り、直接往来できる配置とすること。</p> <p>奥行き3m以上、幅1.5m以上のブースを4つ設けること。</p> <p>ローカウンターを設置し、車椅子が利用できるようにすること。</p> <p>ブース間は、スクリーン付きパネルで仕切るなど相談者のプライバシーに配慮すること。</p> <p>カウンターはシャッター等でセキュリティ対応すること。</p> <p>初診受付・検査予約受付と共通の番号発券機及び表示機（銀行方式）を設置すること。</p> <p>防災センターへの非常呼出設備を設置すること。</p> <p>待合室に直接出られる構造とすること。</p>				

諸室No.	05-02-10	種別	管理	部門	患者支援センター
室名	初診受付・検査予約受付			室数	1
面積	36 m ²	程度	標準寸法	12 m x	3 m
用途	初診受付、外来予約、検査予約・説明等を行う				
平均在室人数	20 人	最大在室人数	30 人		
隣接すべき室名	入院受付・相談受付、患者支援センター事務室、待合室				
近接すべき室名					
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				
要求水準	<p>入院受付・相談受付とは直接往来できる配置とすること。</p> <p>患者支援センター事務室とはパーティション等で仕切り、直接往来できる配置とすること。</p> <p>奥行き3m以上、幅1.5m以上のブースを8つ設けること。</p> <p>受付カウンターを設置し、1か所は車椅子対応のローカウンターとすること。</p> <p>待合室に直接出られる構造とすること。</p> <p>入院受付・相談受付と共通の番号発券機及び表示機（銀行方式）を設置すること</p> <p>防災センターへの非常呼出設備を設置すること。</p>				

諸室No.	05-02-11	種別	管理	部門	患者支援センター
室名	会計受付・自動精算機			室数	1
面積	30 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	診療費の会計業務を行うほか、自動精算機を設置する（5台）				
平均在室人数	4 人	最大在室人数	6 人		
隣接すべき室名	薬局窓口、患者支援センター事務室、待合室				
近接すべき室名	ATMコーナー				
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				
要求水準	<p>自動精算機は、窓口から見える位置に5台設置するスペースを確保すること。</p> <p>オープンカウンターを設置すること。</p> <p>事務機4台を設置するスペースを確保すること。</p> <p>待合室に直接出られる構造とすること。</p>				

諸室No.	05-02-12	種別	管理	部門	患者支援センター
室名	ボランティア室			室数	1
面積	24 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	ボランティアの控室として使用する				
平均在室人数	6 人	最大在室人数	10 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	ボランティアスタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。				
要求水準					

諸室No.	05-02-13	種別	管理	部門	患者支援センター
室名	待合室			室数	1
面積	250 m ²	程度	標準寸法	m x m	
用途	患者支援センター利用者の待合のためのスペース				
平均在室人数	50 人	最大在室人数	90 人		
隣接すべき室名	初診受付・検査予約受付、入院受付・相談受付、会計受付・自動精算機				
近接すべき室名	情報コーナー、総合案内				
内装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。				
要求水準	<p>3人掛け椅子を33台以上設置できるスペースを確保すること。</p> <p>「入院受付・相談受付」側と「初診受付・検査予約受付」側とはローパーティションで仕切るなどゾーンを分け、患者等のプライバシーに配慮すること。</p> <p>使用していないときは壁面に収納できる医療パネルを4か所設置すること。</p> <p>記載台()2台を設置すること。</p> <p>記載台(車いす対応)()2台を設置すること。</p> <p>待合い用椅子(3人掛け)()33台を設置すること。</p>				

諸室No.	05-02-14	種別	管理	部門	患者支援センター
室名	情報コーナー			室数	1
面積	100 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	患者に医療情報等を提供する				
平均在室人数	10 人	最大在室人数	30 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	待合室				
内装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				
要求水準	<p>待合室に面して設置すること。</p> <p>待合室とはガラススクリーン等で仕切るなど、開放感あるスペースとすること。</p> <p>インターネットコーナーとしてPC 3台を設置するスペースを確保すること。</p> <p>丸テーブル() 2台を設置すること。</p> <p>椅子() 26台を設置すること。</p> <p>閲覧テーブル(6人)() 3台を設置すること。</p>				

諸室No.	05-02-15	種別	管理	部門	患者支援センター
室名	薬局窓口			室数	1
面積	27 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	院内処方払出しを行う、服薬指導、薬剤情報提供を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	4 人		
隣接すべき室名	会計受付・自動精算機、患者支援センター事務室				
近接すべき室名					
内装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				
要求水準	<p>専用の小荷物専用昇降機により、薬剤部門から直接薬剤の搬送が可能な位置に配置すること。</p> <p>調剤室・注射薬補給室への呼出装置(インターホン)を設置すること。</p> <p>待合室と事務室側に扉を設置すること。</p> <p>車椅子対応可能な受付カウンターを設置すること。</p>				

諸室No.	05-03-01	種 別	管理	部 門	業務運営部門		
室 名	電話交換室				室 数	1	
面 積	23	m ²	程 度	標準寸法	m x m		
用 途	電話の交換業務を行う						
平均在室人数	2		人	最大在室人数	3		
隣接すべき室名							
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	交換員の休憩及び電話交換設備等の設置に必要なスペースを適宜確保すること。						

諸室No.	05-03-02	種 別	管理	部 門	業務運営部門		
室 名	防災センター				室 数	1	
面 積	26	m ²	程 度	標準寸法	m x m		
用 途	所内の防災管理を行う 救急患者対応など時間外の受付業務を行う						
平均在室人数			人	最大在室人数	人		
隣接すべき室名	(夜間通用口)						
近接すべき室名							
内 装	がんセンタースタッフが執務を行うのにふさわしい仕上げとすること。						
特記事項	夜間通用口の風除室に面して受付窓口を設けること。						
	防災センター職員の休憩スペース等は適宜確保すること。						

諸室No.	05-03-03	種別	管理	部門	業務運営部門	
室名	霊安室				室数	1
面積	54	m ²	以上	標準寸法	m × m	
用途	遺体を安置をする					
平均在室人数	6		人	最大在室人数	16	
隣接すべき室名	解剖前室、病理解剖室					
近接すべき室名						
内装						
特記事項	<p>患者の動線と交錯しない位置とすること。</p> <p>寝台車の停車スペースに速やかに搬出できる場所に配置すること。</p> <p>遺体を安置する部屋を2室設けること。</p> <p>遺体保冷庫を解剖前室との間に設置し、遺体を解剖前室側から入れ、霊安室側から出せるようにすること。</p> <p>各室に宗教色を排した簡易な祭壇を設置すること。</p> <p>病理解剖室と隣接する位置に前室を設置し、直接往来できるようにすること。なお、前室を含めた面積で54m²以上確保すること。</p>					

諸室No.	05-03-04	種別	管理	部門	業務運営部門	
室名	倉庫				室数	1
面積	76	m ²	程度	標準寸法	m × m	
用途	文書や備品等を保管する					
平均在室人数			人	最大在室人数	人	
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内装						
特記事項	<p>物品の搬出入がしやすい配置及び扉とすること。</p>					

諸室No.	05-03-05	種別	管理	部門	業務運営部門	
室名	防災倉庫				室数	1
面積	30 m ²	以上	標準寸法	m x m		
用途	災害時の資機材備蓄倉庫として使用する					
平均在室人数	人		最大在室人数	人		
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内装						
特記事項	<p>食料、飲料水の備蓄スペースは別途確保すること。 災害時に物品を出しやすい配置及び扉とすること。</p>					

諸室No.	05-03-06	種別	管理	部門	業務運営部門	
室名	一般廃棄物集積所				室数	1
面積	110 m ²	程度	標準寸法	m x m		
用途	病院内で収集した一般廃棄物を一時保管する					
平均在室人数	人		最大在室人数	人		
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内装						
特記事項	<p>人目にふれにくく、外部へ搬出しやすい配置及び扉とすること。 適切な保管ができるスペースを確保すること。</p>					

諸室No.	05-03-07	種別	管理	部門	業務運営部門	
室名	医療廃棄物保管庫				室数	1
面積	31 m ²	程度	標準寸法	m × m		
用途	病院内で収集した医療（感染性）廃棄物を一時保管する					
平均在室人数	人		最大在室人数	人		
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内装						
特記事項	<p>特別管理産業廃棄物保管基準に従い配置すること。 人目にふれにくく、外部へ搬出しやすい配置及び扉とすること。 適切な保管ができるスペースを確保すること。</p>					

諸室No.	05-03-08	種別	管理	部門	業務運営部門	
室名	廃液保管庫				室数	1
面積	8 m ²	程度	標準寸法	m × m		
用途	病院内で収集した医療廃棄物（廃油その他の廃液）を一時保管する					
平均在室人数	人		最大在室人数	人		
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内装	耐薬品性の仕上げとすること。					
特記事項	<p>特別管理産業廃棄物保管基準に従い配置すること。 人目にふれにくく、外部へ搬出しやすい配置及び扉とすること。 適切な保管ができるスペースを確保すること。 適切な排気・空調設備を設置すること。 床は水洗いができ、排水設備を備えること。</p>					

諸室No.	05-03-09	種別	管理	部門	業務運営部門	
室名	P C B 廃棄物保管庫				室数	1
面積	8 m ²	程度	標準寸法	m × m		
用途	旧がんセンターで発生したP C B 廃棄物を一時保管する					
平均在室人数	人		最大在室人数	人		
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内装						
特記事項	<p>特別管理産業廃棄物保管基準に従い配置すること。 人目にふれにくく、外部へ搬出しやすい配置及び扉とすること。 適切な保管ができるスペースを確保すること。</p>					

諸室No.	05-03-10	種別	管理	部門	業務運営部門	
室名	S P C 事務室				室数	1
面積	95 m ²	程度	標準寸法	m × m		
用途	S P C の職員が執務を行う					
平均在室人数	人		最大在室人数	人		
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内装						
特記事項						

諸室No.	05-04-01	種別	管理	部門	利便施設
室名	レストラン			室数	1
面積	100 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	主に外来患者及び面会者が利用するレストラン				
平均在室人数	35	人	最大在室人数	70	人
隣接すべき室名	厨房				
近接すべき室名	職員用食堂				
内装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。				
要求水準	<p>外来患者の利便性がよい位置に配置すること。</p> <p>業務要求水準書「病院運営関係」利便施設運営業務に必要な諸室、設備を設けること。</p> <p>車椅子の患者が利用できる施設とすること。</p>				

諸室No.	05-04-02	種別	管理	部門	利便施設
室名	職員用食堂			室数	1
面積	200 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	職員用の食堂				
平均在室人数	100	人	最大在室人数	150	人
隣接すべき室名	厨房				
近接すべき室名	レストラン				
内装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。				
要求水準	<p>業務要求水準書「病院運営関係」利便施設運営業務に必要な諸室、設備を設けること。</p>				

諸室No.	05-04-03	種別	管理	部門	利便施設
室名	厨房			室数	1
面積	145 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	レストラン及び職員食堂の食事の調理を行う				
平均在室人数	人		最大在室人数	人	
隣接すべき室名	レストラン、職員用食堂				
近接すべき室名					
内装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
要求水準	<p>業務要求水準書「病院運営関係」利便施設運営業務に必要な諸室、設備を設けること。 HACCPに準ずる衛生管理を行うための仕様とすること。</p>				

諸室No.	05-04-04	種別	管理	部門	利便施設
室名	コーヒーショップ			室数	1
面積	58 m ²	程度	標準寸法	m x	m
用途	主に外来患者が利用する喫茶室				
平均在室人数	15	人	最大在室人数	25	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名	(エントランスホール)				
内装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。				
要求水準	<p>外来患者等の利便が良い位置に配置すること。 業務要求水準書「病院運営関係」利便施設運営業務に必要な諸室、設備を設けること。</p>				

諸室No.	05-04-05	種別	管理	部門	利便施設
室名	ラウンジ			室数	1
面積	50 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用途	患者、患者の家族等が談話するためのスペース				
平均在室人数	10	人	最大在室人数	20	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。				
要求水準	<p>診療スペースと離れ、外部に面した位置に配置すること。</p> <p>オープンスペースとすること。</p> <p>テラス等を設置するなど、外部に対して開放的で明るい空間とすること。</p> <p>使用していないときは壁面に収納できる医療パネル（OV）を2か所設置すること。</p> <p>音楽会等のイベントを開催できるようにすること。</p> <p>床材はフローリングとすること。</p>				

諸室No.	05-04-06	種別	管理	部門	利便施設
室名	コンビニエンスストア			室数	1
面積	100 m ²	程度	標準寸法	m ×	m
用途	患者、職員等が利用する売店				
平均在室人数	15	人	最大在室人数	30	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。				
要求水準	<p>入院患者等の利便が良い位置に配置し、多数の人が往来する位置は避けること。</p> <p>車椅子や点滴スタンド利用者に配慮した部屋の仕様とすること。</p> <p>業務要求水準書「病院運営関係」利便施設運営業務に必要な諸室、設備を設けること。</p>				

諸室No.	05-04-07	種 別	管理	部 門	利便施設
室 名	理容・美容スペース			室 数	1
面 積	15 m ²	程 度	標準寸法	m ×	m
用 途	ボランティアが運営する理容室・美容室				
平均在室人数	3 人	最大在室人数	6 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	パブリックスペースとしてふさわしい仕上げとすること。				
要求水準	<p>入院患者等の利便が良い位置に配置し、多数の人が往来する位置は避けること。</p> <p>車椅子や点滴スタンド利用者に配慮した構造とすること。</p> <p>シャンプー台1台を設置すること。</p> <p>理容・美容が行える設備一式を設置すること。</p>				

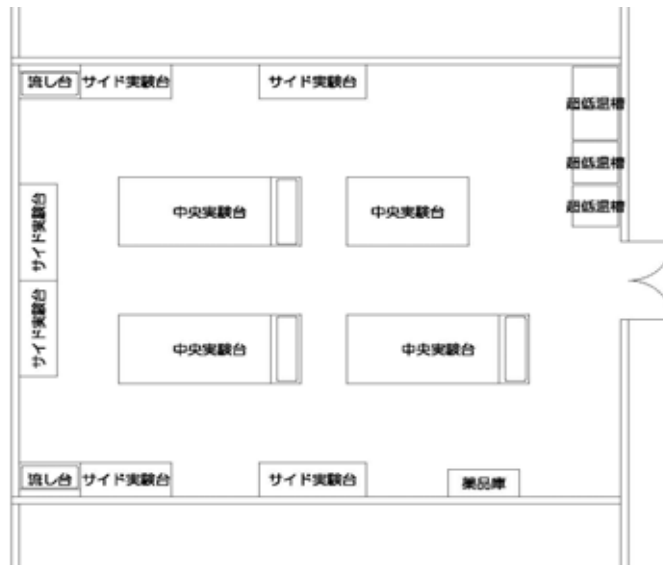
諸室No.	05-04-08	種 別	管理	部 門	利便施設
室 名	ATMコーナー			室 数	1
面 積	6 m ²	程 度	標準寸法	m ×	m
用 途	現金自動預け払い機を設置する				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	1 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	会計受付・自動精算機				
内 装					
要求水準	ATMの設置は別途病院事業庁で行うので、必要な協力を行うこと。				

諸室No.	05-05-01	種 別	管理部門	部 門	福利厚生
室 名	院内保育施設			室 数	1
面 積	300 m ²	程 度	標準寸法	m ×	m
用 途	がんセンタースタッフの児童を預かり、保育を行う				
平均在室人数	35	人	最大在室人数	50	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装					
特記事項	<p>敷地内に別棟で配置すること。</p> <p>患者の療養環境や病院業務に支障が生じない位置に配置すること。</p> <p>保育室は毎年度の児童数の変動に対応できるものとし、原則として1階に設け外部者が侵入しにくいように配慮すること。</p> <p>卒園式、発表会等保護者が参加する行事を行うためのスペース並びに保護者との面接及び病気・不安定な児童が休息するために利用する部屋を設けること。</p> <p>業務要求水準書「病院運営関係」院内保育施設運営業務に必要な諸室、設備を設けること。</p>				

諸室No.	05-05-02	種 別	管理部門	部 門	福利厚生
室 名	組合事務室			室 数	1
面 積	12 m ²	程 度	標準寸法	m ×	m
用 途	職員組合が執務を行う				
平均在室人数	2	人	最大在室人数	6	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装					
特記事項					

諸室No.	06-01-01	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	実験室1 (がん基盤研究部門実験室)			室 数	1
面 積	115 m ²	程 度	標準寸法	m x m	
用 途	がん基盤研究部門の研究課題を実験する				
平均在室人数	7 人	最大在室人数	14	人	
隣接すべき室名	中央機器・共通実験室				
近接すべき室名	実験室2、実験室3				
内 装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				
特記事項	<p>「遺伝子組み換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」により規定されるP2実験室の仕様とすること。</p> <p>隣接する実験室 (R I実験室は除く) への引戸出入口を備えていること。</p> <p>機器搬入のため、扉の巾は1.5m以上、高さ2.1m以上とすること。</p> <p>開口可能な窓を設置すること。</p> <p>床の耐荷重を500kg/m²以上とすること。</p> <p>200V三相および単相電源供給装置を下記の参考図を参考に適切な位置に設置すること。</p> <p>天井にレール式コンセントを適宜設置すること。</p> <p>合計で100A以上の電流容量を確保していること。</p> <p>机上で750lx以上の照度を確保すること。</p> <p>個別空調とし、24時間空調が可能であること。</p> <p>換気空調設備を備え、夏季・冬季において室温が23 ± 3 の範囲内にあること。</p> <p>実験台の上部に空調の風が直接当たらないように配慮すること。</p> <p>各壁面には吊戸棚の取付け可能な補強を設置すること。</p> <p>中央実験台 () 3台を設置すること。</p> <p>実験用流し台 () 2台を設置すること。</p> <p>安全キャビネットを設置できるようにすること。</p>				

参考レイアウト

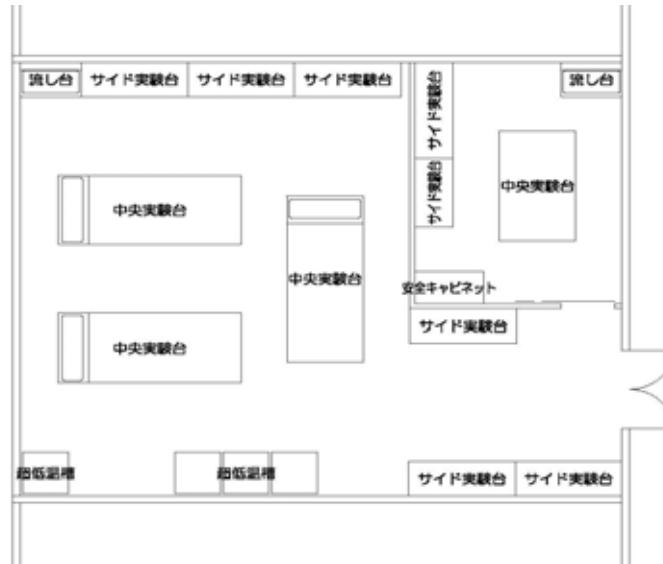


諸室No.	06-01-02	種別	臨床研究所	部門	臨床研究所	
室名	実験室2 (がん分子病態研究部門実験室)				室数	1
面積	115 m ²	程度	標準寸法	m x m		
用途	がん分子病態研究部門の研究課題を実験する					
平均在室人数	10 人	最大在室人数	16 人			
隣接すべき室名	中央機器・共通実験室					
近接すべき室名	実験室1、実験室3					
内装	フリーアクセスフロアとすること。					

特記事項

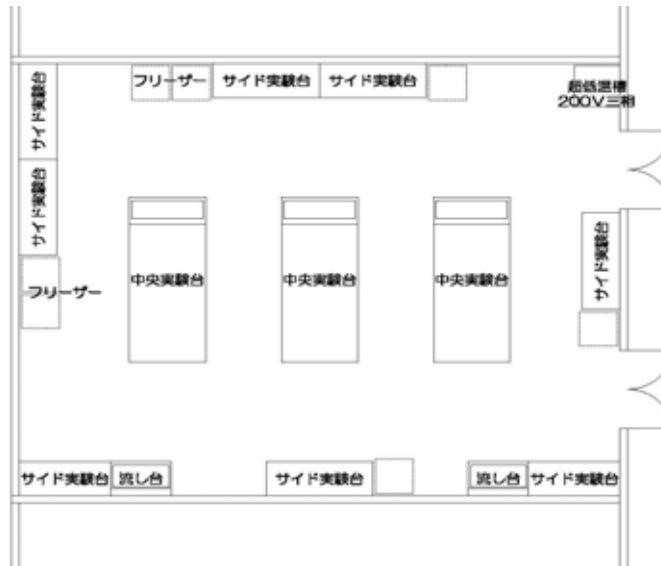
「遺伝子組み換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」により規定されるP2実験室の仕様とすること。
隣接する実験室 (RI実験室は除く) への引戸出入口を備えていること。
機器搬入のため、扉の巾は1.5m以上、高さ2.1m以上とすること。
開口可能な窓を設置すること。
床の耐荷重を500kg/m²以上とすること。
200V三相および単相電源供給装置を下記の参考図を参考に適切な位置に設置すること。
天井にレール式コンセントを適宜設置すること。
合計で100A以上の電流容量を確保していること。
机上で750lx以上の照度を確保すること。
個別空調とし、24時間空調が可能であること。
換気空調設備を備え、夏季・冬季において室温が23 ± 3 の範囲内にあること。
実験台の上部に空調の風が直接当たらないように配慮すること。
室内に6m x 4.5m程度の室内を陰圧とした部屋を設け、外部に空気が漏れないように配慮すること。
陰圧室の空調の給排気はHEPAフィルターを介すること。
陰圧室には殺菌灯を設置し、殺菌灯の紫外線に耐えうる仕上げ材料とすること。
各壁面には吊戸棚の取付け可能な補強を設置すること。
中央実験台 () 3台を設置すること。
実験用流し台 () 2台を設置すること。
安全キャビネットを設置できるようにすること。

参考レイアウト



諸室No.	06-01-03	種別	臨床研究所	部門	臨床研究所	
室名	実験室3 (がん治療開発研究部門実験室)				室数	1
面積	115 m ²	程度	標準寸法	m x m		
用途	がん治療開発研究部門の研究課題を実験する					
平均在室人数	7 人	最大在室人数	14 人			
隣接すべき室名	中央機器・共通実験室					
近接すべき室名	実験室1、実験室2					
内装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。					
特記事項	<p>「遺伝子組み換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」により規定されるP2実験室の仕様とすること。</p> <p>隣接する実験室 (RI実験室は除く) への引戸出入口を備えていること。</p> <p>機器搬入のため、扉の巾は1.5m以上、高さ2.1m以上とすること。</p> <p>開口可能な窓を設置すること。</p> <p>床の耐荷重を500kg/m²以上とすること。</p> <p>200V三相および単相電源供給装置を下記の参考図を参考に適切な位置に設置すること。</p> <p>天井にレール式コンセントを適宜設置すること。</p> <p>合計で100A以上の電流容量を確保していること。</p> <p>机上で750lx以上の照度を確保すること。</p> <p>個別空調とし、24時間空調が可能であること。</p> <p>換気空調設備を備え、夏季・冬季において室温が23 ± 3 の範囲内にあること。</p> <p>実験台の上部に空調の風が直接当たらないように配慮すること。</p> <p>各壁面には吊戸棚の取付け可能な補強を設置すること。</p> <p>室内の空気清浄度がISOクラス7以上であること。</p> <p>中央実験台 () 3台を設置すること。</p> <p>実験用流し台 () 2台を設置すること。</p> <p>安全キャビネットを設置できるようにすること。</p>					

参考レイアウト



諸室No.	06-01-04	種別	臨床研究所	部門	臨床研究所	
室名	がん予防・情報研究部門研究室				室数	1
面積	197 m ²	程度	標準寸法	m x m		
用途	がん予防・情報部門の研究課題を研究する、地域がん登録を行う					
平均在室人数	11 人	最大在室人数	20 人			
隣接すべき室名	研究員室					
近接すべき室名						
内装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。					
特記事項	<p>出入口に施錠ができ、暗証番号等のセキュリティシステム等により特定の人のみの入室が可能であること。</p> <p>室内をパーティションで仕切り、予防・情報研究部門と地域がん登録を行うエリアに分けること。</p> <p>予防・情報研究部門と地域がん登録を行うエリアは直接ドアで往来できること。そのドアも施錠できること。</p> <p>床の耐荷重を300 kg / m²以上とすること。</p> <p>10KW/hの消費電力が可能で20か所以上のコンセントを設置できること。</p> <p>直通の電話回線を設置すること。</p> <p>サーバーを設置するので、空調条件に留意すること。</p>					

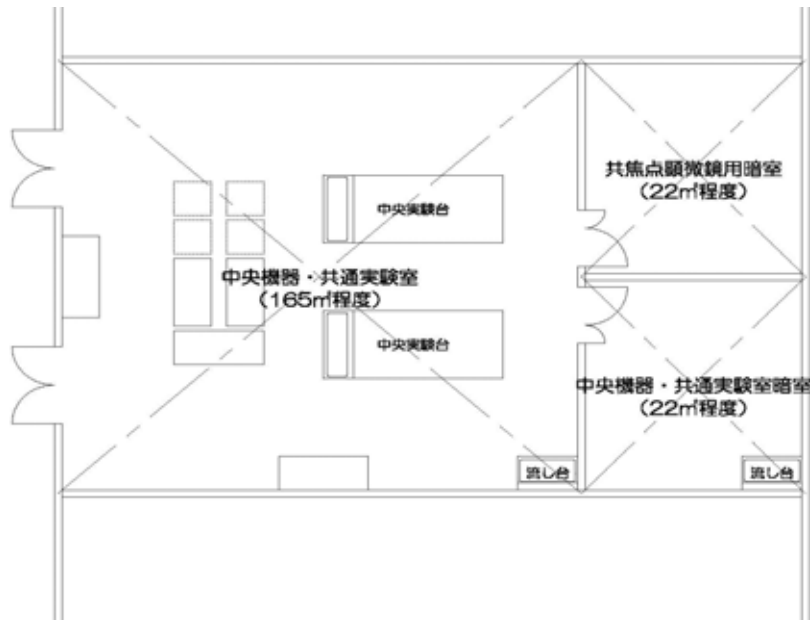
諸室No.	06-01-05	種別	臨床研究所	部門	臨床研究所	
室名	倉庫				室数	1
面積	20 m ²	程度	標準寸法	m x m		
用途	実験で使用する備品、消耗品を保管する					
平均在室人数	0 人	最大在室人数	2 人			
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内装						
特記事項	<p>物品搬入のため、巾1.2m以上の扉とすること。</p> <p>物品保管に支障のない温度、湿度条件とすること。</p>					

諸室No.	06-01-06	種別	臨床研究所	部門	臨床研究所	
室名	中央機器・共通実験室				室数	1
面積	165 m ²	程度	標準寸法	m x m		
用途	大型研究機器及びフリーザー、(超)遠心機等の共用機器を利用する					
平均在室人数	6 人	最大在室人数	10 人			
隣接すべき室名	中央機器・共通実験室暗室、洗浄室、実験室1、実験室2、実験室3					
近接すべき室名	RI実験室、細胞培養室、組織標本作製室、がん臨床研究・情報機構中央機器室					
内装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。					

特記事項

「遺伝子組み換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」により規定されるP2実験室の仕様とすること。
隣接する実験室(RI実験室は除く)への引戸入り口を備えていること。
機器搬入のため、扉の巾は1.5m以上、高さ2.1m以上とすること。
開口可能な窓を設置すること。
床の耐荷重を500kg/m²以上とすること。
200V三相および単相電源供給装置を下記の参考図を参考に適切な位置に設置すること。
天井にレール式コンセントを適宜設置すること。
合計で100A以上の電流容量を確保していること。
机上で750lx以上の照度を確保すること。
個別空調とし、24時間空調が可能であること。
換気空調設備を備え、夏季・冬季において室温が23 ± 3 の範囲内にあること。
実験台の上部に空調の風が直接当たらないように配慮すること。
給湯給水排水の立上り2か所を設置すること。
各壁面には吊戸棚の取付け可能な補強を設置すること。
フリーザーを複数台設置するので、空調条件に留意すること。
中央実験台()2台を設置すること。
実験用流し台()1台を設置すること。

参考レイアウト

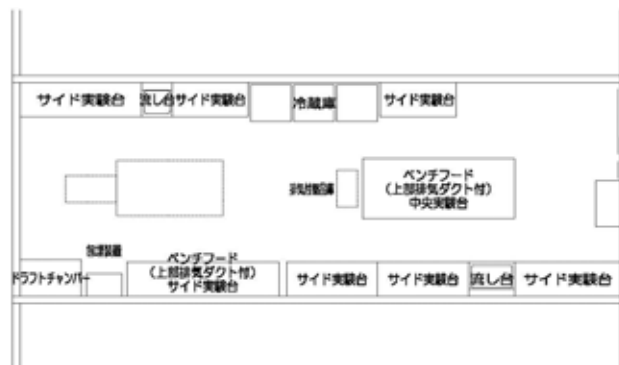


諸室No.	06-01-07	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所	
室 名	共焦点顕微鏡用暗室				室 数	1
面 積	22 m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	共焦点顕微鏡の操作をする					
平均在室人数	3	人	最大在室人数	5	人	
隣接すべき室名						
近接すべき室名	細胞培養室					
内 装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項	<p>床の耐荷重を500kg/m²以上とすること。</p> <p>床の振動によるレーザー共焦点顕微鏡の使用に支障がないように、部屋の配置、床の構造に配慮すること。</p> <p>閉鎖空間で、レーザー共焦点顕微鏡が発熱するので、室温を23 ± 3 に保つことを特に配慮すること。</p> <p>観察試料の上部に空調の風が直接当たらないように配慮すること。</p>					

諸室No.	06-01-08	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所	
室 名	中央機器・共通実験室暗室				室 数	1
面 積	22 m ²	程 度	標準寸法	m × m		
用 途	様々な写真現像を行う					
平均在室人数	2	人	最大在室人数	3	人	
隣接すべき室名	中央機器・共通実験室					
近接すべき室名						
内 装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項	<p>暗室となる構造であること（高感度X線フィルムを5分間放置しても感光しない暗さであること）</p> <p>暗室灯を設置すること。</p> <p>暗室用流し台（ ）1台を設置すること。</p>					

諸室No.	06-01-09	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	組織標本作製室			室 数	1
面 積	58 m ²	程 度	標準寸法	m x m	
用 途	組織標本の作製を行う				
平均在室人数	5 人	最大在室人数	8 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	中央機器・共通実験室				
内 装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				
特記事項	<p>室内を陰圧とし、他研究室への有害ガス暴露を防止すること。</p> <p>ホルマリンを使用するため、法令に遵守した換気設備を設置すること。</p> <p>入り口は、器材搬入ができるように開口部が1.5mの引き戸（のぞき窓付き）にすること。</p> <p>有害ガス発生時、換気ができるようにすること。</p> <p>下記のレイアウトを参考に局所排気用ダクトを設置すること。</p> <p>局所排気はスクラバー等により排気処理して外気に放出すること。また、煙突の位置は病室等に影響のないように配慮すること。</p> <p>200V三相および単相電源供給装置を下記の参考図を参考に適切な位置に設置すること。</p> <p>実験用流し台（ ）2台を設置すること。</p> <p>ドラフトチャンバー（ ）1台を設置すること。</p> <p>ベンチフード3,000幅（上部排気ダクト付き）（ ）を備えた中央実験台（ ）1台を設置すること。</p> <p>ベンチフード1,800幅（上部排気ダクト付き）（ ）を備えたサイド実験台（ ）1台を設置すること。</p> <p>耐震薬品庫（ ）1台を設置すること。</p>				

参考レイアウト



諸室No.	06-01-10	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	R I 実験室			室 数	1
面 積	76 m ²	程 度	標準寸法	m × m	
用 途	放射性同位元素を使った実験を行う				
平均在室人数	2 人	最大在室人数	7 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名	中央機器・共通実験室				
内 装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。 関係法令に遵守し、放射線同位元素を使用するのにふさわしい仕上げとすること。				

特
記
事
項

参考レイアウトを参考に、実験室(33m²程度)、暗室(10m²程度)、線源保管室(6m²程度)、廃棄物保管室(6m²程度)、R I 管理室(8m²程度)、前室・汚染検査室等(12m²程度)を設けること。

R I 管理区域の入口は1か所とすること。ただし、火災時の避難口を設ける場合はこの限りではない。

R I 管理区域に入口には前室を設け、汚染検査室および除染のためのシャワー室を設置すること。

R I 管理室は、R I 管理区域外に設置すること。

実験室に中央実験台()1台を設置すること。

実験室に安全キャビネット()1台を設置すること。

放射線管理システムを設置し、常時監視が行えるようにすること。夜間休日等は防災センターにて警報が確認できるようシステムを設置すること。

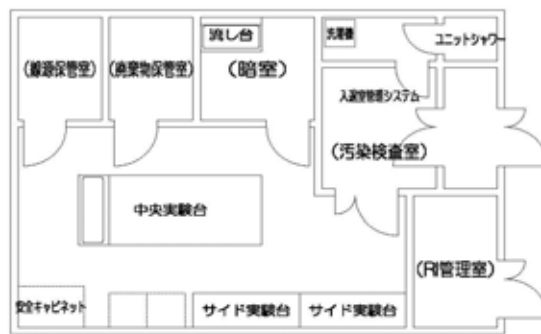
暗室は、照度調節可能な一般照明、安全灯を備えて、かつ、暗室となる構造であること。(また、高感度X線フィルムを5分間放置しても感光しない暗さであること。)

暗室は、現像機等実験機器を稼働させる電気設備を満たしていること。

排水はすべてR I 排液貯留槽に流すこと。また、排気は放射線障害防止法に即してガス浄化装置に導くこと。

暗室には、暗室用流し台()1台を設置すること。

参考レイアウト

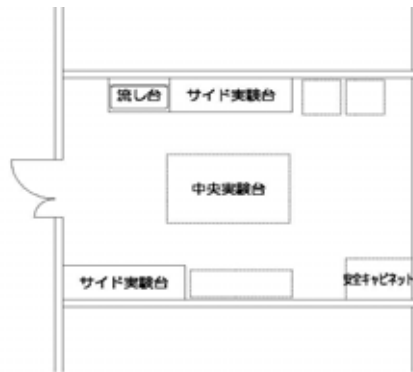


諸室No.	06-01-12	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	P 2 実験室			室 数	1
面 積	35 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	P 2 レベルの実験を行う				
平均在室人数	3	人	最大在室人数	6	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				

特
記
事
項

「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」により規定されるP 2 実験室の仕様とすること。
 室温を23 ± 3 に保つこと。
 滅菌灯を設置すること。
 開閉可能な窓を設置すること。
 合計で60A以上の電流容量を確保していること。
 安全キャビネット () 1台を設置すること。
 実験用流し台 () 1台を設置すること。
 床の耐荷重を500 kg / m²以上とすること。
 机上で750lx以上の照度を確保すること。

参考レイアウト

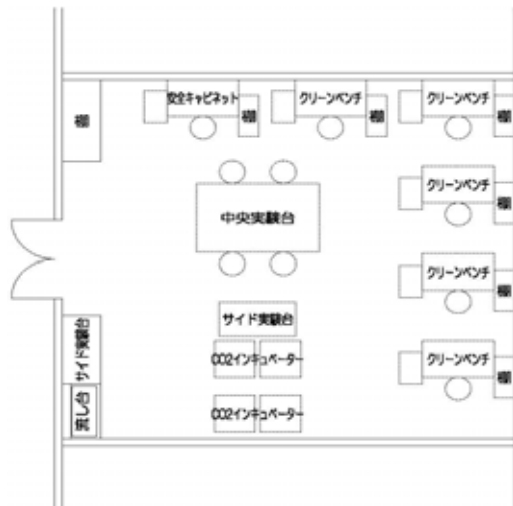


諸室No.	06-01-13	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	細胞培養室			室 数	1
面 積	72 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	細胞の培養を行う				
平均在室人数	7 人	最大在室人数	10	人	
隣接すべき室名					
近接すべき室名	中央機器・共通実験室、共焦点顕微鏡用暗室				
内 装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				

特記事項

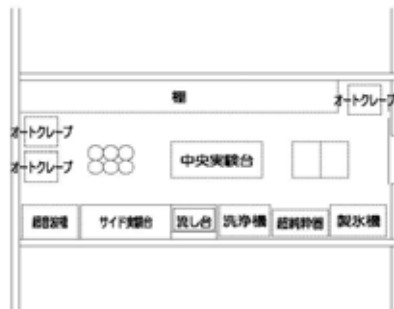
「遺伝子組み換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」により規定されるP2実験室の仕様とすること。
 清浄度はISOクラス7以上であること。常時陽圧とする空調施設を備えること。
 クリーンベンチを5台、安全キャビネット(クラス)を1台設置すること。
 CO₂インキュベーター10台程度を設置できる耐荷重(1000kg程度)を備えること。
 細胞保存用超低温フリーザー1台を設置する耐荷重(1000kg程度)を備えること。
 上記のCO₂インキュベーター10台程度、冷凍冷蔵庫2台程度をまかなう非常電源を確保すること。
 実験用流し台()1台を設置すること。
 クリーンベンチ()5台を設置すること。
 安全キャビネット()1台を設置すること。
 室温を23 ± 3 に保つこと。

参考レイアウト



諸室No.	06-01-14	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	洗浄室			室 数	1
面 積	25 m ²	程 度	標準寸法	m x m	
用 途	洗浄作業及び製氷、純水製造を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	3 人		
隣接すべき室名	中央機器・共通実験室				
近接すべき室名					
内 装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。 耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	<p>床に排水口を設置し、濾水時にも他の部屋へ水が溢れ出ないようにすること。</p> <p>超音波洗浄器、製氷機、超純水作製装置、自動器具洗浄機を設置可能な設備を備えること。</p> <p>ステンレス流し台()1台を設置すること。</p> <p>自動器具洗浄機()を1台を設置すること。</p> <p>超音波洗浄器()1台を設置すること。</p>				

参考レイアウト



諸室No.	06-01-15	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	保冷室			室 数	1
面 積	20 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	試薬等の冷所保存をする、低温実験を行う				
平均在室人数	0	人	最大在室人数	6	人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>前室を設けること。</p> <p>独立した空調装置を2機備えて、室温を4 ± 1 に維持できること。</p> <p>空調装置の一方が故障しても室温を4 ± 2 に維持できること。</p> <p>廊下面に室内温度計を備えていること。</p> <p>廊下面に保冷室内から操作できる緊急警報装置（赤色灯とサイレン）を備えていること。</p> <p>保冷室、前室にそれぞれ熱交換器を備えた換気装置を設置すること。</p> <p>冷却装置は非常電源に接続可能で停電時にも作動すること。</p>				

諸室No.	06-01-16	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	研究員室			室 数	1
面 積	158 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	研究員がデスクワークを行う				
平均在室人数	24	人	最大在室人数	30	人
隣接すべき室名	がん予防・情報研究部門研究室				
近接すべき室名					
内 装	<p>研究所スタッフが執務を行なうのにふさわしい仕上げとすること。</p> <p>フリーアクセスフロアとすること。</p>				
特記事項	<p>内線電話とは別に直通電話回線を備えていること。</p> <p>遮音壁とし、周囲の騒音が執務に影響しないように配慮すること。</p> <p>遮音壁により20m²程度を作業室として仕切り、内部を可動間仕切りにより2室に分けて使用できるようにすること。（それぞれの部屋から研究員室に直接アクセスできること）。</p> <p>24時間空調が可能な個別空調とすること。</p>				

諸室No.	06-01-17	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	臨床研究所長室			室 数	1
面 積	18 m ²	程 度	標準寸法	m x m	
用 途	臨床研究所長が執務を行う				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	2 人		
隣接すべき室名	臨床研究所長応接室				
近接すべき室名					
内 装	研究所スタッフが執務を行なうのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	両袖机及び簡易応接セットを設けるスペースを確保すること。				

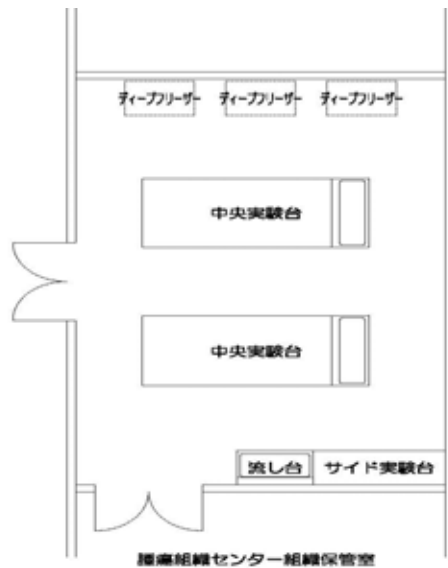
諸室No.	06-01-18	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	臨床研究所長応接室			室 数	1
面 積	15 m ²	程 度	標準寸法	m x m	
用 途	来客の応接をする				
平均在室人数	0 人	最大在室人数	12 人		
隣接すべき室名	臨床研究所長室				
近接すべき室名					
内 装					
特記事項	PCプロジェクターを投影できる構造とすること。				

諸室No.	06-01-19	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	がん臨床研究・情報機構事務室			室 数	1
面 積	21 m ²	程 度	標準寸法	m ×	m
用 途	がん臨床研究情報機構の事務を行う				
平均在室人数	5 人	最大在室人数	9	人	
隣接すべき室名	がん臨床研究・情報機構電話相談室				
近接すべき室名					
内 装	研究所スタッフが執務を行なうのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>直通電話回線を1本設置すること。</p> <p>流し台、給湯設備をがん臨床研究・情報機構電話相談室と共有できる構造とすること。</p>				

諸室No.	06-01-20	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	がん臨床研究・情報機構電話相談室			室 数	1
面 積	21 m ²	程 度	標準寸法	m ×	m
用 途	電話相談を行う				
平均在室人数	3 人	最大在室人数	7	人	
隣接すべき室名	がん臨床研究・情報機構事務室				
近接すべき室名					
内 装	研究所スタッフが執務を行なうのにふさわしい仕上げとすること。				
特記事項	<p>電話相談事業用に直通の電話回線が2回線あること。現在の電話番号を継続できること。</p> <p>遮音壁として周囲の騒音の影響を受けないようにすること。</p> <p>ストレスフルな業務に配慮したインテリア計画とすること。</p> <p>がん臨床研究・情報機構事務室の流し台、給湯設備を共有できる構造とすること。</p>				

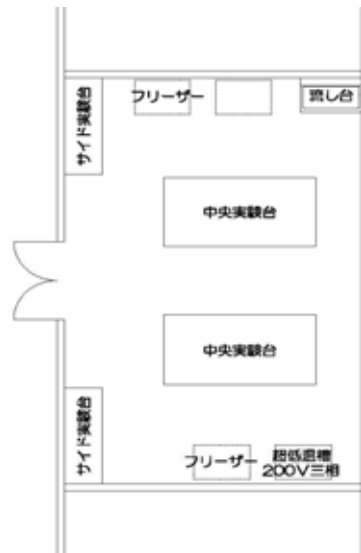
諸室No.	06-01-21	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	がん臨床研究・情報機構実験室			室 数	1
面 積	54 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	がん臨床研究情報機構で必要な外部機関での簡易実験を行う				
平均在室人数	5 人	最大在室人数	12	人	
隣接すべき室名	腫瘍組織センター組織保管室				
近接すべき室名	がん臨床研究・情報機構中央機器室				
内 装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				
特記事項	<p>「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」により規定されるP2実験室の仕様とすること。</p> <p>換気空調設備を備え、夏季・冬季において室温が23 ± 3 の範囲内にあること。</p> <p>実験台の上部に空調の風が直接当たらないように配慮すること。</p> <p>合計で100A以上の電流容量を確保していること。</p> <p>病院棟からアクセスのよい位置に配置すること。</p> <p>中央実験台 () 2台を設置すること。</p> <p>実験用流し台 () 1台を設置すること。</p> <p>腫瘍組織センター組織保管室への出入り口を設置し、最高レベルのセキュリティシステムにより入退室管理を行うこと。</p> <p>開口可能な窓を設置すること。</p> <p>床の耐荷重を500 kg / m²以上とすること。</p> <p>200V三相および単相電源供給装置を下記の参考図を参考に適切な位置に設置すること。</p> <p>天井にレール式コンセントを適宜設置すること。</p> <p>机上で750lx以上の照度を確保すること。</p> <p>各壁面には吊戸棚の取付け可能な補強を設置すること。</p>				

参考レイアウト



諸室No.	06-01-22	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	がん臨床研究・情報機構中央機器室			室 数	1
面 積	54 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	がん臨床研究情報機構で必要な外部機関での予備実験を行う				
平均在室人数	5 人	最大在室人数	12	人	
隣接すべき室名					
近接すべき室名	中央機器・共通実験室、がん臨床研究・情報機構実験室				
内 装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				
特記事項	<p>「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」により規定されるP2実験室の仕様とすること。</p> <p>換気空調設備を備え、夏季・冬季において室温が23 ± 3 の範囲内にあること。</p> <p>実験台の上部に空調の風が直接当たらないように配慮すること。</p> <p>合計で100A以上の電流容量を確保していること。</p> <p>実験用流し台()1台を設置すること。</p> <p>床の耐荷重を500kg/m²以上とすること。</p> <p>200V三相および単相電源供給装置を下記の参考図を参考に適切な位置に設置すること。</p> <p>天井にレール式コンセントを適宜設置すること。</p> <p>机上で750lx以上の照度を確保すること。</p> <p>各壁面には吊戸棚の取付け可能な補強を設置すること。</p>				

参考レイアウト



諸室No.	06-01-23	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	腫瘍組織センター組織保管室			室 数	1
面 積	58 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	超低温槽を設置し、研究材料としての腫瘍組織の保管を行う				
平均在室人数	2 人	最大在室人数	3	人	
隣接すべき室名	がん臨床研究・情報機構実験室				
近接すべき室名					
内 装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。 フリーアクセスフロアとすること。				
特記事項	<p>-80 超低温庫を6台設置可能な耐荷重量、電気設備を有すること。 最高レベルのセキュリティシステムにより入退室管理を行うこと。 超低温槽の発熱による空調条件に留意すること。 室温を常時25 以下に保つこととし、停電時にも空調が止まることのないようにすること。 大型機器の搬入口を別途設置すること。なお、この扉は内側からのみ開扉可能なものとすること。</p> <p>-80 超低温庫6台分の非常電源を確保すること。 入退室はがん臨床研究・情報機構実験室側出入り口経由のみとなるような構造にすること（緊急時には大型機器搬入口を使用）。</p>				

諸室No.	06-01-24	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所	
室 名	実験動物施設				室 数	1
面 積	220 m ² 以上	標準寸法	m × m			
用 途	実験動物の飼育及び動物実験を行う					
平均在室人数	2 人	最大在室人数	6 人			
隣接すべき室名						
近接すべき室名						
内 装	耐薬品性を有し、検査や研究を行なうのにふさわしい仕上げとすること。					
特記事項	<p>バリア区画（SPF）及びコンベンショナル区画を備えること。</p> <p>大型機器搬入口を設けること。</p> <p>前室を備えた検疫室を設けること。</p> <p>ケージの洗浄室、飼料倉庫及び動物の死体置場を設けること。</p> <p>3室以上の後室を備えたSPF飼育室、1室以上の前室を備えたコンベンショナル飼育室を設けること。</p> <p>SPF飼育室では少なくともマウス800匹、ラット100匹を飼育できるスペースを確保すること。</p> <p>コンベンショナル飼育室では少なくともマウス400匹を飼育できるスペースを確保すること。</p> <p>下記の差圧制御により部屋のクリーン度を保つこと。（+が多いほど陽圧が高い部屋とする）</p> <p>+++：マウス飼育室、ラット飼育室、クリーン実験室</p> <p>++：クリーン廊下</p> <p>++：クリーン準備室、クリーン廊下前室</p> <p>＋：前室、更衣室、検疫受入室、検疫室、後室</p> <p>廊下等については外部に対して陰圧に保ち、動物飼育施設内の空気が外部に出ないように配慮すること。</p> <p>飼育室にはネズミ返しを設置し、飼育動物の外部への逃出しを防止すること。</p> <p>日本建築学会のガイドライン（実験動物施設の建築および設備）、日本学会会議のガイドライン、厚生労働省の指針を全て満たした施設であること。</p> <p>動物実験施設はICカード、指紋認証、掌紋認証のいずれかの方法により、独立した出入室管理区域となっていること。</p> <p>飼育室、前室、後室、廊下の温度が23 ± 3 で湿度が50 ± 10%であること。</p> <p>SPF区画内は周辺廊下より20Pa以上の陽圧であること。</p> <p>SPF飼育室の空気清浄度はISOクラス5以上、コンベンショナル飼育室の空気清浄度はISOクラス6以上であること。</p> <p>SPF区画の空気清浄度がISOクラス6以上、コンベンショナル区画の空気清浄度がISOクラス7以上であること。</p> <p>空調設備は各種法令、指針、基準に適合した排気となるような殺菌装置、脱臭装置を備えていること。</p> <p>SPF区画内への人の出入りには前室、エアシャワーを介して塵芥、細菌を移入させないように配慮されていること。</p> <p>大型オートクレーブ、自動ケージ洗浄機の設置に必要な蒸気（250kg/h程度）を供給できるようにすること。</p> <p>各区画の廊下、各区画の実験室、管理室、洗浄室は内線電話を備えていること。</p> <p>管理室で各飼育室の温度、湿度、空気清浄度が常時モニターできること。</p> <p>飼育エリアはホルマリン薫蒸が可能な設備とすること。</p> <p>オートクレーブ（ ）1台を設置すること。</p> <p>エアシャワーを設置すること。</p> <p>バスルーム（殺菌灯付）を設置すること。</p> <p>バスボックス（殺菌灯付）を設置すること。</p> <p>ロータリーケージワッシャー（ ）1台を設置すること。</p> <p>マウス・ラット用空調（HEPAフィルター）飼育棚（ ）を20台を設置すること。</p> <p>ウサギ用空調（HEPAフィルター）飼育棚（ ）2台を設置すること。</p> <p>検疫用空調（HEPAフィルター）飼育棚（ ）1台を設置すること。</p> <p>クリーンベンチ（ ）1台を設置すること。</p> <p>殺菌水生成装置を備えていること。</p> <p>バリア区画内の流し台には殺菌水生成装置からの水を供給すること。</p> <p>ステンレス流し台W=1500（ ）を洗浄室と床敷き処理室に設置すること（合計2台）。</p> <p>ステンレス流し台W=600（ ）を前室、後室に設置すること（合計4台）。</p> <p>実験室、クリーン実験室に実験用流し台を設置すること（合計2台）。</p> <p>その他必要な設備についても適宜設置すること。</p>					

参考レイアウト



諸室No.	06-01-25	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	職員用トイレ			室 数	1
面 積	12 m ²	程 度	標準寸法	m ×	m
用 途	研究員が利用するトイレ				
平均在室人数		人	最大在室人数		人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	男女別に設け、それぞれの大便器1据は車椅子対応にすること。				
	男子用は、大便器1据及び小便器2据を設置すること。 女子用には、大便器2据を設置すること。				

諸室No.	06-01-26	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	廃棄物保管室			室 数	1
面 積	3 m ²	程 度	標準寸法	m ×	m
用 途	廃棄物を一時保管する				
平均在室人数		人	最大在室人数		人
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装	耐水性を有し汚れにくく清掃が容易な仕上げとすること。				
特記事項	廊下から直接アクセスできるようにすること。				

諸室No.	06-01-27	種 別	臨床研究所	部 門	臨床研究所
室 名	液体窒素保管庫			室 数	1
面 積	15 m ²	程 度	標準寸法	m x	m
用 途	組織、細胞等の生体材料を保存する液体窒素の供給設備を設置する				
平均在室人数	1 人	最大在室人数	4 人		
隣接すべき室名					
近接すべき室名					
内 装					

管理・研究棟から近接した場所に、地上階、別棟で設置すること。
 地上階、別棟とし、確実に施錠できるようにすること（法令に準拠すること。）。
 換気が十分に確保されていること。
 臨床研究所実験室からのアクセスが便利なところに設置すること。
 その他、関連する法令などに準拠した建築物とすること。
 貯蔵室に酸素濃度モニター、警報装置を備えること。
 液体窒素供給モニター警報装置を備えること。
 貯蔵室外に外部液体窒素貯留タンク（ ）を設置すること（貯蔵可能量2,500リットル以上）。
 貯蔵室内に生物試料保存用液体窒素容器+供給システム（ ）を設置すること。なお、生物試料保存用液体窒素容器1個を増設可能な設備を設けること。
 液体窒素くみ出し用の蛇口をつけること。
 外部液体窒素貯留タンク（ ）から内部の生物試料保存用液体窒素容器（ ）へ供給できるシステムを構築すること。
 生物試料保存用液体窒素容器3個、持運び用液体窒素容器（外径365mm、全高635mm程度）2個、及び液体窒素保存用容器（外径260mm、全高550mm程度）3個、作業台（小）1台設置した状態で、作業員2名が作業できるスペースを確保すること。

特記事項

参考レイアウト

